

群馬縣水産試験場報告第五号  
昭和十一年十二月度

14. 24-889  
1200501163890  
001



始



1124

380

昭和十一、十二年度

群馬縣水產試驗場報告

(第五號)

1424  
885



# 昭和十一年度事業報告

發行所寄贈本

## 目次

一、鮭増殖事業	一
鮭増殖事業	一
種卵種苗配給事業	一〇
試験部	一〇
鮭池中飼育試験	二七
海産稚鮭河川増殖試験	二二
河鱒池中養殖經濟試験(其ノ一)	二六
河鱒池中養殖試験(其ノ二)	二九
鱒族飼育改良試験	三
鱒人工孵化飼育試験	三
鯉兒養成試験	三
養鱒經濟試験	三
飼餌料比較試験	三
調査並指導部	三
一、食用鱒料理講習會	三
一、鮭池中養殖ニ關スル座談會	三
一、養鱒ニ關スル座談會	三
一、水産講習	三



## 正誤表

頁	行	誤	正
一七	七	種	種
一八	五	飼	飼
一九	表計三段	一、一、三六〇	一、一、三六〇
四三	二二	七	一七、〇〇gr
五八	九	鯉(新仔)	鯉(新仔)
五八	二	取揚	取揚
六一	五	放養量ハ	放養量ト
七五	第一回運搬備考	殘一〇、〇〇尾	殘一〇、〇〇尾
一〇五	三	告	告
一〇七	三	鹽水漬三時間	鹽水漬三晝夜三時間
末尾	三名川貯水池平面圖	縮尺約五万分ノ一	縮尺約三千六百分ノ一

昭和十二年度事業報告

目次

事業ノ部

一、鯨増殖事業	.....	充
一、鮎増殖事業	.....	南
一、公魚増殖事業	.....	七
一、種卵種苗配給事業	.....	六

試験ノ部

一、海産稚鮎河川増殖試験	.....	五
一、鮎族飼育改良試験	.....	六
一、餌料ニ依ル新仔養成比較試験	.....	三
一、活ミシス移殖試験	.....	五
一、鯉燻製製造試験	.....	六
一、鯉冷凍試験	.....	六

調査竝指導ノ部

一、三名川貯水池調査	.....	二
------------	-------	---

事業ノ部

昭和十二年度事業報告

目次

事業ノ部

一、鱈増殖事業	六
一、鮎増殖事業	七
一、公魚増殖事業	七
一、種卵種苗配給事業	六

試験ノ部

一、海産稚鮎河川増殖試験	八
一、鱈族飼育改良試験	八
一、餌料ニ依ル新仔養成比較試験	一〇
一、活ミシス移殖試験	一〇
一、鯉燻製製造試験	一〇
一、鯉冷凍試験	一〇

調査並指導ノ部

一、三名川貯水池調査	一一
------------	----

事業ノ部



鱒 増 殖 事 業

一、孵化放流事業

1、孵化事業  
 本年度鱒族増殖事業トシテ本場孵化場及川場養魚場孵化場ニ收容セル鱒卵總數一、一六五、二五二粒ニシテ其内譯及孵化率ハ次表ノ如シ

種 卵 名	採 卵 地 名	收 容 日 日	收 容 卵 數	死		計 數	孵 化 尾 數	孵 化 率
				發 眼 前	發 眼 後			
虹 鱒 卵	青森縣十二湖	十一年 五月五日	五〇,〇〇〇粒	—	八,八七〇	八,八七〇	—	—
河 鱒 卵	長野縣木崎湖	—	三〇,〇〇〇	—	一六八	一六八	—	—
同 鱒 卵	栃木縣養鱒協會	—	二〇,〇〇〇	—	一,三〇〇	一,三〇〇	—	—
本 場	—	—	二〇,〇〇〇	—	六,〇〇〇	六,〇〇〇	—	—
計	—	—	一〇〇,〇〇〇	一,七四七	一,九七九	一,九七九	—	—
種 卵 名	採 卵 地 名	收 容 日 日	收 容 卵 數	死		計 數	孵 化 尾 數	孵 化 率
虹 鱒 卵	—	—	二二,五〇〇	—	—	二二,五〇〇	—	—
河 鱒 卵	—	—	七五,五〇〇	—	—	七五,五〇〇	—	—
計	—	—	九八,〇〇〇	—	—	九八,〇〇〇	—	—
種 卵 名	採 卵 地 名	收 容 日 日	收 容 卵 數	死		計 數	孵 化 尾 數	孵 化 率
虹 鱒 卵	—	—	二二,五〇〇	—	—	二二,五〇〇	—	—
河 鱒 卵	—	—	七五,五〇〇	—	—	七五,五〇〇	—	—
計	—	—	九八,〇〇〇	—	—	九八,〇〇〇	—	—

尚收容卵ノ孵化成績ヲ示セバ左表ノ如シ

A、本場 孵化

計	同	同	同	虹
	新潟縣魚沼養魚場	本場	同	朽木縣養鱒協會
	三、一八	三、三二	三、三二	三、三
	一、〇三五	一、五、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇
	五、四三三	三、六五六		
	一八、六九五	五九〇	九、八二八	九、六五〇
	一四、〇六九	六七	四、二四六	九、六〇〇
			四、二〇〇	三、三三〇
			四、一〇〇	五〇、一八二
			三、二五五	一〇、七五四
			九六八	五〇、三五〇

B、川場養魚場

備考 三月三日收容ノ八、〇〇〇粒ノウチ  
五、〇〇〇粒ハ配給ヘ充當

種卵名	採卵地名	收容月日	收容卵數	發眼前	發眼後	計數	孵化期	孵化尾數
虹鱒卵	朽木縣養鱒協會	十一年 五月八日	五〇、〇〇〇		二、六五五	一一、六五五	自五月十日	三六、三九七
河鱒卵	當場	五月三	五、〇〇〇		二、三六五	一五、二六五	自五月十日	三七、七三九
虹鱒卵	同	五月三	三九、〇〇〇	四、五八〇	二、二六三	五、八四三	自五月十日	三三、一五七
河鱒卵	朽木縣養鱒協會	五月三	五〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	自五月十日	四〇、〇〇〇
同	同	五月三	五〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	自五月十日	四〇、〇〇〇
同	同	五月三	五〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	自五月十日	四〇、〇〇〇
虹鱒卵	當場	五月九	五、〇〇〇	一〇、二〇〇	二、八九〇	一三、〇九〇	自五月十日	四四、四一〇
河鱒卵	朽木縣養鱒協會	五月一六	二〇〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	自五月十日	九〇、〇〇〇
同	山形縣水産試驗場	五月一六	二、二二七		九六	九六	自五月十日	二、二二一
同	本場	五月一七	二、三五〇	三、九八〇	一、二六三	五、二四二	自五月十日	一七、二八八

計	同	虹鱒卵
	同	同
	一、一八	一、一八
	一、〇〇〇	六六、〇〇〇
	七二、二二七	一一、五六三
	四六、六三三	三、四八五
	二五、五〇五	一五、〇四八
		至自至自
		四、一五
		三〇、七三三
		五〇、九五二

前表ニ示ス如ク各收容卵ノ孵化率甚ダシク不良ノ結果ヲ見タリ  
2、放流事業  
本年度孵化セル稚魚ハ未ダ幼小ニシテ放流ノ時期ニ至ラズ、五月收容ノ他ハ全部未放流ニテ前年度孵化兒中本年度ニ入りテ放流セルモノヲ合セ其數二五五、〇〇六尾ナリ  
鱒兒放流成績

魚種名	養成場名	放流尾數	放流月日	放流河川名	放流場所
虹鱒	川場養魚場	五四、〇八〇	四月二〇日	利根川	利根郡川田村岩本地内
同	同	八、九六〇	四月二〇日	赤根川	同 郡新治村地内
同	同	一二、三五〇	四月二〇日	薄根川	利根郡川場村湯原地内
同	本場	一〇、五〇〇	五月二日	利根川	利根郡川田村地内
河鱒	同	二四、七六二	六月五日	北甘樂川	北甘樂郡下仁田町地内
同	同	一、九六八	六月八日	碓氷川	碓氷郡松井田地内
同	同	三七、三八五	六月八日	烏川	群馬郡倉田村地内
同	同	一〇、〇〇〇	七月四日	鑄品川	北甘樂郡下仁田町地内
河鱒	川場養魚場	五、六二〇	九月九日	利根川	利根郡利南村地内
同	同	一七、八九三	九月九日	片根川	同 郡古馬牧地内
同	同	七、四五〇	九月一〇日	赤谷川	同 郡新治村地内
同	同	五、五二三	九月一〇日	赤谷川	同 郡新治村地内
同	同	二四、五五〇	九月二二日	利根川	同 郡川田村地内

虹鱒	川場養魚場	一六、二五三	九、二二	薄根川	利根郡川場村地内
計	二ヶ所	二五五、〇〇六	七ヶ川		

二、親魚養成並ニ採卵  
本場及川場養魚場ニ於テ飼育中ノ親魚及親魚候補魚ハ次ノ如シ  
親魚飼育尾數

飼育場名	虹鱒		河鱒	
	三、四年	一、二年	三、四年	一、二年
本場	三、〇〇〇尾	一、〇〇〇尾	四、〇〇〇尾	一、〇〇〇尾
川場養魚場	八三〇尾	一、〇〇〇尾	九、〇〇〇尾	四、〇〇〇尾
計	一、一三〇尾	二、〇〇〇尾	一三、〇〇〇尾	五、〇〇〇尾

右表ニ記載ノ如ク本場飼育中ノ採卵年齢ニ達セル親魚ハ三、四年生虹鱒二三尾ニシテ三月中ニ二三、〇〇〇粒ヲ採卵シ得タリ  
川場養魚場ニ於テハ二年生以上ノ河鱒三八六尾ヨリ七五、〇〇〇粒、虹鱒三、四年魚四〇九尾ヨリ一九八、五〇〇粒ノ採卵ヲ行ヒタリ其ノ成績次表ノ如シ

A、本場採卵 虹鱒採卵表

月日	採卵用親魚		累計	採卵數	累計採卵	性別	體長			體重		
	雌	雄					最大	最小	平均	最大	最小	平均
三、二二	六	三	九	一七	一八、〇〇〇	♂♀	三〇、五	二六、五	二八、五	一、五〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
三、二三	五	三	八	八、〇〇〇	一、〇〇〇	♂♀	四八、五	三五、〇	四〇、三	一、五〇〇	一、三二〇	一、二六五
計	一一	六	一七	一八、〇〇〇	一九、〇〇〇	♂♀	三〇、五	二六、五	二八、五	一、五〇〇	一、三二〇	一、二六五

B、川場養魚場ノ部

月日	採卵用親魚		累計	採卵數	累計採卵	性別	體長			體重		
	雌	雄					最大	最小	平均	最大	最小	平均
三、二二	二六	二二	三八六	一、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四二、〇	三二、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
三、二四	二七	二二	三八六	一九九、五〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四二、〇	三二、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、三一	二〇	五	三八六	一〇、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、三〇	二七	八	三八六	二五、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、二八	八四	三三	三八六	五五、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、二七	二五	一〇	三八六	二二、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、一九	四〇	一八	三八六	三三、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、一八	三六	一八	三八六	二七、五〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、一五	三六	一八	三八六	二七、五〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
一、一四	一四	八	三八六	一五、〇〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇
計	二八九	二二〇	三八六	二二二、五〇〇	一九八、五〇〇	♂♀	四三、〇	三三、〇	三六、〇	一、四三〇	一、〇六〇	一、二〇〇

河鱒採卵表



月日	採卵用親魚		累計	採卵數	採卵計	性別	體長			體重		
	雌	雄					最大	最小	平均	最大	最小	平均
十一年	四	三	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二〇	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二一	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二二	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二三	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二四	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二五	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二六	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二七	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二八	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
二九	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三〇	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三一	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三二	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三三	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三四	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三五	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三六	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三七	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三八	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
三九	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四〇	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四一	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四二	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四三	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四四	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四五	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四六	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四七	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四八	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
四九	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
五〇	三	二	六	一五,〇〇〇	一	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇
計	二〇〇	九	二九	七五,五〇〇	七五,五〇〇	♂♀	三三,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇	三六,〇〇	一六,〇〇	二五,〇〇

鮎増殖事業

一、小鮎放流事業  
 前年度ヨリノ繼續事業ニ屬シ琵琶湖産小鮎十八萬三千尾ヲ滋賀縣ヨリ購入セル外連絡試験ニ屬スル神奈川縣三浦郡産海産稚鮎四萬六千尾ヲ中央水産試験場ヨリ無償交付ヲ受ケ左表ニ依リ放流ヲ實施シタリ。而シテ本年度ニ於ケル琵琶湖産小鮎ハ例年ニ比シ著シク小型ニシテ平均重量〇、八ダアリ輸送成績亦概シテ不良ニシテ四萬尾ノ補償輸送ヲ受ケタル狀況ナリ  
 A、琵琶湖産小鮎

輸送番號	東	放流時刻	放流場所	放流	斃死	運搬中	放流場所	備考
第一號	沙留驛發	午前七時三十分	北甘樂郡福島町地先甘樂橋	尾數	尾數	ノ水温	水温	
第一號	午前七時三十分	午前十一時	北甘樂郡福島町地先甘樂橋	二〇,〇〇〇	八,五〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	損傷魚多ク輸送成績不良ナリ
第二號	午前七時三十分	午前十一時	北甘樂郡福島町地先甘樂橋	二〇,〇〇〇	八,五〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	

第二回放流 昭和十一年四月二十八日

第一號	午前七時三十分	午前十一時	北甘樂郡福島町地先甘樂橋	尾數	斃死	運搬中	水温	備考
第一號	午前七時三十分	午前十一時	北甘樂郡福島町地先甘樂橋	二〇,〇〇〇	八,五〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	第一回同様不良ナリ
第二號	午前七時三十分	午前十一時	北甘樂郡福島町地先甘樂橋	二〇,〇〇〇	八,五〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	

第三回放流 昭和十一年五月二日

第一號	午前七時	午前十一時	北甘樂郡下仁田町外十ヶ所	尾數	斃死	運搬中	水温	備考
第一號	午前七時	午前十一時	北甘樂郡下仁田町外十ヶ所	二〇,〇〇〇	九,二〇〇	一〇,八〇〇	一〇,〇〇〇	
第二號	午前七時	午前十一時	北甘樂郡富岡町地先外五ヶ所	二〇,〇〇〇	九,九五六	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	

第四回放流 昭和十一年五月八日

第一號	午前七時	午前十一時	多野郡万場地先外四ヶ所	尾數	斃死	運搬中	水温	備考
第一號	午前七時	午前十一時	多野郡万場地先外四ヶ所	二〇,〇〇〇	九,九六八	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	鮎苗優良輸送成績亦良好
第二號	午前七時	午前十一時	碓氷郡安中町地先外二ヶ所	二〇,〇〇〇	九,九六八	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	

第五回放流 昭和十一年五月十一日

第一號	午前七時	午前十一時	群馬郡白雉井村	尾數	斃死	運搬中	水温	備考
第一號	午前七時	午前十一時	群馬郡白雉井村	二〇,〇〇〇	八,八〇〇	一〇,二〇〇	一〇,〇〇〇	鮎苗概シテ不良ナリ
第二號	午前七時	午前十一時	利根郡新治村	二〇,〇〇〇	九,四〇〇	一〇,六〇〇	一〇,〇〇〇	
第三號	午前七時四十分	午後一時十分	群馬郡里見村	二〇,〇〇〇	八,五〇〇	一〇,五〇〇	一〇,〇〇〇	

第六回放流 昭和十一年五月十一日

第一號	午前七時	午前十一時	群馬郡白雉井村	尾數	斃死	運搬中	水温	備考
第一號	午前七時	午前十一時	群馬郡白雉井村	二〇,〇〇〇	八,八〇〇	一〇,二〇〇	一〇,〇〇〇	鮎苗概シテ不良ナリ
第二號	午前七時	午前十一時	利根郡新治村	二〇,〇〇〇	九,四〇〇	一〇,六〇〇	一〇,〇〇〇	
第三號	午前七時四十分	午後一時十分	群馬郡里見村	二〇,〇〇〇	八,五〇〇	一〇,五〇〇	一〇,〇〇〇	

第四號	午前七時四十分	午後十一時	北甘樂郡下仁田町地先外 六ヶ所	西南牧川	10,000	9,000	1,000	10,000	0.8	
計					40,000	35,700	4,300			

第六回放流 昭和十一年五月十三日

第一號	午前七時	午後十一時	利根郡利南村 東村	利根川	10,000	9,950	50	10,000	0.995	
第二號	午前七時	午後十一時	利根郡利南村 東村	利根川	10,000	9,940	60	10,000	0.994	
計					20,000	19,890	110			

第七回放流 昭和十一年五月十五日

第一號	午前七時	午後零時五十分	利根郡桃野村	利根川	10,000	3,000	7,000	9,500	0.95	
第二號	午前七時	午後零時三十分	利根郡川田村	同	10,000	2,670	7,330	9,500	0.95	
第三號	午前七時三十分	午後十一時	本場	蓄養池	10,000	10,000	0	10,000	1.0	
計					30,000	5,670	24,330	29,000		

第八回放流 昭和十一年五月二十二日

第一號	午前七時	午前十一時五十分	利根郡利南村外三ヶ所	片品川	10,000	9,985	15	10,000	0.9985	
第二號	午前七時三十分	午前十一時	群馬郡藤川町	利根川	30,000	29,985	15	30,000	0.9995	
計					40,000	39,970	30	40,000		

B、海産稚鮎

輸送回數	月日	放流時刻	放流場所	運搬尾數	放流尾數	斃死尾數	斃死ノ水温	放流場ノ水温	備考
第一回	五月一日	午前六時	多野郡上野村地内神流川	10,000	10,000	3	9.0	19.0	
第二回	五月七日	午前五時三十分	多野郡上野村地内神流川	26,500	26,000	500	10.5	23.0	
第三回	五月十二日	午前五時三十分	多野郡上野村地内神流川	10,065	10,000	65	9.5	24.0	
計				46,565	46,000	598			

尚之ヲ河川別ニ示セバ次表ノ如シ

河川名	運搬尾數	斃死尾數	放流尾數	地區別	備考
利根川	15,000	14,330	10,670	利根漁業組合地區	琵琶湖産
赤谷川	10,000	600	9,400	阪東水産會地區	琵琶湖産
片品川	15,000	55	14,945		
利根川	60,000	22,100	37,900	阪東水産會地區	琵琶湖産
計	60,000	22,100	37,900		
烏川	10,000	2,000	8,000	兩川漁業組合地區	琵琶湖産
碓氷川	10,000	1	10,000		
計	20,000	2,001	18,000		
鑄川	30,000	3,240	26,760	東鑄漁業組合地區	琵琶湖産
計	30,000	3,240	26,760		
鑄川支流	30,000	3,880	26,120	鑄川漁業組合地區	琵琶湖産
計	30,000	3,880	26,120		

計	流川	五,五七七	五,五七七	六九	六九	五,五二二	南甘漁業組合地區	琵琶湖産一〇,〇〇〇尾	海産四六,五九七尾
---	----	-------	-------	----	----	-------	----------	-------------	-----------

二、鮎人工孵化放流事業  
前年度同様岐阜縣長良川水産會ヨリ鮎卵一十萬粒ヲ購入左表ノ通り孵化放流セリ

收容月日	收容卵數	發眼月日	孵化開始	孵化終了	孵化率	放流尾數	孵化水溫
十月九日	八〇萬粒	十月二十日	十月廿五日	十月二十九日	八〇%	六四萬尾	最高一七、〇〇 最低一二、〇〇

(一) 前橋孵化場 勢多郡南橋村大字上小出地先利根川

收容月日	收容卵數	發眼月日	孵化開始	孵化終了	孵化率	放流尾數	孵化水溫
十月九日	九二〇萬粒	十月十八日	十月廿四日	十月二十八日	八〇%	七三六萬尾	最高一七、〇〇 最低一二、五〇

種卵種苗配給事業

種卵種苗需給ノ圓滑統制ヲ圖ルタメ各魚種ノ種卵種苗ノ有償配給及購入ノ斡旋ヲナセリ。各魚種別配給ハ左表ノ如シ

住配	所給	氏先	名	大配給魚サノ	數量	月配給	日給	生産場所	備	考
多野郡	平井村	新井	常彦	一寸	一、五〇〇	七、八	本	同	同	同
高崎市	貝澤	高橋	利三郎	一寸	一〇、〇〇〇	七、七	同	同	同	同
群馬郡	駒寄村	壁田	房吉	一、五寸	一、〇〇〇	七、五	同	同	同	同
新田郡	生品村	黒田	熊之助	同	五、〇〇〇	七、七	同	同	同	同

群馬郡	總社町	持木	熊重	同	二、五〇〇	七、八	同	同	同	稻田養鯉
同	同	津田	米市	同	二、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	持木	晴作	同	二、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	都丸	武雄	同	一、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	阿久津	朋次郎	同	一、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	戸谷	虎次郎	同	一、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	山宮	喜市	同	二、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	中島	富太	同	二、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	馬場	力造	同	一、〇〇〇	七、九	同	同	同	同
同	同	木原	作造	同	五〇〇	七、九	同	同	同	同
同	同	小原	學校	同	一、五〇〇	七、四	同	同	同	稻田養鯉苗無償交付
同	同	岡村	倉吉	同	一、〇〇〇	七、八	同	同	同	稻田養鯉苗
同	同	持木	文四郎	同	五〇〇	七、八	同	同	同	同
同	同	島崎	正一	同	七〇〇	七、〇	同	同	同	同
多野郡	美九里村	廣澤	農會	同	三、五〇〇	七、八	同	同	同	稻田養鯉苗無償交付
山田郡	廣澤村	青年	學校	同	二、五〇〇	七、四	同	同	同	稻田養鯉苗無償交付
群馬郡	新高尾村	石島	平八郎	同	四、〇〇〇	七、五	同	同	同	稻田養鯉苗
邑樂郡	高嶋村	根岸	博	一、五寸	三、〇〇〇	七、八	同	同	同	同
群馬郡	總社町	小學	校	同	二、〇〇〇	七、八	同	同	同	稻田養鯉苗無償交付
同	同	吉田	源造	同	一、〇〇〇	七、九	同	同	同	同
同	同	都丸	勝造	同	一、〇〇〇	七、九	同	同	同	同
同	同	島田	竹七	同	一、〇〇〇	七、九	同	同	同	同
同	同	泉關	寶信	同	一、〇〇〇	七、九	同	同	同	同
同	同	久保	原茂	同	五〇〇	七、九	同	同	同	同

住配	所給	氏先	種類	數量	月配日給	生産場所	備考
前橋市	男子師範學校	橋爪古市	一	二,000	七、三	同	教材用無償
多野郡	多胡村	永井忠次	同	三,000	七、四	同	稻田養鯉苗
群馬郡	總社町	新井常彦	同	一,500	七、四	同	同
同	上陽村	小井學	同	二,000	七、九	同	同
佐波郡	南橋村	桃川小學	同	三,000	七、七	同	稻田養鯉苗、生徒實習用
勢多郡	南橋村	立見藤太	同	五,000	七、七	同	同
群馬郡	總社町	計	一、五寸	一〇九,七〇〇	一、九	同	池中養殖用

二、鯉兒ノ配給(新仔ノ部)

住配	所給	氏先	種類	數量	月配日給	生産場所	備考
多野郡	藤岡町	三名川貯水池養魚組合	一尾三寸	二五,〇〇〇	九、八	總社町稻田養魚組合	原苗ハ本場ヨリ配給
同	郡万場町	新井文雄	新仔	七,五〇〇	二、二	本場	池中養殖用
同	同	同人	切仔	四,〇〇〇	二、二	同	親魚用
邑樂郡	多々良村	日向村養魚組合	新仔	一五,〇〇〇	三、六	同	組合地區内放養
同	郡三野谷村	近藤沼漁業組合	同	五〇,〇〇〇	一、八	同	同
神奈川縣	計	計	同	九〇,〇〇〇	一、八	同	池中養殖用
計	計	計	計	三六,五〇〇	計	計	計

三、鯉卵ノ部

住配	所給	氏先	種類	數量	月配日給	生産場所	備考
利根郡	水上村	木村喜作	虹鯉卵	九,八〇〇	五、七	水産試験場木崎分場	購入幹旋
同	郡久呂保村	藤井覺一郎	同	五,〇〇〇	四、七	本場	有償配布
勢多郡	敷島村	須田定平	同	二,〇〇〇	四、三	同	同
利根郡	水上村	木村喜作	同	三〇,〇〇〇	三、〇	栃木縣養鯉協會	購入幹旋
同	同	田村美雄	同	二〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	同	田村經三郎	同	二〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	同	阿部留吉	同	一〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	同	須藤吉太郎	同	五,〇〇〇	三、〇	同	同
同	同	小野覺内	同	一〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	同	林健	同	五,〇〇〇	三、〇	同	同
同	川場村	井之上久一郎	同	三〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	同	高山鈴之助	同	一〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	郡東村	石原菊薫	同	一〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	郡利南村	山田徳十郎	同	一〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	郡赤城根村	林一	同	五,〇〇〇	三、九	同	同
同	郡久呂保村	藤井覺一郎	同	五,〇〇〇	三、九	同	同
同	郡草津町	重田角藏	同	一〇,〇〇〇	三、〇	同	同
同	郡婦懸村	深井勝太郎	同	五,〇〇〇	三、〇	同	同
計	計	計	計	二〇一,八〇〇	計	計	計

四、鯉稚魚ノ部

住配	所給	氏先	種類	數量	月配日給	生産場所	備考
利根郡	水上村	養鯉組合	河鯉二寸	一六,〇〇〇	五、五	栃木縣養鯉協會	購入幹旋



試 験 ノ 部

六、其 他

住 配		所 給	氏 先	名	魚 種	數 量	月 日	産 地	備 考
住	配								
新田郡	藪塚本町		今井	伊太郎	公魚卵	二、四〇〇、〇〇〇 個	二月五日	茨城縣	
勢多郡	宮城村		北爪	安衛	公魚卵	一〇〇、〇〇〇 個	七月六日	高崎市	
計									
八、五〇〇									

試 験 ノ 部

六、其 他

計	八、五〇〇
---	-------

仕 配	所 給	氏 先	名	魚 種	數 量	月 日	産 地	備 考
新田郡藪塚本町	今井伊太郎	公	魚卵	二四〇、〇〇〇	二、五	茨城縣		
勢多郡宮城村	北爪安衛	中	鰻	一〇、〇〇〇	七、六	高崎市魚龜		

鮎池中飼育試験

目的  
産地別ニ依ル鮎ノ池中飼育ヲ行ヒ其ノ成長度歩留其ノ他ニ就キ比較試験ヲ實施セリ

一、種 苗  
琵琶湖産小鮎・江戸川産小鮎並海産稚鮎ニツキ試験ス。琵琶湖産小鮎ハ嘗テ見サル小型ニシテ一尾平均一匁ニ達セサルモノニシテ江戸川産ハ東京府下江戸川海産稚鮎ハ神奈川県三浦郡長井町地先ニ於テ採捕蓄養セルモノナリ  
放養當時ニ於ケル種蓄ノ大キサ次ノ如シ

種 苗 別	最大型			小型			平均			備 考
	全長	體高	體重	全長	體高	體重	全長	體高	體重	
琵琶湖産小鮎	二、三、〇 cm	一、五、五 cm	五、二、五 gr	七、一、〇 cm	一、〇、〇 cm	二、二、五 gr	七、九、〇 cm	一、三、〇 cm	三、〇、〇 gr	二十尾測定
江戸川産小鮎	一、四、〇 cm	一、五、五 cm	七、七、五 gr	七、〇、〇 cm	〇、九、〇 cm	二、二、五 gr	八、一、〇 cm	一、一、〇 cm	三、二、九 gr	二十尾測定
海産稚鮎	八、八 cm	一、四、四 cm	四、七、五 gr	六、七、七 cm	一、〇、五 cm	二、一、〇 gr	七、三、三 cm	一、一、一 cm	二、六、七 gr	二十尾測定

二、放 養 尾 數  
放養尾數ハ其ノ割合ヲ一定スル筈ナリシモ海産稚鮎不足セルヲ以テ琵琶湖産小鮎並江戸川産小鮎ハ坪當各七十尾、海産稚鮎ハ其ノ半數三十五尾ヲ放養ス

種 苗	試 験 池 面 積	放 養 尾 數	坪 當 放 養 尾 數
琵琶湖産小鮎	第一號	七、〇七〇尾	七〇尾
江戸川産小鮎	第二號	四、四八〇尾	七〇尾
海産稚鮎	第三號	二、四五〇尾	三五尾

三、飼育期間



種苗別	放養月日	取揚月日	飼育日數	給餌日數	備考
琵琶湖産小鮎	五月十三日	九月五日	一一六日	一〇九日	給餌日數ノ異ルハ此ノ間臨時捕上
江戸川産小鮎	五月十三日	九月五日	一一六日	一〇八日	ヲナセル爲給餌ヲ中止セルニヨル
海産稚鮎	五月十三日	九月五日	一一六日	一〇五日	モノナリ

四、餌料ト投餌料  
 餌料ノ種類ハ生飼、小割麥、魴、魚粉、蟹、琴蟲、胡瓜ニシテ其ノ混合割合ヲ一定シ撒餌トシテ是ヲ與ヘタリ  
 月別投餌量ヲ示セバ次ノ如シ  
 琵琶湖産小鮎

月別	生飼	小割麥	魴	魚粉	蟹	琴蟲	胡瓜	計
五月	六,八〇〇	二,三〇六	四,六五〇	一,九〇〇	—	—	—	一三,三五〇
六月	二五,一六〇	二,三〇六	一五,〇一五	一,七一〇	—	—	—	四四,九五〇
七月	四六,八八〇	三六,二二五	二六,五五五	一,二一〇	四,二〇〇	—	—	一三三,五〇〇
八月	二九,四七五	三七,八二〇	一九,二二五	—	—	—	—	八六,五〇〇
九月	—	四,九九五	二,五〇五	—	—	—	—	七,五〇〇
計	一〇八,三二五	一〇三,九九五	一六七,九〇〇	四,七三〇	四,二〇〇	四,六七〇	二,〇〇〇	二九三,八〇〇

江戸川産小鮎

月別	生飼	小割麥	魴	魚粉	蟹	琴蟲	胡瓜	計
五月	九,六〇〇	—	五,七〇〇	二,八五〇	—	—	—	一八,一五〇
六月	三,五〇〇	三,三七五	二〇,六二〇	六,一四五	二,七六〇	—	—	六八,八〇〇

月別	計
七月	四七,一六〇
八月	二三,九二五
九月	—
計	二四,一八五

海産稚鮎

月別	生飼	小割麥	魴	魚粉	蟹	琴蟲	胡瓜	計
五月	六,八〇〇	—	四,六五〇	一,九〇〇	—	—	—	一三,三五〇
六月	二五,一六〇	二,三〇六	一五,〇一五	一,七一〇	—	—	—	四四,九五〇
七月	四六,八八〇	三六,二二五	二六,五五五	一,二一〇	四,二〇〇	—	—	一三三,五〇〇
八月	二九,四七五	三七,八二〇	一九,二二五	—	—	—	—	八六,五〇〇
九月	—	四,九九五	二,五〇五	—	—	—	—	七,五〇〇
計	一〇八,三二五	一〇三,九九五	一六七,九〇〇	四,七三〇	四,二〇〇	四,六七〇	二,〇〇〇	二九三,八〇〇

五、成長度  
 成長度ノ調査ハ一ヶ月毎ニ之ヲ施行セリ、各試験池ヨリ十尾宛ヲ釣獲シコレヲ測定シタルヲ以テ魚體成長ノ大體ノ趨勢ヲ知ルニ止マレリ

種別	測定月日	體長	體高	體重	全長	體高	體重
琵琶湖産	第一回	最大型	一一.七cm	二.一cm	一一.七g	—	—
	第十回	最小型	一〇.〇cm	一.八cm	八.〇g	—	—
江戸川産	第一回	最大型	一一.七cm	二.一cm	一一.七g	—	—
	第十回	最小型	一〇.〇cm	一.八cm	九.五g	—	—
海産	第一回	最大型	一一.七cm	二.一cm	一一.七g	—	—
	第十回	最小型	一〇.〇cm	一.八cm	八.五g	—	—

定測日	平均	最小型	最大型	平均	最小型	最大型	平均	最小型	最大型
第三回 八月十五日	一七、〇	一四、八	一九、五	三、四	二、九	三、八	四、五	二、五	五、〇
第二回 七月三十日	二〇、八	一七、七	二二、九	二、七	二、二	二、九	二、九	二、五	三、〇
第一回 三日	二〇、八	一七、七	二二、九	二、七	二、二	二、九	二、九	二、五	三、〇

六、取揚

種別	放養尾數	取揚尾數	減耗		計數
			斃死	行衛不明	
琵琶湖産	七、〇七〇尾	五、三一七尾	二、三三三尾	一、五二〇尾	一、七五三尾
江川産	四、四八〇尾	三、六七四尾	三、四尾	七、七二尾	八〇六尾
海産稚鮎	二、四五〇尾	二、二七一尾	一、六尾	一、六三尾	一、七九尾

七、結果

種別	成長率	一尾平均ノ投餌量	同價格	減耗率	
				餌料一〇〇尾ニ對スル増肉係數	減耗率
琵琶湖産	一一、〇	三二、四	一、八	一一、八	二四、七%
江川産	九、三	二九、五	一、七	一〇、四	一八、〇%
海産稚鮎	一三、四	四六、〇	二、六	七、七	七、三%

八、摘要

- 成長率 一見海産稚鮎優位ニアルガ如キモ放養尾數半減セル點ヨリ見ルトキハ寧ロ琵琶湖産小鮎優レリ
- 投餌量 一尾當ノ總投餌量ハ海産稚鮎最モ多ク琵琶湖産、江川産ノ順位ナリ、海産稚鮎ノ投餌量多キハ三月中ニ種苗ヲ購入他ノ池ニ於テ飼育シ淘汰ヲ行ヒタルモノノ中ヨリ優良ナルモノノミヲ撰出シ試験ニ供シタルヲ以テ他ニ比シ捕食量多キ結果ヲ見タリ
- 増肉係數 琵琶湖産最モ優レ江川産、海産ノ順位ナリ
- 減耗率 琵琶湖産最モ多ク二四、七%ニ達シ海産稚鮎最モ少ク七、三%ナリ之カ原因ハ琵琶湖産ハ嘗ツテ見サル小型(平均一尾〇、八匁)ナルノミナラズ原産地ニ於ケル取扱不良ノ爲ニシテ海産稚鮎ノ減耗率少キハ前掲ノ通り淘汰後ノモノヲ試験セル結果ニ依ル

海産稚鮎河川増殖試験

- 一、趣旨 本試験ハ前年度ヨリノ繼續試験ニ屬シ海産稚鮎ノ利用價值、特ニ漁獲成績調査ニ重點ヲ置キタルモノニシテ試験第四年目(當試験區ニ於テハ三年目)ニ該當ス
- 二、放流河川 放流河川ハ前年度同様縣下多野郡上野村地内神流川ニシテ河川ノ狀況其ノ他ニ關シテハ曩ニ本場報告書ニ詳報セル通ナリ
- 三、稚鮎ノ放流 稚鮎ハ農林省水産試験場ノ韓旋ニ依リ、神奈川縣三浦郡小多和灣附近ニ於テ捕獲蓄養セルモノ約四萬六千尾ヲ約九時間ヲ要シ貨物自動車ヲ以テ運搬前後三回ニ互リ左ノ通り放流セリ

第一回放流 昭和十一年五月一日

天候	放流時刻	放流地點	放流尾數	運搬中ノ斃死尾數	運搬水溫	放流水溫	當時水溫
晴	午後三時	多野郡上野村大字新羽地先	五,000尾	二尾	九,0	一九,0	三二,二
晴	午後三時五十分	多野郡上野村大字乙母地先	五,000尾	二尾	九,0	一八,0	三二,五

第二回放流 昭和十一年五月七日

晴	午後二時三十分	多野郡上野村藤澤口	一八,000尾	五,000尾	一〇,0	三三,0	三三,0
---	---------	-----------	---------	--------	------	------	------

第三回放流 昭和十一年五月十二日

晴	午後二時四十分	多野郡上野村大字勝山	九,000尾	三尾	九,五	二四,0	一九,五
晴	午後二時四十分	多野郡上野村大字乙父	九,000尾	四尾	二,五	二五,0	一九,0
計			四六,000尾	五七尾			

尙放流稚鮎ノ大キサハ前年ト大差ナキモ色素不完全ナルモノ少數混入セル程度ニシテ種苗トシテ概シテ優良ナリ、放流魚ノ大キサ次表ノ如シ

放流別	放流尾數	全長			體高			備考
		最大	最小	平均	最大	最小	平均	
第一回	一〇,000尾	一〇,四	四,九	六,七	七,七	〇,六	任意二〇尾測定	
第二回	一八,000尾	六,七	四,五	五,八	二,〇	〇,五	任意三〇尾測定	
第三回	一八,000尾	八,八	四,六	六,七	五,五	〇,六	任意三〇尾測定	

四、鮎ノ移動狀況

移動範圍ハ大體ニ於テ過去二年ト略同様ニシテ上流ハ約四里即チ濱平附近ニシテ下流ハ約一里ノ流域ナリ、唯本年度ニ於ケル異例ハ過去二年ニ於テハ各支流ヘノ自然遡上ハ全ク見ザリシモ本年度ニ於テハ放流地點ヨリ約二里上流ニ當ル鹽澤ハ

五、成長度

少數ノ遡上ヲ見タルコトナリ、之ヲ要スルニ同一水系ニ於テハ鮎ノ移動ハ年ニ依ツテ大ナル變化ナク本試験區ニ於テハ移動範圍五里以內トス  
成長度ノ調査ハ漁夫ヲシテ捕採セシメ各月二回宛之ヲ施行シタリ其ノ狀況次表ノ如シ

調査月日	最大			最小			備考
	全長	體高	重量	全長	體高	重量	
五月十五日	七,八	一,七五	三,〇	六,二	一,〇	一,四	五尾
六月十二日	一四,二	二,八	三,〇	九,〇	一,四	五,〇	六尾
六月十五日	一〇,八	一,九	一,〇	一〇,〇	一,六	五,〇	五尾
六月二十五日	二,七	二,三	一,六	一〇,二	一,八	七,五	七尾
七月七日	一五,五	三,五	四,〇	一一,二	二,一	三,三	八尾
七月二十二日	一八,九	三,九	五,〇	一八,五	三,四	四,八	五尾
八月二日	二,七	四,四	一,八	二,七	四,四	一,〇	一尾
八月二十三日	二,七	四,三	一,〇	二,七	四,三	一,〇	一尾
九月七日	二四,五	五,一	一,八	二四,五	五,一	一,八	一尾
九月二十七日	二,八	四,二	一,四	二,四	三,八	〇,〇	三尾

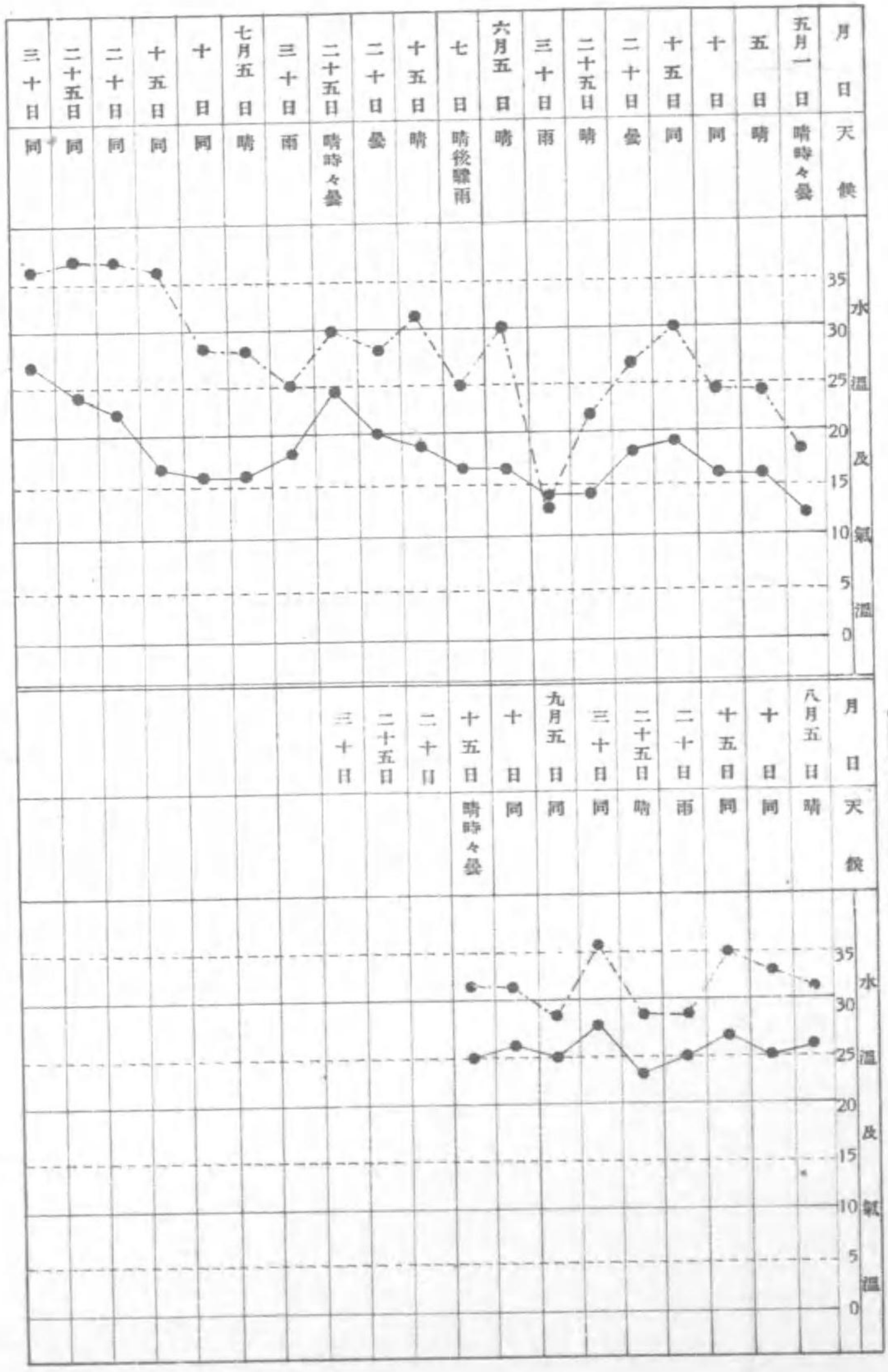
六、漁獲高

本年度ハ特ニ漁獲高ノ正確ヲ期セムガ爲豫メ調査表ヲ作製各漁業者ニ配布シ各部落毎ニ調査員ヲ囑託シ十日毎ニ擔當部落ノ漁業者ノ調査表ヲ取集セシメ其ノ都度コレヲ地元役場へ提出セシメ更ニコレヲ本場へ送付スルノ方法ヲ採レリ  
本年度ノ解禁ハ地元ノ申合セニ依リ七月一日ニシテ九月下旬ヲ以テ漁業ヲ終了セリ、旬別最多従業者數七十九人ニシテ漁法ハ前年度同様友釣、投網、引掛罾ナリ  
漁獲總尾數二九,四〇九尾、總貫數三五六貫七二五匁ニシテ放流尾數ニ對スル漁獲率ハ六割四分六厘強ニ該當シ豫期以上ノ好成績ヲ收ムルコトヲ得タリ

累計	八月			累計	七月			累計	六月			月旬別	從業者	尾數	貫數	備考
	下旬	中旬	上旬		下旬	中旬	上旬		下旬	中旬	上旬					
二七、〇七二	三八	五九	七九	三、四九三	二九	一四	一〇	二二	七	一五	一	一〇八	同	調査ノタメ採捕		
三一九、一七五	二八	一、九七	一七〇、七二六	三七、二〇四	三一、六五五	四、〇四六	一、三九五	一〇八	三三	七五	一	一〇八	同	七月一日解禁		
	三、八四二	五、二三二	一四、五〇四	三、四七一	二、七九七	四、二五	二、四九									
	二、三、五七九	三、八四二	五、二三二	三、四七一	二、七九七	四、二五	二、四九									

築ハ調査上最モ期待シ居リタルトコロナルモ九月二十七日ノ大出水ノ爲染手ヲ流失セラレ染ニ依ル漁獲高ハ全期ヲ通ジ僅  
 二二六尾、四貫二五〇匁ニ終リタルハ誠ニ遺憾トスル所ナリ  
 本流域ニ於ケル漁獲ノ盛期ハ八月ニシテ二三、五七九尾即チ總漁獲高ノ八割ヲ占メ七月九月ノ順位トス、八月特ニ漁獲高  
 ノ多キハ八月一日ヨリ引掛漁業ノ解禁ニ基因スルモノナリ  
 尚旬別漁獲高ヲ詳記スレバ次表ノ如シ

神流川水温観測表



累 年	計	九 月		
		下 旬	中 旬	上 旬
		二	一一	二六
二九、四〇八	二、三三七	七一	五七〇	一、六九六
三五六、七二五	三七、五五〇	一、七〇〇	九、七六七	二六、〇八三

河鱒池中養殖經濟試驗 (其ノ一)

一、目的  
 河鱒養殖ニ關スル經濟試驗ヲ實施シ當業者經營ノ指針ヲラシメムトス

二、試驗ノ場所  
 利根郡川場村大字天神、群馬縣水產試驗場川場養魚場

三、試驗ノ方法  
 川場養魚場ニ於テ孵化一寸五分内外ニ養成シタル河鱒稚魚四千尾ニ就キ之カ養成試驗ヲ行ヒ販賣魚ニ達スル迄ノ經濟關係ヲ調査セリ

四、試驗池  
 試驗池ハ六、七號池二面ヲ使用ス面積各五、一坪注水量約〇、三個水深二尺乃至二尺五寸ナリ

五、試驗期間  
 昭和十一年六月二十日ヨリ翌昭和十二年六月二十日ニ至ル滿一ケ年

六、試驗經過  
 試驗開始當時ハ稚魚全部ヲ第七號池面積五、一坪ニ收容シ飼育セルモ稚魚ノ成長ト共ニ池面ノ狹隘ヲ來シタルノミナラス大小可成ノ差ヲ生ジタルヲ以テ十二月一日ニ至リ一旦全部ヲ捕上大小ノ撰別ヲ實施シ且ツコレト同時ニ步減數ヲ調査セリ捕上總數三、五二六尾ニシテ試驗開始後一六四日(約五ヶ月)ニ於ケル步減四七四尾ニシテ總數ノ約一割一分八厘強ニ該當セリ

而シテ大小二口ニ撰別シタル魚兒ハ大口一、七三七尾ヲ七號池ニ小口一、七八九尾ヲ六號池ニ分容シ試驗ヲ繼續セリ大口ハ四寸乃至五寸五分、小口ハ二寸五分乃至四寸ナリ

昭和十二年五月十日ニ至リ再ビ二面全部ヲ捕上第二回目ノ步減調査ヲ行ヒタルニ捕上總數三、二三七尾ニシテ一五九日間ニ於ケル減耗數二八九尾ヲ見タリ

右調査ニ於テ六寸乃至七寸五分ニ成長セルモノ一、三一五尾ハコレヲ販賣魚トシテ除去シ該試驗ヲ打切り三寸乃至五寸五分ノ殘魚一、九二二尾ハ第七號池ニ收容更ニ飼育試驗ヲ續行六月二十日即チ滿一ケ年ヲ以テ本試驗ヲ終了セリ

取揚總數一、八八二尾ニシテ此ノ内六寸乃至七寸モノ八七六尾四寸乃至五寸五分モノ一、〇〇六尾ニシテ此ノ間ニ於ケル步減數四〇尾ヲ見タリ

七、飼料ノ種類ト同別投餌量

飼料ハ在庫品ノ種類及數量ノ關係ニヨリ配合率並投餌量等一定セサルモ大麥、小麥粉、野菜、魷、蛸、豚肝臟其ノ他ノ混合飼料ニシテ月別投餌量次表ノ如シ

月別	大麥 (煮上)	小麥粉	野菜	魷	乾燥蛸	豚肝臟	琴蟲	蠶	干蟹	魚粉	計	備考
昭和十一年六月	三〇〇	三〇〇	一五〇	七三〇		三〇〇					二、七三〇	
七月	一、三〇〇	一、三〇〇	六〇〇	四、二〇〇		九〇〇					八、四〇〇	
八月	二、五〇〇	二、五〇〇	八〇〇	六、五〇〇		六〇〇			五〇〇		一三、四〇〇	
九月	一〇、一〇〇	一、五〇〇	一、一〇〇	八五〇		一、五〇〇					一五、一五〇	
十月	七、一〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇	五、四〇〇		一、二〇〇					一八、三〇〇	
十一月	一五、五〇〇	三、〇五〇	一、五〇〇	七、五〇〇		一、五〇〇					二九、〇五〇	
十二月	一八、〇〇〇	三、六〇〇	一、八〇〇	九、〇〇〇		一、五〇〇					三六、一〇〇	
昭和十二年一月	二一、一〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇、六〇〇		二、四〇〇					四四、〇〇〇	
二月	三〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、八〇〇			二、五〇〇					四九、八〇〇	斃死魚多キヲ以テ投餌減少
三月	二二、六〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇			三、〇〇〇					三五、一〇〇	
四月	三二、四〇〇	三、一〇〇	一、五〇〇	六、二〇〇							二九、七〇〇	
五月	七、五〇〇	一、五〇〇	八〇〇								一三、三〇〇	
六月	五、一〇〇	一、〇〇〇	六〇〇								八、九〇〇	二十日迄
計	一五二、七三〇	三五、一八〇	一五、五〇〇	五、九〇〇	二六、〇〇〇	九、四四〇	三五〇	三、七六〇	五〇〇	一〇、五〇〇	三三〇、九五〇	

尚餌料別金額次ノ如シ

品名	總投餌量	單價	金額	備考
大麥(煮上)	一五二、七三〇	一貫目	一四、三	
			二、一七八	
			精麥四五、〇〇〇	

計	魚	蟹	鱈	琴	豚	乾	鮎	野	小
	粉			肝	燥	菜			
	一〇、五〇〇	五〇〇	一二、七六〇	三、五〇〇	九、四四〇	一六、〇〇〇	五〇、九八〇	一五、五一〇	三五、一八〇
	同	同	同	十貫目	一貫目	同	十貫目	同	同
	八、五〇	三、五〇	三、〇〇	三、五〇	五、〇〇	三、八〇	五、〇〇	〇、五〇	二八、一四〇
	八、九三	一、一八	三、一七	四、七二	六、〇八	二五、四九	七、八		
	九九、四〇								

八、結果

1. 放養尾數四千尾ニ對スル生産尾數三、一九七尾ニシテ試驗期日滿一ヶ年間ニ於ケル歩減八〇三尾約二割ノ減耗ヲ見タリ 尙坪當生産尾數ハ三一〇尾餘ニ該當ス
  2. 此ノ内六寸以上ノモノ二、一九一尾(一尾約十六匁平均)六寸以下ノモノ一、〇〇六尾(一尾約十匁平均)ニシテ六寸以上ノモノハ一尾拾貳錢六寸以下ノモノハ一尾拾錢ニテ販賣セルヲ以テ計金參百六拾參圓五拾貳錢ノ賣揚ヲ見タリ
  3. 投餌量ニ對スル増内割合ハ九ミ一ニシテ餌料ノ原量ニ換算スル場合ハ五、七ミ一ノ割合ナリ
  4. 一尾生産ニ要スル餌料費ハ約參錢壹厘ヲ要セリ
  5. 從ツテ種苗費ヲ一尾壹錢五厘トシ之カ代金六〇圓ヲ控除スルモ尙二〇四圓一二錢ノ利收ヲ見タリ
- 尙試驗實施期間中ニ於ケル觀測表ノ如シ

月別	氣 溫 (午前十時)			水 溫 (午前十時)			備 考
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	
昭和十一年 六月二十日ヨリ	二八、七	一九、〇	二四、一	二三、五	二三、四	二三、五	晴五、曇四、雨二

七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
三、二、四	三〇、〇	二九、一	二二、二	一五、八	一三、〇	一一、一	一〇、二	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇
二四、〇	二二、五	一六、五	一〇、〇	九、〇	二、五	一、一	〇、五	〇、七	五、六	一〇、八	一六、〇
二五、〇	二六、〇	二四、〇	一六、七	一三、一	七、一	四、一	五、四	七、五	二、三	二、一	二、八
二二、五	二二、六	二二、五	二二、四	二二、三	二二、一	二二、〇	二二、〇	二二、一	二二、三	二二、三	二二、三
三、四	三、五	三、三	三、三	三、一	三、〇	二、九	二、九	二、〇	二、一	二、二	二、三
快晴九、晴一一、曇七、雨四	快晴一、晴八、曇二〇、雨二	快晴五、晴九、曇一四、雨二	快晴七、晴四、曇一二、雨八	快晴四、晴九、曇一三、雨四	快晴一〇、晴六、曇九、雨一、雪一	快晴一、晴一一、曇一三、雪六	快晴四、晴一〇、曇七、雨二、雪五	快晴一、晴三、曇一七、雨五、雪五	快晴二、晴六、曇一七、雨五、雪一	晴一七、曇一一、雨三	晴一〇、曇八、雨二

河鱒池中養殖試驗 (其ノ二)

前年度ヨリノ繼續事業ニシテ狹隘ナル水面、少量ノ用水、可及的簡單ナル餌料ヲ使用スル所謂庭園式又ハ泉水式飼育法ノ生産成長及經濟關係ヲ調査セントス

- 一、試驗方法
- 二、試驗期間  
自昭和十一年五月二十二日至同年十二月八日 二百日間
- 三、飼育池  
面積三坪、直徑三、六三米、水深〇、七五米池壁及底部ハコンクリート造リノ圓形池
- 四、注水及放養尾數  
注水落差一米ニシテ二吋半ノ注水鐵管ニ依リ一分間六十四立ノ注水ヲナシ時ニ依リ多少ノ調節可能ナリ  
最高水温二六、五度最低水温四、〇度但シ飼育期間中ノ觀測ニ依ル、一坪當放養尾數五〇〇尾、全放養尾數一、五〇〇尾

五、餌料

煮沸大麥一〇、乾燥鮎二〇、生蛹七〇ノ配合餌料ノミヲ給シ一日三回撒餌トナス

六、飼育経過

五月二十二日試験開始以來順調ナル發育ヲ續ケタルニ六月二十日頃例年ノ如ク白點病瀰漫シ加之試験池ノ注水管中ニ雜木ノ細根延入りテ日毎ニ通水量ヲ減少シ益々白點病ノ猛威ヲ受クルニ至リタルヲ以テ一時試験ヲ中絶ノ已ム無キニ至リ依而試験魚ヲ箱活洲ニ收容シ親魚飼育池ノ注水管中ノ木根ヲ除去セリ此ノ工事中ハ勿論給餌ヲ中止シタリ。七月一日再ビ試験池ニ通水該魚ヲ放養セシ處既ニ減耗三割位ニ達シ生存セルモノモ半數ハ白點病蟲ノ附着多カリシヲ以テ努メテ注水量ヲ増加シタル處七月中旬白點病ハ終息シタレドモ水温ハ依然トシテ二十三度ヲ降ラズ各魚ノ衰弱甚ダシク九月ニ入りテ水温ノ降下ト共ニ元氣ヲ増シ十二月迄ニハ順調ニ生育シタレドモ其成績タルヤ前年度試験成績ノ比ニアラズ其ノ主ナル原因ハ體形ノ不揃ナルモノヲ供試魚トナセルト注水路閉塞ニ依リ一時試験ノ中絶及白點病發生、水温ノ上昇等ニ依ルモノニシテ又餌料ニモ幾多ノ缺陷アリシモノト思料セラル即チ前年度ニ於テハ天然餌料ヲ給シタレドモ本年度ニ於テハ之ヲ給セザリシモ原因ノ一ト認メラル、ナリ

八、取揚魚ノ大サ

取揚魚ノ大サ(相關表)

全長 cm	體重 g							個數
	10	20	30	40	50	60	70	
10-11	2							1
11-12		1						2
12-13		1	1	1	1	1	1	21
13-14		1	1	1	1	1	1	12
14-15		1	1	1	1	1	1	4
15-16				1	1	1	1	4
16-17					1	1	1	4
17-18						1	1	2
		1	20	15	4	4	4	2

七、飼育成績

調査事項	調査時	放養時	取揚時	備考
月尾歩	五月三十一日	五月三十一日	三月八日	飼育日數二百日間
尾數	一、五〇〇尾	九、五尾	三、八尾	
體高	二、六〇cm	三、五〇	五、五〇	
體長	〇、四〇cm	一、三、四六	二、五〇	
體重	〇、二六g	三、五、七	五、五〇	
全給餌量	二四〇、〇g	三、七五、八g	一四三、九五g	

九、經濟

收支決算

收入ノ部  
 一金八拾五圓七拾七錢  
 支出ノ部  
 一金五拾參圓六拾壹錢  
 内譯  
 金拾五圓  
 金八圓六拾壹錢  
 金拾圓  
 金貳拾圓也  
 計 五拾參圓六拾壹錢  
 差引純利益  
 金參拾貳圓拾六錢也  
 一坪當リ拾圓七拾貳錢ノ割

生鱈九五三尾代 一尾九錢ノ割

一〇、結果  
 本試験成績ニ依レバ前年度ノ如キ良結果ヲ見ル能ハザリキ即チ約六割二分五厘ノ歩留ニシテ其原因ハ前記ノ如クナリシモ尙純利益金參拾貳圓拾六錢ヲ得ラレ如何ニ養鱈業ノ有望ナルカヲ知ルヲ得可シ

鱈族飼育改良試験

前年度ニ繼續シ農林省水産試験場及各地方水産試験場ト連絡シ青森縣十二湖養魚場産虹鱈卵ヲ本場ニ山形縣月山養鱈場産河鱈卵ヲ川場養魚場ニ收容シテ本試験ヲ施行シタリ



甲表		鱈族飼育改良試験		青森縣水産試験場	
試驗施行地		青森縣西津輕郡岩崎村大字松神十二湖養魚場		試驗魚種 虹 鱈	
池 成 養	面 積	四町步		形 狀	圓 形
	深 度	最深部二五米 平均深度 一二、五〇米		注 水 量	最高二四度(三月五日)年平均最低(三月十二日)
放 養 尾 數	水 質	湖沼水		尾 數	池水容量一立坪當リ尾數或ハ坪當リ尾數
	飼 料 割 合	干鈔其儘		投 餌 量	二五kg 一日ノ 午後一回
及 調 製 方 法	投 餌 時 期 及 方 法	自五月至一月		誘 蛾 燈 種 類 及 其 個 數	二五kg 一日ノ 午後一回
天 然 飼 料 種 類 及 主 ナ ル 種 類	親 魚 ノ 系 統	大正六年 相坂養魚場ヨリ移殖		投 餌 回 數	午後一回
親 魚 捕 獲 方 法	川 村 式 捕 魚 機	配給親魚ノ 年 齡 及 大 小		投 餌 回 數	午後一回
卵 徑	最大〇、三〇(平均)〇、二八cm	一個ノ卵 最大〇、一〇gr (平均)〇、一〇gr		採 卵 方 法	採卵 採出方ニ依
受 精 方 法	搾出法ニ依リ採卵シ乾 導法ニ依リ受精セシム	受精當時ノ天候 四月二十六日午後六時 天候晴		採 卵 方 法	採卵 採出方ニ依
孵 化 器 ノ 種 類	机形 孵化盆	總 收 容 九〇、〇〇〇粒		容 器 破 壞 防 止	機形 採卵 採出方ニ依
孵 化 用 水 ノ 種 類	湖沼水	最高一三度(五月十六日) 最低八、二度(四月二十七日)		收 容 當 時 ノ 水 温	八、三度

發 眼 迄 ノ 檢 査 日 數	第一回檢卵 五月二日一三粒	第二回檢卵 五月六日 四八粒	第三回檢卵 五月十一日八二粒	第四回檢卵 五月十四日九五粒	第五回檢卵 五月十四日九五粒
發 眼 日 數	最短一九日 最長二二日 最多日自一九日至二〇日	發眼後ノ總 死卵數及率 二三八粒 九四、五四%			
(注意)					
送 付 場 名	群馬縣水産試驗場	送付時日及 天候氣温	十一月五月二十日午前十一時 一一、四度		
荷 造 方 法	運搬箱ハ(長サ一尺幅八寸高サ六寸)中枠(長サ六寸幅五寸)ニ晒木綿ヲ張り箱内ニ米及ビ水苔ヲ少シク敷キ其ノ上ニ枠ヲ漸次積重ネ上部ニハ水及水苔ヲ充分厚ク敷キ箱ト枠トノ間隙ニ水及水苔ヲ覆ヒ卵ノ動搖ヲ防止シ蓋ヲ閉シ繩ヲ以テ結束ス	運搬箱ハ(長サ一尺幅八寸高サ六寸)中枠(長サ六寸幅五寸)ニ晒木綿ヲ張り箱内ニ米及ビ水苔ヲ少シク敷キ其ノ上ニ枠ヲ漸次積重ネ上部ニハ水及水苔ヲ充分厚ク敷キ箱ト枠トノ間隙ニ水及水苔ヲ覆ヒ卵ノ動搖ヲ防止シ蓋ヲ閉シ繩ヲ以テ結束ス	發眼後ノ死卵數 五月十六日 六粒 五月二十日 五粒 五月二十日 二五粒 三六粒		
備 考	發眼後ノ死卵數 五月十六日 六粒 五月二十日 五粒 五月二十日 二五粒 三六粒				

乙表		鱈族飼育改良試験		群馬縣水産試験場	
試驗施行地		群馬縣勢多郡南橋村大字荒牧		試驗魚種 虹 鱈	
種 卵 原 産 地	青森縣十二湖養魚場	種卵到着日時	昭和十一年五月二十日 晴 一九度		
	汽車五八四、一km	及天候氣温	一日午前十時三十分		
運 搬 距 離	汽車五八四、一km	自轉車五、〇km	二〇分	荷 造 完 否	完 全
運 搬 器 內 温 度	九、〇度	運搬中斃死卵數	一〇粒	收 容 當 時 ノ 水 温	一二、〇度
注 意		運搬箱ハ(長サ一尺幅八寸高サ六寸)中枠(長サ六寸幅五寸)ニ晒木綿ヲ張り箱内ニ米及ビ水苔ヲ少シク敷キ其ノ上ニ枠ヲ漸次積重ネ上部ニハ水及水苔ヲ充分厚ク敷キ箱ト枠トノ間隙ニ水及水苔ヲ覆ヒ卵ノ動搖ヲ防止シ蓋ヲ閉シ繩ヲ以テ結束ス			

孵化盆一枚ノ 收容卵數	一、二七二粒	卵孵化器内ノ收容狀況	孵化槽一槽ヲ使用	ストーン式孵化器ノ枠使用
孵化用水ノ種類	井戸水 河水ノ流量ヲ立ニテ表ス	孵化用水ノ水量(一分間)	最多平均 最少二八立	孵化用水ノ温(孵化期中)
孵化後檢卵 每ノ死卵數	第一回檢卵 五月二十二日五二粒	第二回檢卵 五月二十四日三七粒	...	...
受迄ノ日數	最短二七日 最長二八日	最多自二七日至二八日	孵化率	八四%弱
臍囊吸收日數	最短二一日 最長二五日	最多自二三日至二四日	放養尾數	九二四尾
飼育池	面積 縱一、二m 横〇、九m	形状	↓ ↓ ↓	飼育期 最高二四、八度 最低一五、七度 六月三十日 平均二一、一度
池注水量	三六立	水質	河井戸水	死卵數 放養迄ノ死魚數 一八九尾 五九尾
飼料ノ種類 配合ノ割合 及飼育方法	給餌開始後 二〇日間 生肝 二二五 生鮭 二二五 生麥粉 二二五 練合セテ給與ス	生鮭 煮沸 肝臟又ハ魚肉	二〇日以後ハ簡單ナル混合飼料ヲ給ス	...
取揚總尾數	六二五尾	取揚總重量	一一三、九六五gr	總死魚數
取揚魚ノ大サ	全長(平均) 五、四cm 體重(平均) 一、九gr	最大 八、〇cm 最大 四、五gr	最小 三、八cm 最小 〇、六五gr	内行方不明 一六六尾
				歩留率 六三、六%

飼育後第十五日頃白點病發生二〇日ヨリ三〇日迄ノ間ニ死魚續出シタルコト二一三ノ死魚ヲ見タルノミニシテ順調ナル發育ヲ見タリ

五〇日頃ヨリ水温上昇終日二二、〇度ヲ降ルコトナク甚ダシキハ二六、五度ヲ越ヘタルコトアリ、給餌ヲ中止セルコト多シ尙八〇日頃ヨリ降雨ノ度毎ニ用水混濁シ餌止メノ止ムナキニ至ラシメタリ

取揚魚ノ大サ(相關表)



鯨族飼育改良試験		飼育日誌		群馬縣水産試験場	
日數	月日	天候	午前九時	午後九時	水温
一六、一七	一八	晴	14.0	14.0	10
二	一九	曇	14.0	14.0	10
三	二〇	同	14.0	14.0	10
四	二一	同	14.0	14.0	10
五	二二	同	14.0	14.0	10
六	二三	同	14.0	14.0	10
七	二四	曇	14.0	14.0	10
八	二五	晴	14.0	14.0	10
九	二六	曇	14.0	14.0	10
一〇	二七	同	14.0	14.0	10
一一	二八	同	14.0	14.0	10
一二	二九	同	14.0	14.0	10
一三	三〇	同	14.0	14.0	10
一四	三一	同	14.0	14.0	10
一五	三二	同	14.0	14.0	10
一六	三三	同	14.0	14.0	10
一七	三四	同	14.0	14.0	10
一八	三五	同	14.0	14.0	10
一九	三六	同	14.0	14.0	10
二〇	三七	同	14.0	14.0	10
二一	三八	同	14.0	14.0	10
二二	三九	同	14.0	14.0	10
二三	四〇	同	14.0	14.0	10
二四	四一	同	14.0	14.0	10
二五	四二	同	14.0	14.0	10
二六	四三	同	14.0	14.0	10
二七	四四	同	14.0	14.0	10
二八	四五	同	14.0	14.0	10
二九	四六	同	14.0	14.0	10
三〇	四七	同	14.0	14.0	10
三一	四八	同	14.0	14.0	10
三二	四九	同	14.0	14.0	10
三三	五〇	同	14.0	14.0	10
三四	五一	同	14.0	14.0	10
三五	五二	同	14.0	14.0	10
三六	五三	同	14.0	14.0	10
三七	五四	同	14.0	14.0	10
三八	五五	同	14.0	14.0	10
三九	五六	同	14.0	14.0	10
四〇	五七	同	14.0	14.0	10
四一	五八	同	14.0	14.0	10
四二	五九	同	14.0	14.0	10
四三	六〇	同	14.0	14.0	10
四四	六一	同	14.0	14.0	10
四五	六二	同	14.0	14.0	10
四六	六三	同	14.0	14.0	10
四七	六四	同	14.0	14.0	10
四八	六五	同	14.0	14.0	10
四九	六六	同	14.0	14.0	10
五〇	六七	同	14.0	14.0	10
五一	六八	同	14.0	14.0	10
五二	六九	同	14.0	14.0	10
五三	七〇	同	14.0	14.0	10
五四	七一	同	14.0	14.0	10
五五	七二	同	14.0	14.0	10
五六	七三	同	14.0	14.0	10
五七	七四	同	14.0	14.0	10
五八	七五	同	14.0	14.0	10
五九	七六	同	14.0	14.0	10
六〇	七七	同	14.0	14.0	10
六一	七八	同	14.0	14.0	10
六二	七九	同	14.0	14.0	10
六三	八〇	同	14.0	14.0	10
六四	八一	同	14.0	14.0	10
六五	八二	同	14.0	14.0	10
六六	八三	同	14.0	14.0	10
六七	八四	同	14.0	14.0	10
六八	八五	同	14.0	14.0	10
六九	八六	同	14.0	14.0	10
七〇	八七	同	14.0	14.0	10
七一	八八	同	14.0	14.0	10
七二	八九	同	14.0	14.0	10
七三	九〇	同	14.0	14.0	10
七四	九一	同	14.0	14.0	10
七五	九二	同	14.0	14.0	10
七六	九三	同	14.0	14.0	10
七七	九四	同	14.0	14.0	10
七八	九五	同	14.0	14.0	10
七九	九六	同	14.0	14.0	10
八〇	九七	同	14.0	14.0	10
八一	九八	同	14.0	14.0	10
八二	九九	同	14.0	14.0	10
八三	一〇〇	同	14.0	14.0	10



及配餌調合料製方割種類合類	放養尾數	川河及池成養			試驗施行地	甲表	
		水質	底質	深度			面積
田螺、鱧、肝臟ハチヨツパーニテ細斷ス	或ハ坪當尾數 二尾 或ハ坪當リ重量	湧水 河水	泥土	最深部二米 平均深度一、五米	山形縣水產試驗場 月山養鱒場	山形縣水產試驗場 鱒族飼育改良試驗	
鱒四八 田螺一八 肝臟一五 蠶蛹一〇 鹽蟲八 琴蟲二 ガンマルス一五	或ハ坪當尾數 或ハ坪當リ重量	或ハ坪當尾數 或ハ坪當リ重量	或ハ坪當尾數 或ハ坪當リ重量	或ハ坪當尾數 或ハ坪當リ重量	或ハ坪當尾數 或ハ坪當リ重量	或ハ坪當尾數 或ハ坪當リ重量	

試驗施行地	面積	深度	底質	水質	注水量	水溫	最高一四、〇度(八月二十日)	最低四、五度(十月十日)	年平均九、二五度
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	

試驗施行地	面積	深度	底質	水質	注水量	水溫	最高一四、〇度(八月二十日)	最低四、五度(十月十日)	年平均九、二五度
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	
山形縣水產試驗場	一一、二二一平方米	最深部二米	泥土	湧水	最四、五〇立(五月)	最高一四、〇度	最低四、五度	年平均九、二五度	

投餌時期及方法	自四月八ヶ月間ボートニテ溜池ヲ巡リ投餌ス 至十一月八ヶ月間ボートニテ溜池ヲ巡リ投餌ス	一回ノ 投餌量	四〇〇匁	一日ノ 投餌回数	午前 午後 一回
天然餌料ノ多寡 及其ノ種類	天然餌料多ク其ノ種類ガンマルス、ブヨ、キロノマス等	誘蛾燈ノ 種類			
親魚ノ系統	北米合衆國産				
親魚捕獲方法	溜池ノ排水ヲナシ一部配合親魚ノ ニ集メ曳網ニテ採捕ス 年輪及大サ	合四年魚 (全長)	二八、二 二七、〇	cm cm	二二、二 二二、七
受精方法	乾導法 及其ノ他ノ條件	十一月二十一日午後一時天候晴氣温五、五度水温五、四度室外五、五度	最大〇、五 最小〇、四	平均〇、〇七	卵色 赤 採卵 搾出法
卵 徑	最大〇、五 最小〇、四	平均〇、〇七	卵色 赤	採卵 搾出法	
孵化器ノ種類	アトキン ス	孵化器 ノ容積	一、二二四粒	孵化器 ノ容積	一、二二四粒
孵化用水ノ種類	湧水	孵化用水 ノ水温	最高五、六度 最低二、〇度	平均	四、六度
發眼迄ノ檢卵 毎ノ死卵數	第一回檢卵 一月二十七日三四五粒	第二回檢卵	第三回檢卵	第四回檢卵	第五回檢卵
發眼日數	最短五六日 最長五八日	發眼迄ノ總卵數及率	三四五粒	二八、一%	
(注意)	群馬縣水産試驗場 送付卵ノ發 眼後ノ日數	一三	發送時日 天候及氣温	十一月三十日午前五時十分 雪零下三度	
荷造方法	木箱(長三〇cm幅二一cm深一六cm)四分板造リ卵盆ハ 晒木綿ヲ張リ(一五cm幅一〇cm深一〇cm)卵盆ノ周 圍七cm之ニ水苔ヲ詰メ水四〇〇匁ヲ碎キ入レル 搬送方法 午後五時一四分	運搬經 過及運 送方法	三山電鐵間澤迄約五、五里(人夫携 帶)間澤驛ヨリ鐵道便ニテ記送		
備 考	發眼迄ノ檢卵ハ一回トシ白色トナリタル死卵體形ヲ成シテヨリ斃死セル死卵及不受精卵ヲ摘出セリ 不受精卵 一五 檢卵當時ノ死卵數 三				

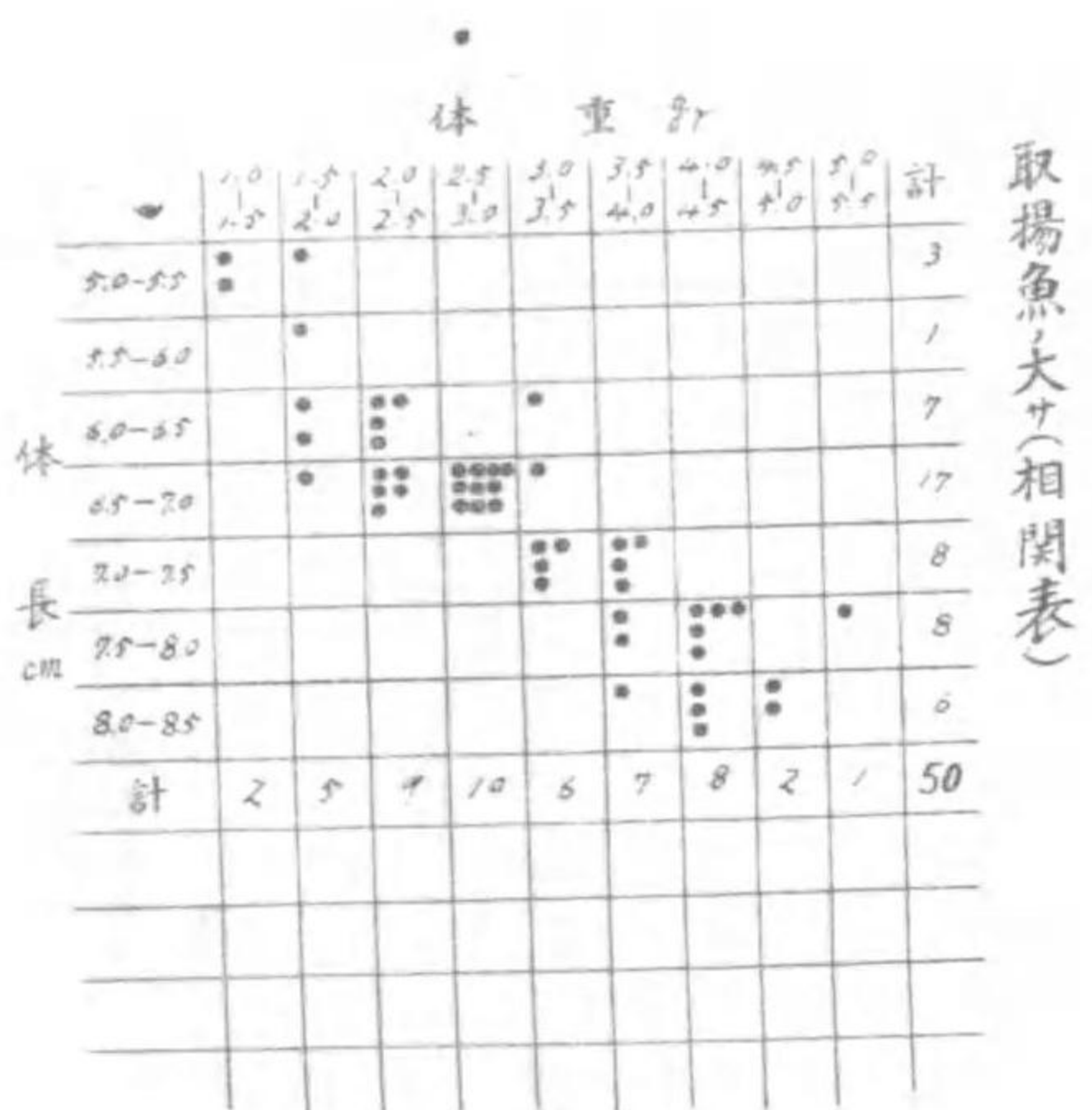
乙表	鱒族飼育改良試驗	群馬縣水産試驗場				
試驗施行地	群馬縣利根郡川場村大字天神 川場養魚場	試驗魚種	河 鱒			
注意	種卵原產地 山形縣水試月山養鱒場 種卵到着時日 昭和十一年二月一日午後二時三十分 及天候氣温 晴 二、五度 運搬距離 鐵道四四〇、六軒 陸路三四軒 荷造完否 全 完 運搬器内温度 四、〇度 運搬中ノ斃死卵數 二〇粒 收容當時ノ解 化用水水温 一、二、二度 孵化器ノ種類 アトキンス式 孵化器内一枚 ノ收容卵數 八四四粒 孵化器内ノ收容狀況 アットキンス孵化器中孵化盆一枚ニ試驗卵ノミ收容ス 孵化用水ノ種類 湧水 孵化用水ノ水量(一分間) 三〇立 孵化用水ノ温度 最高一、二、五 最低一、一、九 均 一、二、二度	孵化飼育成績				
發眼後檢卵 毎ノ死卵數	第一回檢卵 二月六日二〇粒	第二回檢卵 二月十一日三二粒	第三回檢卵 二月十六日(孵化終了)二七	死卵、合計	六九粒	
受精ヨリ 化迄ノ日數	最短 八二日 最長 八八日	最多 八四日乃至八六日	孵化率	六一、五%	畸形率	一% 八尾
臍囊吸收日數	最短 二三日 最長 三三日	最多 二六日乃至三〇日	放養尾數	七一六尾	坪當リ	八九五尾
飼 飼	面 積	〇、八坪	形 狀	短形	幅	〇、八間
池 育	深 度	〇、八一〇、五尺	底 質	土	砂	備
飼 飼	注水量	三五立	水 質	湧	水	考
餌料ノ種類 配合ノ割合 及調餌方法	肝臟、鱈、鮫、麥、小麥粉、ゴカイ 餌料在庫狀況ニヨリ一定セズ、日誌備考欄ニ記入セリ。 麥ノミ煮、他ノモノハ生ノマ、混合 チョツパーニテ挽ク					

日 數	月 日	飼 育 日 誌		投 餌 量	死 魚 數	備 考
		天候 午前 午後	水温 午前 午後			
二六	二一	曇	12.0	0.0	0	同
二五	二〇	曇	11.5	0.0	0	同
二四	一九	曇	11.5	0.0	0	同
二三	一八	曇	11.5	0.0	0	同
二二	一七	曇	11.5	0.0	0	同
二一	一六	曇	11.5	0.0	0	同
二〇	一五	曇	11.5	0.0	0	同
一九	一四	曇	11.5	0.0	0	同
一八	一三	曇	11.5	0.0	0	同
一七	一二	曇	11.5	0.0	0	同
一六	一一	曇	11.5	0.0	0	同
一五	一〇	曇	11.5	0.0	0	同
一四	九	曇	11.5	0.0	0	同
一三	八	曇	11.5	0.0	0	同
一二	七	曇	11.5	0.0	0	同
一一	六	曇	11.5	0.0	0	同
一〇	五	曇	11.5	0.0	0	同
九	四	曇	11.5	0.0	0	同
八	三	曇	11.5	0.0	0	同
七	二	曇	11.5	0.0	0	同
六	一	曇	11.5	0.0	0	同
五	二	曇	11.5	0.0	0	同
四	三	曇	11.5	0.0	0	同
三	四	曇	11.5	0.0	0	同
二	五	曇	11.5	0.0	0	同
一	六	曇	11.5	0.0	0	同
二	七	曇	11.5	0.0	0	同
三	八	曇	11.5	0.0	0	同
四	九	曇	11.5	0.0	0	同
五	一〇	曇	11.5	0.0	0	同
六	一一	曇	11.5	0.0	0	同
七	一二	曇	11.5	0.0	0	同
八	一三	曇	11.5	0.0	0	同
九	一四	曇	11.5	0.0	0	同
一〇	一五	曇	11.5	0.0	0	同
一一	一六	曇	11.5	0.0	0	同
一二	一七	曇	11.5	0.0	0	同
一三	一八	曇	11.5	0.0	0	同
一四	一九	曇	11.5	0.0	0	同
一五	二〇	曇	11.5	0.0	0	同
一六	二一	曇	11.5	0.0	0	同
一七	二二	曇	11.5	0.0	0	同
一八	二三	曇	11.5	0.0	0	同
一九	二四	曇	11.5	0.0	0	同
二〇	二五	曇	11.5	0.0	0	同
二一	二六	曇	11.5	0.0	0	同
二二	二七	曇	11.5	0.0	0	同
二三	二八	曇	11.5	0.0	0	同
二四	二九	曇	11.5	0.0	0	同
二五	三〇	曇	11.5	0.0	0	同
二六	三一	曇	11.5	0.0	0	同
二七	三二	曇	11.5	0.0	0	同
二八	三三	曇	11.5	0.0	0	同
二九	三四	曇	11.5	0.0	0	同
三〇	三五	曇	11.5	0.0	0	同
三一	三六	曇	11.5	0.0	0	同
三二	三七	曇	11.5	0.0	0	同
三三	三八	曇	11.5	0.0	0	同
三四	三九	曇	11.5	0.0	0	同
三五	四〇	曇	11.5	0.0	0	同
三六	四一	曇	11.5	0.0	0	同
三七	四二	曇	11.5	0.0	0	同
三八	四三	曇	11.5	0.0	0	同
三九	四四	曇	11.5	0.0	0	同
四〇	四五	曇	11.5	0.0	0	同
四一	四六	曇	11.5	0.0	0	同
四二	四七	曇	11.5	0.0	0	同
四三	四八	曇	11.5	0.0	0	同
四四	四九	曇	11.5	0.0	0	同
四五	五〇	曇	11.5	0.0	0	同
四六	五一	曇	11.5	0.0	0	同
四七	五二	曇	11.5	0.0	0	同
四八	五三	曇	11.5	0.0	0	同
四九	五四	曇	11.5	0.0	0	同
五〇	五五	曇	11.5	0.0	0	同
五一	五六	曇	11.5	0.0	0	同
五二	五七	曇	11.5	0.0	0	同
五三	五八	曇	11.5	0.0	0	同
五四	五九	曇	11.5	0.0	0	同
五五	六〇	曇	11.5	0.0	0	同
五六	六一	曇	11.5	0.0	0	同
五七	六二	曇	11.5	0.0	0	同
五八	六三	曇	11.5	0.0	0	同
五九	六四	曇	11.5	0.0	0	同
六〇	六五	曇	11.5	0.0	0	同
六一	六六	曇	11.5	0.0	0	同
六二	六七	曇	11.5	0.0	0	同
六三	六八	曇	11.5	0.0	0	同
六四	六九	曇	11.5	0.0	0	同
六五	七〇	曇	11.5	0.0	0	同
六六	七一	曇	11.5	0.0	0	同
六七	七二	曇	11.5	0.0	0	同
六八	七三	曇	11.5	0.0	0	同
六九	七四	曇	11.5	0.0	0	同
七〇	七五	曇	11.5	0.0	0	同
七一	七六	曇	11.5	0.0	0	同
七二	七七	曇	11.5	0.0	0	同
七三	七八	曇	11.5	0.0	0	同
七四	七九	曇	11.5	0.0	0	同
七五	八〇	曇	11.5	0.0	0	同
七六	八一	曇	11.5	0.0	0	同
七七	八二	曇	11.5	0.0	0	同
七八	八三	曇	11.5	0.0	0	同
七九	八四	曇	11.5	0.0	0	同
八〇	八五	曇	11.5	0.0	0	同
八一	八六	曇	11.5	0.0	0	同
八二	八七	曇	11.5	0.0	0	同
八三	八八	曇	11.5	0.0	0	同
八四	八九	曇	11.5	0.0	0	同
八五	九〇	曇	11.5	0.0	0	同
八六	九一	曇	11.5	0.0	0	同
八七	九二	曇	11.5	0.0	0	同
八八	九三	曇	11.5	0.0	0	同
八九	九四	曇	11.5	0.0	0	同
九〇	九五	曇	11.5	0.0	0	同
九一	九六	曇	11.5	0.0	0	同
九二	九七	曇	11.5	0.0	0	同
九三	九八	曇	11.5	0.0	0	同
九四	九九	曇	11.5	0.0	0	同
九五	一〇〇	曇	11.5	0.0	0	同

鯨族飼育改良試験

飼育日誌

群馬縣水産試験場川場養魚場



備考 歩留率ハ放養數ヨリ計算ス

取揚總尾數	三八九尾	取揚總重量	一五一〇瓦	總死魚數	三〇尾
取揚魚ノ大サ	全長(平均)六、五〇cm 體重(平均)三、七五gr	最大五、五〇cm 最大五、五〇gr	最小一、〇〇gr	不明數	二九七
					歩留率
					五四、三%

七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三
六	五	四	三	二	一	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一
晴	同	曇	曇	同	晴	同	曇	晴	同	曇	雨	晴	同	同	曇	同	晴	雨	晴	雨	同	同	同
12.0	10.1	12.4	12.4	10.7	10.7	10.0	12.0	12.0	12.4	10.7	12.1	12.1	12.0	12.4	10.0	10.0	11.5	11.5	11.5	11.5	10.2	10.2	10.0
11.0	10.8	11.0	11.0	10.8	10.8	10.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	10.0
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一〇	九九	九九	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九	〇八	〇七
曇	同	雨	晴	同	曇	同	同	晴	曇	晴	同	曇	晴	同	同	同	曇	晴	同	同	同	同	曇
10.0	10.0	10.0	12.0	12.0	12.0	12.1	12.1	12.4	12.0	10.0	12.1	12.1	12.0	12.4	10.0	10.0	11.5	11.5	11.5	11.5	10.2	10.2	10.0
11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

### 鯪人工孵化飼育試験

#### 一、趣旨

天然ニ到ル所ノ河川湖沼ニ棲息シツ、アル鯪ハ増殖界ニ於テハ一般ニ優良魚トシテ取扱ハレ居ラザレドモ秋季十月頃ヨリ春季三四月頃マデ體肥滿シ其味モ毎ル可カラザルモノアリテ山間地帯ニ於テハ冬季缺ク可カラザル食用魚トシテ珍重セラレ從ツテ此向ハ相當ノ價格ヲ呼ビ所ニ依ツテハ既ニ之ガ池中養殖ヲ試ミラレツ、アリ、其養殖法トシテハ主トシテ春季川水十度内外ノ時湖上時ニ之ヲ擲ヒ捕リテ養魚池ニ鯪其他ノ魚類ト混養シ二十夕内外ニ成長セシメ販賣セルモノニシテ多クハ養魚池ニ放養スベキ優良魚種ノ種苗ヲ得難キ時ニ行ハル、副産物トシテ飼育サレタルニ過ギズ。從ツテ之ガ飼育方法及經濟關係等ノ研究モ行ハレザリシガ近年各地ニ池中養殖事業ノ勃興ニ伴ヒ鮎取揚後ノ水而利用ニ又鯪ノ飼育ニハ水温高ク鯪養殖ニハ水温低冷ニテ利用價値ノ少ナキ湖沼溜池溝渠等ノ増殖ニハ極メテ適種魚族ナリ、依ツテ本年度鯪人工孵化池中養殖試験ヲ施行飼育方法及此ノ經濟方面ヲ研究セントス

#### 二、第一回採卵孵化狀況

1. 採卵場所 勢多郡富士見村赤城大洞湖
2. 採卵時期 自昭和十一年六月十一日至同月十三日 三日間
3. 親魚採捕場所 湖岸水ノ流通ヨキ場所數ヶ所「カクマン」川及沼尾川
4. 漁具 投網 追込網
5. 漁獲尾數 雄 三二〇尾 雌 二〇尾
6. 採卵用親魚數 雄 一二尾 雌 二〇尾
7. 採卵數 五〇、〇〇〇粒
8. 卵數 左記體形親魚二尾ヨリ採卵、着卵材料一平方寸内着卵實數ヲ算出セルニ一尾平均三、一五〇粒ナリ尤モ同親魚ハ既ニ幾分放卵セルモノ、如シ

9. 採卵時觀測

體長	一六、三 cm	體高	二、七 cm	體重	三〇 gr
	一〇、三		二、一		七、gr

10. 親魚測定 天候 晴 氣温 一五、五 湖水温 一八、〇 (表面)

番	性別	身長 (cm)	體高 (cm)	體重 (g)
1	♀	一六、三	二、七	三〇、〇
2	♀	一五、一	二、四	二〇、二
3	♀	一一、八	一、八	一〇、八
4	♀	一一、七	二、一	一三、八
5	♀	一〇、三	一、八	七、五
6	♂	一一、七	二、一	一五、〇
7	♂	一一、四	二、一	一三、一
8	♂	一三、〇	二、四	一五、〇
9	♂	一〇、九	一、八	九、三
10	♂	一〇、〇	一、五	七、五
平均		一一、四	二、六	一〇、五

11. 採卵ヨリ孵化迄ノ日數 平均一六度九ノ用水ニテ三日乃至六日ニテ全部孵化セリ  
 12. 孵化尾數及孵化率 三、〇〇尾 一五%  
 13. 孵化ヨリ浮上迄ノ日數及平均水温  
 八日乃至十一日ニテ全部浮上 平均水温一七、五度  
 採卵後ノ着卵枠ハ木箱ニ納メ湖岸波靜カナル場所ニ繋留セシニ同夜東南風強ク木箱ノ動搖甚ダシク爲ニ離卵セルモノ多ク  
 辛ジテ約二萬粒位ヲ翌十三日午前中ニ本場鱒孵化場ニ運搬收容セリ  
 孵化槽ハ底部ニ礫ヲ敷キ一分間約一〇リットルノ注水ヲナシ蓋ヲ半開セリ孵化日表ハ次ノ如シ

月日	天候	氣温	水温	備	考
六月一	曇	一三、五	一六、〇	大洞湖ニテ親魚採捕	
一二	晴	一五、五	一八、〇	觀測ハ午後四時大洞湖畔ニテ五萬粒採卵	
一三	晴	二六、四	一六、五	午前十一時本場孵化場へ收容	
一四	曇	二四、五	一六、二		
一五	晴	二四、四	一六、二	水生菌附着多シ	
一六	晴	二五、七	一七、八	午前六時孵化兒ヲ見受ケタリ一五日夕刻ヨリ孵化セルモノ、如シ	
一七	晴	二六、〇	一七、五	孵化旺盛ナリ	

孵化槽收容卵二萬粒ナリシガ收容後水生菌ノ發生夥シク僅ニ三千尾ノ孵化兒ヲ見タルノミナリシガ孵化後魚兒ハ至極健全  
 ニシテ斃死魚ヲ認メズ、七月五日五百尾ヲ撰別シテ屋外池(〇、九坪)ニ移シ生態研究用トナシ他ノモノハ後記第二回採卵ノ  
 孵化兒ト共ニ飼育セリ之ガ飼育成績ハ別ニ報告スル處アルベシ

第二回採卵

1. 採卵場所 勢多郡南橋村 本場孵化場
2. 採卵時期 七月五日、六日、七日ノ三日間

月日	天候	氣温	水温	備
七月一	雨	一八、七	一七、〇	降雨出水用水混濁給餌ヲ中止ス 盛ニ索餌スルヲ認ム
二	曇	二六、三	一八、二	
三	曇	二〇、五	一六、五	
四	晴	二六、〇	一八、〇	五百尾屋外池(〇、九坪)ニ放養生態研究用トナシ他ハ第二回採卵ノ分ト併 セテ養成池放養
五	晴	二六、二	一八、二	
一八	晴	二四、五	一六、三	午前中ニ全部孵化セリ
一九	曇	二四、五	一六、二	
二〇	曇	二五、六	一六、八	稚魚體色赤色ヲ帶ブ
二一	曇	二四、五	一六、三	稚魚孵化槽ノ隅ニ群集ス
二二	曇	三〇、五	二〇、〇	浮上ヲ始ム
二三	晴	三一、〇	一九、八	
二四	曇	二〇、八	一七、〇	約半數浮上ス以前浮上セルモノハ體色黒變ス
二五	晴	二五、五	一八、三	七分通浮上午後一回肝臟ノ水溶液ヲ給ス
二六	曇	二八、六	一八、三	午前中ニ全部浮上ス午前二回午後二回給餌
二七	曇	二六、五	一八、一	給餌四回
二八	雨	二〇、七	一七、〇	
二九	雨	二二、〇	一七、五	
三〇	曇	一八、七	一五、七	

3. 親魚採捕所 本場養魚池排水路
4. 親魚採捕方法 追込網
5. 漁獲尾數 ♀一六 ♀四八
6. 採卵親魚尾數 ♀一三 ♀七
7. 受精方法並狀況 乾導法

計	時期	天氣	氣溫	水溫	親魚尾數		採卵粒數
					♀	♂	
七	日	晴	二五、七	一七、〇	一三	七	四〇、〇〇〇
六	日	曇	一五、七	一六、八	三	一	九、〇〇〇
五	日	曇	一五、五	一六、五	四	二	二〇、〇〇〇

8. 親魚測定

番	全	體	重	號	體		備	考
					高	長		
1	二二、二	一〇、八	一八、五	1	三、二	一八、五	一八、〇	一七、〇
2	一八、五	三、一	三、三	2	三、一	二九、〇	二六、〇	一七、三
3	一八、八	三、三	三、三	3	三、三	二六、〇	二六、〇	一七、一
4	一六、五	二、九	二、九	4	二、九	二六、〇	二六、〇	一七、〇
5	一八、〇	三、〇	三、〇	5	三、〇	二六、〇	二六、〇	一七、〇
6	一五、〇	二、六	二、六	6	二、六	二六、〇	二六、〇	一七、〇
7	一五、三	二、八	二、八	7	二、八	二六、〇	二六、〇	一七、〇
8	一七、一	三、〇	三、〇	8	三、〇	二六、〇	二六、〇	一七、〇
9	一七、〇	二、九	二、九	9	二、九	二六、〇	二六、〇	一七、〇
10	一六、四	二、六	二、六	10	二、六	二六、〇	二六、〇	一七、〇
平均	一七、六	三、〇	三、〇	平均	三、〇	二六、〇	二六、〇	一七、六

(イ) 雌

番	全	體	重	號	體		備	考
					高	長		
1	三三、五	一〇、〇	三三、五	1	三、七	一八、五	一八、〇	一七、五
2	一九、五	三、二	三、二	2	三、二	二八、〇	二六、〇	一七、〇
3	一九、五	三、四	三、四	3	三、四	二八、〇	二六、〇	一七、〇
4	一八、五	二、八	二、八	4	二、八	二八、〇	二六、〇	一七、〇
5	一七、一	二、八	二、八	5	二、八	二八、〇	二六、〇	一七、〇
6	一四、〇	二、五	二、五	6	二、五	二八、〇	二六、〇	一七、〇
7	一七、〇	二、七	二、七	7	二、七	二八、〇	二六、〇	一七、〇
8	一六、〇	二、八	二、八	8	二、八	二八、〇	二六、〇	一七、〇
9	一五、四	二、七	二、七	9	二、七	二八、〇	二六、〇	一七、〇
10	一五、二	二、六	二、六	10	二、六	二八、〇	二六、〇	一七、〇
平均	一七、五	三、〇	三、〇	平均	三、〇	二八、〇	二六、〇	一七、五

(ロ) 雄

9. 卵數 左記形體ヲ有スル魚ノ卵粒數ヲ重量ニ依リ算出セリ

A	全	長	體	高	體	重	孕卵數	備	考
一〇、六cm	一〇、六	一、五cm	一、五	一、五	一、五	二、八〇〇粒	幾分放卵セルモノ、如シ		
一五、〇	一五、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	四、三〇〇粒	僅ニ放卵セルモノ、如シ		
一八、五	一八、五	三、六	三、六	三、六	三、六	七、六〇〇粒	未成熟		

10. 採卵ヨリ孵化迄ノ日數及平均水溫 七日間平均水溫 一七、六度
11. 孵化尾數及孵化率 二〇、〇〇〇尾 五〇%
12. 孵化ヨリ浮上迄ノ日數 八日乃至九日
13. 着卵材料及其孵化成績
  - 一、棕櫚皮榨 棕櫚皮榨片側ニ着卵
  - 二、礫 孵化槽底ニ小礫ヲ敷キテ之ニ着卵セリ
  - 三、細目金網榨 受精卵ヲ細目ノ机形孵化盆ニ納メタリ
  - 四、砂 受精卵ヲ洗滌シ孵化槽底ニ敷キタル砂礫上ニ撒布セリ
14. 孵化概況 以上四方法ノ中第三第四ノ方法ガ前二者ヨリ孵化成績良好ナルヲ認メラレタリ。第三ノ法ハ孵化迄ノ成績ハ良好ナリシモ孵化後稚魚ノ頭部ヲ金網ニ差込ムノアリテ斃死魚ヲ續出セリ。因ニ受精卵ヲ洗滌シ粘着力ヲ失ヒタルモノヲ特製ノ孵化盆又ハ砂礫ヲ敷詰メタル孵化槽内ニ收容セル方法ガ最モ良好ナル成績ヲ納メ得タリ

月	日	天候	氣溫	水溫	備	考
七月五日	晴	一五、五	一六、五	二萬粒採卵收容		
六	雨	一五、七	一六、八	一萬一千粒採卵收容		
七	曇	二五、七	一七、〇			



二二	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八
曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	雨	晴	晴	晴	雨	曇
二六、〇	三一、〇	三〇、〇	二九、五	二六、四	三三、五	三一、五	三一、〇	二七、六	二六、二	一九、七	二三、三	二七、〇	二四、〇	一九、八	二二、五
二二、七	二三、五	二二、四	二二、五	二二、八	二二、五	二四、五	二一、四	二〇、〇	一九、六	一九、〇	一八、〇	一八、五	一九、〇	一八、〇	一七、六
<p>午前六時全部孵化ス 魚兒ハ着卵材料下ニ群集ス 着卵材料ヲ撒ス 魚兒體色赤色ヲ帶ブ 一注水部又ハ孵化槽内又ハ砂礫間等暗所ニ群集窒息魚ヲ出セリ、全面蓋ヲ施シ孵化槽内ヲ暗黒トナス 夕刻ヨリ浮上魚ヲ見ル 〔浮上魚ハ體色黒變ス〕 〔夕刻マデニ大半浮上午後六時給餌ヲ試ム〕 午前午後各一回給餌餌料ハ生蠅汁及肝臟汁 降雨出水混濁給餌ヲ缺ク</p>															

15. 成長度

凡テ魚類ノ成長ハ餌料、水温、水質棲息場ノ廣狹及四圍ノ環境等ニ支配サル、モノニシテ今回調査セル鹹ノ成長ハ大體ニ於テ水温二十度以上二十五、六度位ニ於テ最モ成長旺盛ニシテ二十八度ニ到レバ索餌減少シテ不活潑トナリ成長モ亦劣ルモノ、如ク、又二十度ヨリ降ルニ從ヒテ索餌並ニ成長鈍リ冬季水温三度ニ至レバ深所又ハ隱蔽下ニ入り靜ナル時ニ僅ニ索餌スル程度ナリ  
左ニ一年魚ノ夏季四ヶ月間ノ成長度ヲ十尾平均ニテ示ス  
本調査資料ハ池中養殖魚ヲ採捕後一五%ノフォルマリン溶液ニ浸漬セルモノヲ後日ニ至リ測定セルモノナリ

時	期	體長	體重
給餌後	開始時	一、一cm	〇、〇一gr
給餌後	一ヶ月 (八月二十日)	二、六	〇、二五
同	二ヶ月 (九月二十日)	四、七	一、一五
同	三ヶ月 (十月二十日)	四、九	一、一八
同	四ヶ月 (十一月二十日)	五、一	一、三五

16. 結果

本試験ニ依レバ第一年次ニ於テハ僅ニ體長平均五、一體重一、三五グラムニシテ翌年度ノ飼育ニ依リテモ販賣魚トシテノ體形ニ達スルヤ否ヲ懸念サル、モノニシテ第一年ニ體形ヲ大キクナラシムルニハ比較的早期産卵ヲナス縣内ノ烏川或ハ鑄川ヨリ親魚ヲ採捕シ四月中ニ採卵ヲ爲サバ一年度ニ於テ相當大ノモノヲ得ラレ二ケ年飼育ニシテ販賣出來得ルモノト信ゼラル

鯉兒養成試驗

一、趣旨  
鯉兒養成試驗ヲ實施シ併セテ其ノ經濟關係ヲ調査セムトス  
二、親鯉ト毛仔放養數  
昭和十年九月本縣一帶ヲ襲ヘル風水害ノ爲メ本場養魚池ノ源川タル廣瀬川取入口荒廢セラレ之ガ改修工事昭和十一年三月下旬ヨリ着手サルルニ當リ本場養魚池ニ於テモ取水不能ノ已ムナキニ至レルヲ以テ「親鯉」ハ三月中旬全部北甘樂郡下仁田町、鑄川漁業組合所屬養魚池ニ移轉セリ、然シテ本冬ノ激甚ナル寒氣ハ三月ニ入りテモ尙結氷溶解セズ冬眠期ニ於ケル安逸ヲ妨ゲタルコト大ニシテ移轉ニ際シ既ニ皮膚或ハ鰭等ノ糜爛セルモノ多數アリシニモ不拘取扱上ノ損傷之ニ加重シ衰弱著シク該「親鯉」ヨリノ採卵ハ到底之ヲ望ミ難ク已ムヲ得ズ民間業者ニ之ヲ求メ比較的優秀ナル親鯉ノ所有者ヲ選擇シ毛仔三十八萬尾ヲ購入放養セリ  
第二號池 八〇、〇〇〇尾 六月 六日放養

第三號池 一五〇、〇〇〇尾 五月二十六日放養  
 第四號池 一五〇、〇〇〇尾 六月二日放養  
 備考 從來本縣當業者間ニ於ケル毛仔ノ取引ハ小形洗面器又ハ小形茶碗等ヲ以テ毛仔ヲ掬ヒ取り之ガ數ヲ讀ミ面シテ大  
 量ヲ之ト比較計算スルモノニシテ隨ツテ正確ナル實數ハ到底之ヲ知ル能ハザルモノナリ  
 三、飼育池ト排水ノ關係  
 第二號池 三百坪  
 第三號池 三百坪  
 第四號池 百九十坪  
 第五號池 二百二十坪

右各池共鯉兒飼育ノ専用池ニシテ池周ハ全部コンクリート壁ニテ固定シ池底ハ砂泥ノ上ニ二三寸ノ浮泥堆積セリ  
 水深ハ二、三號池ハ平均二尺五寸、四、五號池ハ平均三尺ナリ  
 注排水口ハ何レモ幅一尺五寸高注水口一尺一寸乃至一尺五寸ニシテ排水口ハ最深部ノ池水ヲ全部流出セシムル裝置ニシテ  
 注水量ハ必要ニ應ジ自由ニ之ガ増減ヲナシ得ルモノナリ

四、飼育經過

五月十八日ヨリ二、三、四、五號各池ニ施肥ヲ始メ「みじんこ」ノ發生ヲ計リタルニ二、三號池ハ二十一日頃ヨリ發生シ  
 二十四日頃ニハ其ノ數著シク増加セルヲ以テ二十六日第一回十五萬尾ヲ第三號池ニ放養セリ、續イテ第四號池ニ於テモ二  
 十九日頃ヨリ「みじんこ」ノ蕃殖著シク増加シタルヲ以テ六月二日第二回十五萬尾ヲ同池ニ放養セリ、然レ共第二號池ハ  
 注水路側ヨリノ滲透水ト排水路ヘノ漏水アリ池水ノ交換甚ダシク常ニ池水澄清ナレバ隨テ「みじんこ」ノ發生極メテ少量  
 ニシテ到底好條件ノ期待困難ナルヲ以テ不得已六月六日八萬尾ヲ放養セリ  
 鯉兒ノ成長ニ伴ヒ「みじんこ」次第ニ減少シ第三號池ハ六月五日第二、四號池ハ十一日米糠、生蠅(細斷シ晒木綿ニテ濾  
 過セルモノ)ヲ池中ニ撒布シ人工餌料ノ給與ヲ始メ、第三號池六月十二日、第二、四號池ハ十五日ヨリ各池共二ヶ所乃至  
 三ヶ所ニ給餌臺ヲ設置シ「泥蟲」ヲ與ヘ始メタリ  
 六月一日頃ヨリ「あをみどろ」各池ニ發生セシモ隔日ニ池中ヲ攪拌シ繁殖ヲ防止シタルヲ以テ飼育上何等支障ナク日數僅  
 カニシテ之ガ除去ヲナシ得タリ  
 斯クテ六月十五日混合餌料(蛹、鈔、琴蟲、米糠)ヲ給餌臺ニ泥蟲ト共ニ給與ヲ始メタルニ順調ナル天候ト相俟ツテ良好

ナル發育ヲ見タリ、而シテ七月稻田養鯉ノ放養期ニ入りタルヲ以テ七日ヨリ整理ニ着手シ十三日全部之ヲ終了シ約十一萬  
 尾(一寸―二寸)ヲ民間ニ配布シ其ノ際獨逸系統及ビ緋鯉系統ノモノハ之ヲ除去シ五萬尾ヲ本場飼育用トシ左記ノ通各池  
 ニ放養セリ

(イ) 放養尾數

池別	面積	放養尾數	放養月日	備考
第二號池	三〇〇坪	一〇、〇〇〇尾	七月十五日	各池共種苗一尾ノ平均 ハ一寸五分内外ナリ
第三號池	三〇〇坪	一五、〇〇〇尾	同 十二日	
第四號池	一八〇坪	一一、〇〇〇尾	同 十三日	
第五號池	二二〇坪	一四、〇〇〇尾	同 七日	
計	一、〇〇〇坪	五〇、〇〇〇尾		

(ロ) 放養後ニ於ケル月別平均重量  
 七月 二、五  
 八月 八、〇  
 九月 一四、五  
 十月 一八、二

取揚時 一七、〇  
 右重量ノ測定ハ投餌場ニ集ルモノ百尾ヲ捕獲シ毎月一回最終日ニ之ヲ實施セリ

五、水溫ト給餌量

月別項目	水溫		月別給餌量	種類	給餌量
	午前	午後			
六月 上旬	二二、〇	二五、二	一九〇、三〇〇	米糠	七、五〇〇
六月 中旬	二五、二	二八、三	三〇六、〇〇〇	小割麥	五、〇〇〇
六月 下旬	二四、八	二七、七	一七六、〇〇〇	米糠	三、〇〇〇
			一七、八〇〇	小割麥	一〇、〇〇〇
			〇〇〇、〇〇〇	琴蟲	一〇、〇〇〇
			〇〇〇、〇〇〇	鈔	三、八〇〇



收支決算			
取揚人夫賃	一〇人分	一人	一、〇〇〇
雜費			一〇〇〇〇
計		八二五四〇	注排水口金網修繕、取揚用網具修繕其ノ他
差引收益		四七八〇〇	

### 養鰻經濟試驗

- 一、趣旨  
本事業ハ毎年之ヲ繼續實施シ斯業獎勵ノ資ニ供セントス
  - 二、試驗施行場所  
本場養鰻池 第二二號池 第二三號池
  - 三、飼育池  
縱五間、横五間、水深三尺内外、池形正四邊形ニシテ有効水面積二五坪ナリ、池ノ側壁ハ全部コンクリートニテ固定シ池底二二號池ハ全部コンクリートニテ固メ二三號池ハ側壁ニ沿ヒ幅三尺ヲコンクリートニテ固メ中央部ハ砂礫ノ儘トシ兩池共其ノ上ニ泥土ヲ敷キ詰メタリ  
用水ノ大部分ハ河水ニシテ之ニ幾分ノ滲透水ノ混合セルモノヲ本場冷水魚池ニ湛水シタルモノニシテ約二町ノ間ヲコンクリート埋管ニテ引水ス  
注排水口ハ何レモ幅一尺五寸ニシテ二分角目ノ金網戸ヲ挿入ス、注水量毎秒約四立内外ナリ
  - 四、放養量  
種鰻ハ静岡縣榛原郡吉田村、農林省水産講習所實習場ヨリ直接分譲ヲ受ケタルモノニシテ平均重量左記ノ如シ
- |       |     |        |        |      |      |
|-------|-----|--------|--------|------|------|
| 第二二號池 | 第一回 | 二一、〇〇〇 | 一、六三四尾 | 一尾平均 | 一三匁三 |
|-------|-----|--------|--------|------|------|

第二回	二四、〇〇〇	一、七六二尾	同	一三匁九
第二三號池	二〇、七〇〇	一、五一一尾	一尾平均	一三匁三
第二二號池	四、〇〇〇	一〇一尾	一尾平均	三六匁
第一回	二、六〇〇	五二〇尾	同	五匁
第二三號池	四、〇〇〇	一〇六尾	一尾平均	三八匁

#### 五、飼育經過ト期間

(イ) 第一回  
引水河川斷水ノタメ放養モ例年ヨリ遅レタルタメ水温モ上昇シ餌料ハ新鮮ナル生蠶ヲ茨城縣那賀郡湊町ヨリ購入給與セシニ餌付比較的早ク放養後五日目頃ヨリ索餌ヲ始メ十日目頃ニハ兩池共殆ンド全部ノ索餌ヲ見ルニ至リタルヲ以テ鰻苗ノ放養ヲナセリ

#### (ロ) 第二回

種苗ハ第一回同様水産講習所實習場ヨリ分譲ヲ受ケタル養中物ニシテ之ニ第一回ニ於テ成長不良ニシテ販賣不能ナル殘重三貫餘ヲ混養セルタメ數日ニシテ索餌ヲ始メタリ、依テ一週間後ニハ鰻兒ノ放養ヲナシタリ  
第一、二回共發育概シテ順調ナリシモ引用河川上流及ビ沿岸附近ニ於テ災害復舊工事ニ依ル水ノ増減濁濁或ハ降雨増水ニ依ル濁濁等ノ爲メ屢々給餌ノ中止ヲナセリ

#### 六、水温ト種類別給餌量

- A. 第二二號池  
a. 第一回

月別項目	五月(下旬)			六月(下旬)			七月(下旬)			八月(下旬)			九月(下旬)		
	前	中	上	前	中	上	前	中	上	前	中	上	前	中	上
水	14,4	15,3	18,4	17,5	18,4	19,0	23,4	24,0	23,4	23,2	24,3	23,2	23,6	24,1	19,8
温	17,2	18,0	17,2	19,8	20,5	19,1	24,2	24,2	25,5	24,7	25,1	24,7	24,5	26,6	22,1
月別給餌量	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100
種類															
魚別給餌量															
量															

B. 第二三號池

計	第一、二回累計	十月(上旬)
1,5,000	1,3,400	1,8,3
9,0,000	1,3,500	2,0,7
7,6,100		

月別項目	八月(下旬)			九月(下旬)		
	前	中	上	前	中	上
水	23,2	24,5	23,3	19,8	23,6	24,1
温	24,7	25,1	25,5	22,1	24,5	26,6
月別給餌量	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100
種類						
魚別給餌量						
量						

b. 第二回

月別項目	五月(下旬)			六月(下旬)			七月(下旬)		
	前	中	上	前	中	上	前	中	上
水	14,4	15,3	18,4	18,4	17,5	15,3	19,0	19,4	18,0
温	17,2	18,0	17,2	19,8	20,5	19,1	24,2	24,2	25,5
月別給餌量	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
種類									
魚別給餌量									
量									

十月(月上旬)	一七、三	一九、七	一三、五〇〇	八、〇〇〇	五、五〇〇	六、一〇〇
計			三六、二〇〇	一七、五〇〇	二四、〇〇〇	六、一〇〇

五八

C. 飼育期間

第二三號池 第一回 自五月二十一日至七月二十六日  
 第二回 自八月三日至十月十四日  
 第二三號池 自五月二十一日至十月八日

七、結果

第二三號池生産高

第一回 鰻 三八、四〇〇 一、三七二尾 鰻(中羽) 八、八〇〇 一〇六尾  
 第二回 鰻 三三、七〇〇 一、六一四尾 鰻(新仔) 七、〇〇〇 五一八尾

第二三號池生産高

鰻 六二、二〇〇 一、三五九尾 鰻(切鰻) 一七、六〇〇 一一〇尾

從來本試験ハ兩池共二回收納ヲ行ヒ第一回ハ「土用丑の日」直前ニ取揚グ値段ノ最モ高騰セル該時期ニ賣却シ第二回ハ十月上旬ニ之ヲ販賣セルヲ例トセルモ本年ハ前述ノ如ク二二號池ヲ二回收納トシ二三號池ヲ一回收納トナシ以テ經濟比較試験ヲ實施セルニ左記收支關係ニ記述セル如キ結果ヲ得タリ

收支關係

第二三號池(收入之部)

鰻賣上代(第一回) 三八、四〇〇 百匁 三二  
 同(第二回) 三三、七〇〇 二七  
 中羽鰻賣上代(第一回) 八、八〇〇 二二  
 新仔鰻賣上代(第二回) 七、〇〇〇 一八  
 計 一二二、八八  
 九〇、九九  
 一〇、五六  
 一二、六〇  
 二二七、〇三

(支出之部)

種鰻購入代(第一回) 二一、〇〇〇 百匁 四〇  
 同(第二回) 二四、〇〇〇 四〇  
 同(第一回)(中羽鰻) 四、〇〇〇 一二  
 同(第二回) 二、六〇〇 一八  
 生鰻 代(第一回) 七、八二〇 〇二  
 同(第二回) 一三二、五〇〇 一三  
 魚 代(同上) 九〇、七〇〇 〇三  
 計 二二五、〇六  
 一一、九七

第二三號池(收入之部)

鰻賣上代 六二、二〇〇 百匁 二七  
 切鰻賣上代 一七、六〇〇 〇

(支出之部)

鰻種代 二〇、七〇〇 千匁 四〇  
 生鰻代 四、〇〇〇 一二  
 魚 代 六六、一〇〇 二〇  
 計 一七七、五〇〇 一三  
 一七、三〇  
 一二七、三一  
 五八、二三

以上ノ成績ニ徴スルニ種苗ノ高價ト餌料費ノ高騰ニ依リ小規模經營ノ養鰻事業ハ收支相償ハザル結果ヲ見タリ

蛹餌料比較試験

- 一、目的  
生蛹、丸乾蛹、脱脂蛹ノ三種ニツキ鯉増肉量ノ比較試験ヲ爲サムトス
- 二、供試魚  
三年生鯉(中羽)ニシテ一尾平均百匁ニ満たサルモノナリ
- 三、期間  
自昭和十一年七月一日 六十二日間  
至昭和十一年九月一日
- 四、試験池面積並放養量

池別	坪数	放養尾数	放養貫数	備考
十六號池	十五坪	五六尾	四、五〇〇	坪當ノ放養量ヲ三池同一トセリ
十七號池	二十一坪	七二尾	六、三〇〇	
十八號池	二十一坪	八四尾	六、三〇〇	

- 五、餌料相互關係並大麥トノ混合割合  
生蛹一箱ノ重量ハ必スシモ一定セサルモ前橋製練所多年ノ經驗ニ依レバ七、五〇〇匁乃至八、〇〇〇匁ヲ正量トシ普通七、七〇〇匁ヲ以テ生蛹一箱ノ重量トセリ、依ツテ七、五〇〇匁ト八、〇〇〇匁ノ中間ヲ採リ七、七五〇匁ヲ生蛹一箱ノ平均重量トセル場合、コレヲ丸乾セルトキハ二、六〇〇匁トナリ脱脂スル場合ハ二、一六〇匁ニシテ各餌料間ノ出來上リ割合ハ  
1.13:1.3.6ナリ
- 而シテ各餌料ニハ植物性食物トシテ大麥ヲ混シ其ノ割合ハ生蛹ニ換算セル場合ノ約四割トセリ
- 六、投餌總量

池別	飼料	尾数	大麥	飼料
十六號池	丸乾	七、四五〇匁	同	一四貫一四〇匁(一斗一合)
十七號池	脱脂	九、〇六〇匁	同	一九貫一九〇匁(一斗三升七合)
十八號池	生蛹	三、〇〇〇匁	同	一九貫一九〇匁(一斗三升七合)

- 七、餌料ノ價格  
生蛹 七、七五〇匁(石油箱一個入) 九〇錢  
丸乾 九、七〇〇匁(十貫入ノ正味量) 三、七〇錢  
脱脂 九、七〇〇匁(十貫入ノ正味量) 三、六〇錢
- 八、放養量ハ増肉量トノ關係

池別	放養尾数	取揚尾数	斃死尾数	放養當時ノ貫数	取揚當時ノ貫数	増肉量
十六號池	五六	五五	一	四、五〇〇	一〇、二〇〇	五、七〇〇匁
十七號池	七二	七二	一	六、三〇〇	一四、二〇〇	七、九〇〇匁
十八號池	八四	八一	三	六、三〇〇	一四、七〇〇	八、四〇〇匁

昭和八年度實施セル單一餌料試験ノ成績ニ徴スルニ大麥八升ニ對スル鯉増肉量ハ一貫匁ニ該當スルヲ以テ各池ニ於ケル大麥ノ増肉量ヲ控除セルモノヲ蛹ニ依ル増肉量ト見做セバ次ノ如シ

池別	總増肉量	大麥増肉量	蛹増肉量
十六號池	五、七〇〇匁	一、二六三匁(一斗一合)	四、四三九匁
十七號池	七、九〇〇匁	一、七一二匁(一斗三升七合)	六、一八八匁
十八號池	八、四〇〇匁	一、七一二匁(一斗三升七合)	六、六八八匁

- 九、結果
- 1. 増肉量一貫匁ニ要スル餌量並價格ハ次ノ如シ  
丸乾 一、六七八匁 六四錢  
脱脂 一、三五五匁 四九錢  
生蛹 四、六三五匁 五四錢
- 2. 生蛹七、七二五匁ヲ丸乾並脱脂セル場合ノ各増肉量ハ左ノ如クニシテ生蛹、丸乾蛹、脱脂蛹ノ順位ナリ  
増肉量 一、六七二匁

調査竝指導ノ部

丸乾蛹 二、六〇〇匁 増肉量 一、五三六匁  
 脱脂蛹 二、一六〇匁 増肉量 一、四七七匁

3. 鯉ノ健康状態ヨリ見レバ丸乾蛹ヲ使用セルモノ優秀ニシテ乾燥蛹コレニ次ギ生蛹劣位ナリ



調査竝指導ノ部

丸乾蛹	二、六〇〇	増肉量	一、五三六
脱脂蛹	二、一六〇	増肉量	一、四七七

三、鯉ノ健康状態ヨリ見レバ丸乾蛹ヲ使用セルモノ優秀ニシテ乾燥蛹コレニ次ギ生蛹劣位ナリ

食用鱒料理講習會

一、目的

養殖鱒ノ食用價值ノ普及宣傳ヲ圖ル爲料理講習會ヲ開催セリ出席者多ク極メテ有意義ニ講習會ヲ終了セリ

二、開催月日

昭和十二年三月十二日午後一時

三、場所

利根郡水上村 神峽樓旅館

四、講師

東京市京橋區銀座 桃山料理鹿鳴館主 山下 茂

五、臨席者

東京市麴町區二丁目 東亞物産商會 赤城 慎次

東京 食道樂雜誌記者 多田 鐵之助

群馬縣廳農務課 瀧澤 覺三

同 技手 福田 隆道

六、主催者側出席者

井澤場長、石井技師、鷺田主事補、船木技手、羽鳥助手

七、講習者住所氏名

料理人組合長	中川 三山	香月 旅館	齊木 ヒロ	森田 旅館	倉田 勝也
料理人	蛭川 喜衛	塚越 旅館	齋藤 宮内	榛名山湖畔亭	門倉 連三
ケイブルカー食堂	藤寅 雄	蓬來 旅館	深澤 吉穂	岸權 旅館	宮田 榮一
吉見屋	奥泉 米吉	福一 旅館	葉原 光雄	千明仁泉亭	山田 千太郎
石坂旅館	戸塚種四郎	辨天瀧養魚場	堀米 秀	伊香保温泉自動車會社	飯田道喜
松本楼	生方時治	横手旅館	高橋勝次郎	醉月旅館	田中藤一郎

いさご料理店	渡邊恒次郎				
利根郡水上村					
鹿野澤館	萩原一光	菊富士旅館	飯島春吉	古屋旅館	若井条太郎
料理人	五十嵐源次郎	蒼海ホテル	原信次	料理人	荒井熊藏
本家旅館	竹田留吉	奥利根館	松本寅太郎	山景館	高野善作
料理人	石橋藤之助				
利根郡新治村					
法師 温泉	料理人				
利根郡利南村					
養鱒業者	山田徳十郎				
前橋市					
嬉野市	藤井留治	樂	安井鎌信		
長野縣明科養鱒場	茂木千代子				
計三十五名					

八、講義

河鱒及虹鱒ノ左記調理法ニ關シ講義ヲナス

一、化粧鹽焼	二、南部焼	三、二身焼	四、卷煎焼	五、西京漬焼	六、白酒焼
七、一鹽焼	八、山椒焼	九、五色焼	一〇、粕漬焼	一一、卵の花焼	一二、味淋干
一三、わた焼	一四、らんちゆう焼	一五、照焼	一六、竹焼	一七、宿借焼	一八、みぞれむし
一九、櫻むし	二〇、若草むし	二一、菜種むし	二二、五月むし	二三、芝むし	二四、ちりむし
二五、更科むし	二六、ぬた	二七、春切	二八、山かけ	二九、たゝき	三〇、霜ふり
三一、真砂和	三二、みぞれ汁	三三、くず打	三四、ぶつ切三州汁	三五、やさちり汁	三六、西京汁
三七、あらい	三八、石焼	三九、鹹焼	四〇、杉板焼	四一、紙焼	四二、寶樂焼
四三、赤土焼	四四、このはた焼	四五、酒盜焼	四六、唐揚	四七、道明寺焼	四八、天ぶら
四九、吉野揚	五〇、松葉揚	五一、うに揚	五二、御影揚	五三、錦揚	五四、舟揚

五五、水焚	五六、松前むし	五七、細づくり	五八、皮霜	五九、海苔卷	六〇、壽し
六一、子持焼	六二、南蠻漬	六三、飴焚	六四、煮浸	六五、昆布卷	六六、養蠶卷
六七、油煮	六八、千草揚	六九、紅櫻揚	七〇、春山揚	七一、五色揚	七二、みぞれ煮
七三、ごかれん煮	七四、船揚煮	七五、じふ煮	七六、高野揚		

九、講習料理

講習献立左ノ如シ

1. 膳菜 (菜種ノカラシ漬)
2. 向 (河鱒ノ背切)
3. 汁 (焼ちり仕立、豆腐、小燕、レモン)
4. 刺身 (河鱒、たゝき仕立)
5. 口代 (河鱒、鮎煮、敷若菜)
6. 焼肴 (河鱒、紙焼、たひ酢添)
7. 揚物 (道明寺揚、青唐、美味出汁)
8. 強物 (松葉揚、酢出汁)
9. 追肴 (河鱒のらんちゆう、あんかけ)
10. 菜 (吉野揚、茄子茶仙)

鮎池中養殖ニ關スル座談會

鮎池中養殖業ノ向上發展ヲ圖ル爲左ノ通座談會ヲ開催セリ

第一回

- 一、開催月日 昭和十一年八月一日
- 一、場所 群馬縣水産試験場會議室
- 一、出席者

本場側 井澤場長、石井技師、楠本技手、片桐技手、船木技手、羽鳥助手

當業者 確水郡磯部町 矢野揚平  
 勢多郡南橋村 渡邊爲一  
 群馬郡總社町 立見藤太  
 同 伊香保町 須田佐内  
 高崎市 鉢金鍋十郎  
 北甘樂郡富岡町 關口照次  
 同 加藤一次郎  
 本場講習生 萩原好夫  
 同 新井文雄

第二回

一、開催月日 昭和十二年三月五日

一、場所 群馬縣水産試験場會議室

一、出席者

本場側 井澤場長、石井技師、片桐技手、船木技手、羽鳥助手、田中助手  
 當業者 大河原右一、乾久治、松田知一、加藤一次郎、渡邊爲一、矢野揚平、富澤佐市、佐藤勝雄、渡木京一、湯淺幸太郎

養鱒ニ關スル座談會

鱒ノ池中養殖ノ向上發展ヲ圖ル爲左記ニ依リ座談會ヲ開催セリ

會場 利根郡水上村大字大穴 奧利根館

期日 昭和十二年三月十三日午前十一時—午後二時四十分

出席者

縣廳側 澁澤屬、福田技手  
 本場側 井澤場長、石井技師、三浦技手、片桐技手、田中助手、鷺田主事補

當業者側 十五名

水上村 木村喜作、田村美雄、田村經三郎、阿部留吉、小野覺内、小林西松  
 川場村 宮内大膳、井上久一郎  
 赤城根村 林 一郎  
 片品村 星野 莊三  
 利南村 山田徳十郎  
 伊香保町 飯田 道喜  
 室田町 門倉 連式  
 利根漁業組合 林庸太郎、黒岩佐銀太

水産講習

近時水産養殖業ノ著シキ發展ヲ見ツツアルハ誠ニ喜ブベキ現象ナルモ愈々其ノ完璧ヲ期スルニハ業者ニ必要ナル學科ト技術トヲ習得セシメ經營上誤ナカラシムルコト肝要ナリ、依ツテ本場ニ於テハ昭和十一年ヨリ新ニ群馬縣水産試験場講習規程ヲ設ケ講習生ノ募集ヲ行ヒタルニ三名ノ應募アリタルヲ以テ七月十一日ヨリ八月十日ニ至ル一ヶ月ニ互ル短期講習ヲ開設左記三名ニ對シ修業證書ヲ授與セリ

多野郡万場町 新井文雄  
 新田郡藪塚本町 今井伊太郎  
 吾妻郡長野原町 萩原好夫  
 群馬縣水産試験場講習規程

第一條 水産養殖業ノ改良實行ニ必要ナル學科及技術ヲ習得セシメ將來町村ノ模範養魚家タルヘキ者ヲ養成スル目的ヲ以テ本規程ニ依リ講習ヲ開設ス

第二條 講習ハ毎年一回以上水産試験場ニ於テ開設シ其ノ期間ヲ三ヶ月以内トス

講習ノ期日及期間講習生定員並出願期限等ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

第三條 講習科目左ノ如シ

昭和十二年度事業報告

- 一、水産業大意
  - 二、養魚經營法
  - 三、養魚方法(實習)
  - 四、科外講演
- 第四條 講習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノニシテ市町村長ノ選抜推薦シタルモノニ限ル
- 一、本縣ニ居住シ年齢二十歳以上ノ男子
  - 二、高等小學校ヲ卒業セルモノ
  - 三、身體強壯品行方正ナルモノ
- 第五條 講習終了者ニハ修業證書ヲ授與ス
- 第六條 講習生ニシテ修業ノ見込ナク或ハ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ講習停止ヲ命スルコトアルヘシ

- 一、水産業大意
  - 二、養魚經營法
  - 三、養魚方法(實習)
  - 四、科外講演
- 第四條 講習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノニシテ市町村長ノ選抜推薦シタルモノニ限ル
- 一、本縣ニ居住シ年齢二十歳以上ノ男子
  - 二、高等小學校ヲ卒業セルモノ
  - 三、身體強壯品行方正ナルモノ
- 第五條 講習終了者ニハ修業證書ヲ授與ス
- 第六條 講習生ニシテ修業ノ見込ナク或ハ不都合ノ行爲アリト認めルトキハ講習停止ヲ命スルコトアルヘシ

## 昭和十二年度事業報告

事

業

ノ

部

鯨増殖事業

一、孵化放流事業  
 1、孵化事業  
 本年度鯨族増殖事業トシテ本場孵化場及川場養魚場孵化場ニ收容セル鯨卵總數九二二、一八六粒ニシテ其内譯及孵化率ハ次表ノ如シ

種卵名	收容卵數		計數	孵化尾數	孵化率
	採卵數	購入卵數			
虹鯨卵	三三、六〇〇	四三、五八六	五四、一八六	三九、九七	七、六
河鯨卵	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	二〇八、二七	六、六
鯨計	一八、〇〇〇	三〇、〇〇〇	九三、一八六	二九、九七	九、八
			配給五、〇〇〇	六三、五〇一	七、二

尙收容卵ノ孵化成績ヲ示セバ次表ノ如シ  
 A、本場孵化場

種卵名	採卵地名	收容月日	收容卵數	死		計數	孵化期	孵化尾數
				發眼前	發眼後			
虹鯨卵	本場	十二年四月五日	一七、〇〇〇	四、二八五	一、三七五	五、六〇〇	至自五月二〇日	一一、三四〇
同	長野縣木崎湖	四月六日	一〇、〇〇〇	—	八七四	八七四	至自四月二〇日	九、二六
同	本場	四月三日	八、〇〇〇	二、〇二七	九八	二、九六五	至自五月二六日	五、〇三五
同	木崎湖	四月三日	一〇、〇〇〇	—	一、七三三	一、七三三	至自四月二五日	一八、三七







計	一七	二六	二九九	二九九	五、〇〇〇	五、〇〇〇			
---	----	----	-----	-----	-------	-------	--	--	--

鮎 増殖事業

一、小鮎ノ放流事業

從來琵琶湖産小鮎ノ輸送ハ東海道經由ナリシモ本年度ハ經費節減ノ目的ヲ以テ中央線經由ニ依リ之ガ輸送ヲ試ミタリ、即チ東海道經由ノ場合ハ米原ヨリ東京新橋汐留迄貨物車輸送ヲナシ直チニ貨物自動車へ積ミ換へ各放流地點へ運搬セシモ自動車ニ依ル輸送經費相當多額ニ達スルヲ以テ時間的ニハ從來ノ方法ヨリ遙カニ多キ中央線ヲ選ビ高崎驛迄直接汽車輸送ヲナシ直チニ貨物自動車ニ移シ各放流地點へ運搬放流シタリ、然ルニ其ノ輸送成績極メテ優良ナルノミナラズ輸送經費ニ於テ一萬尾ニ付約二十圓内外ノ節減ヲ見タルヲ以テ本場購入十六萬餘尾ノ端數ヲ除ク他ハ全部ヲ此ノ經路ニ依リ輸送シ尙民間團體其ノ他ノ購入斡旋分モ同様高崎驛へ直接汽車輸送ヲ爲セリ、右輸送時間ハ三十一時間五十一分ニシテ輸送順路ノ詳細次ノ如シ



尙本年度ニ於テハ神奈川縣三浦郡水産會ヨリ海産稚鮎三萬三千尾ノ分讓ヲ受ケ多野郡上野村地内神流川へ放流セリ

A、琵琶湖産小鮎

第一回到着 (四萬尾) 昭和十二年五月十三日

天候	放流時刻	放流場所	放流河川名	尾數	斃死數	氣溫	水溫	水運	備考
晴	自午前七時三十分至午前九時十分	北甘樂郡小野村外三ヶ所	鑄川	一四、九七	二	一七、七	一五、二	一〇、〇	東鑄漁業組合地區
晴	自午前七時十五分至午前八時	同 馬山村外三ヶ所	同	九、九七	二	一三、五	一三、五	一〇、五	鑄川漁業組合地區
晴	自午前六時三十分至午前六時五十分	群馬郡澁川町	利根川	一四、九五〇	五〇	一一、〇	九、九	九、九	阪東水産會地區
計				三九、九〇六	九四				

第二回到着 (四萬尾) 昭和十二年五月十九日

晴	自午前七時至午前七時三十分	多野郡吉井町外三ヶ所	鑄川	一四、九六〇	四〇	二一、五	一五、〇	一一、〇	東鑄漁業組合地區
晴	自午前六時三十分至午前六時十分	群馬郡久留馬村 碓氷郡磯部町	鑄川 鳥川 碓氷川	九、九六〇	四〇	一八、〇	一五、〇	一一、〇	兩川漁業組合地區
計				二四、九二〇	八〇				殘一萬尾ハ民間購入斡旋ニ充當

第三回到着 (四萬尾) 昭和十二年五月二十二日

曇小雨	午前六時	群馬郡白鷺井村	利根川	一四、九六〇	四〇	一七、〇	九、二	一一、〇	阪東水産會地區
曇小雨	午前六時三十分	勢多郡敷島村	同	九、九八四	一六	一七、〇	九、三	一一、〇	同
曇	自午前七時十五分至午前十時二十分	利根郡東村 外三ヶ所	片品川	一四、九九〇	一〇	九、五	八、五	一〇、〇	利根漁業組合地區
計				三九、九三四	六六				

第四回到着 (四萬尾) 昭和十二年五月二十五日

計	晴	晴	晴
	午前七時二十分	自午前八時三十分 至午前九時五十分	自午前七時 至午前八時三十分
	利根郡沼田町	外三ヶ所 利根郡南村	利根郡川田村 利根郡新治村
	同	利根川	利根川 赤谷川
	三九、八九二	九、九九二	一四、九六〇 一四、九四〇
	一〇八	八	四〇
		一七、〇	一七、〇
		一七、〇	一九、〇
		七、八	九、五
		一〇、五	一二、〇
		二、〇	二、五
		同	同
		同	同
		同	利根漁業組合地區

第五回到着 (二萬尾) 昭和十二年五月三十日

計	晴
	午前十一時三十分
	利根郡川田村 外一ヶ所
	利根川
	一九、九七五
	二五
	一八、〇
	一二、〇
	一四、八
	一〇、五
	一三、五
	利根漁業組合
合計	一六四、六二七
計	一六四、六二七

尙前記放流尾数ヲ河川別ニ一括表示スレバ次ノ如シ

河川別	琵琶湖産小鮎	海産稚鮎
利根川本流	九四、八〇一尾	
片品川	一四、九九〇	
赤谷川	四、九六〇	
鍋川	三九、九一六	
鳥谷川	九、九六〇	
碓氷川		三三、〇〇〇尾
神流川		三三、〇〇〇尾
計	一六四、六二七尾	三三、〇〇〇尾

B、海産稚鮎

第一回到着 (二萬尾) 昭和十二年四月二十四日

計	晴	晴
	午後三時十分	午後三時
	同	多野郡上野村大字 新羽
	同	神流川
	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	五六	五三
	一六、〇	一六、〇
	一〇、七	一〇、七
	一〇、七	一〇、五
	同	同
		南甘漁業組合地區

第二回到着 (一萬三千尾) 昭和十二年五月七日

曇	午後三時四十五分	多野郡上野村大字 乙父	神流川	一三、〇〇〇	一〇	一一、一	一一、一	一〇、〇	南甘漁業組合地區
計				一三、〇〇〇	一〇				
合計				三三、〇〇〇	一〇九				

二、鮎人工孵化放流事業

前年度同様岐阜縣長良川水産會ヨリ鮎卵一千萬粒ヲ購入左記ノ通收容夫々孵化放流セリ

孵化場名稱	收容卵數	收容月日	發眼月日	孵化開始	孵化終了	孵化率	孵化水温	備考
前橋孵化場	八十萬粒	十月六日	十月十二日	十月十八日	十月二十五日	八〇%	二十一度	
芝根孵化場	九百二十萬粒	十月六日	十月十二日	十月十五日	十月二十八日	八〇%	十四度	

公魚孵化放流事業

茨城縣水産試驗場ヨリ、霞ヶ浦産公魚卵九六〇萬粒ヲ購入シ左ノ通り孵化放流セリ

收容月日	時刻	天候	氣温	水温	收容場所	收容卵數	摘	要
二月十一日	午後四時	晴	三、五	〇、五	赤城大沼	二、四〇〇、〇〇〇		
同	午後二時	晴	〇、〇	四、〇	榛名湖	三、六〇〇、〇〇〇		
二月十二日	午前二時	晴	二、〇	三、〇	三名川貯水池	三、六〇〇、〇〇〇		
計						九、六〇〇、〇〇〇		

附記 一、赤城大沼ニ於テハ、青木旅館前方約五〇米ノ處ニテ結水(厚サ一尺五寸)ニ孔ヲ穿テ、之ヨリ繩ニ結ビ付ケタル  
 孵化枠ヲ湖中ニ垂下セシメタリ  
 二、榛名湖ニ於テハ、湖ノ東岸眞弓ノ清水ト稱スル湧水(水温一二、〇度)ノ注入スル湖岸水深約三尺ノ處ニ收容セリ  
 三、三名川貯水池ニテハ、大谷池ノ南部堰堤北端ノ池邊ニ、孵化枠ヲ箱ニ收メ、繫留浮泛セシメタリ

種卵種苗配給事業

住配所	氏名	種類	數量	配給月日	生産場所	備考
利根郡利南村	山田徳十郎	虹鱒卵	五、〇〇〇	二、二八	本場	有償配布
同 郡片品村	星野莊三	虹鱒卵	二、〇〇〇	二、二九	栃木縣養鱒協會	購入斡旋
同 郡水上村	小林政吉	同	一〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡水上村	木村喜作	同	二〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡水上村	小林西松	同	二〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡水上村	田村美雄	同	二〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡水上村	田村經三郎	同	二〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡東村	石原菊薫	同	一〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡東村	高見澤勝一	同	一〇、〇〇〇	同	同	同
同 郡倉田村	原田嘉九郎	同	五、〇〇〇	同	同	同
同 郡片品村	星野莊三	虹鱒卵	三、五〇〇	二、三	同	同
同 郡片品村	小林政吉	同	一〇、〇〇〇	二、三	同	同
同 郡草津町	重田角藏	同	二〇、〇〇〇	二、三	同	同
同 郡草津町	淺見安喜	同	一〇、〇〇〇	二、三	同	同
同 郡長野原町	黒岩濟治	同	五、〇〇〇	二、三	同	同
同 郡長野原町	三宅伊三郎	同	一〇、〇〇〇	二、三	同	同
同 郡長野原町	山田徳十郎	同	一〇、〇〇〇	二、三	同	同
計			二五〇、〇〇〇			

種卵種苗配給ノ圓滑統制ヲ圖ルタメ各魚種ノ種卵種苗ノ有償配給及購入ノ斡旋ヲナセリ各魚種別配給ハ左表ノ如シ

二、鱒兒ノ配給

住配所	氏名	種類	數量	配給月日	生産場所	備考
多野郡万場町	新井平三	河鱒一寸	一、〇〇〇	四、一〇	本場	有償配布
勢多郡敷島村	山口喜見治郎	同	二、五〇〇	四、一八	同	同
北甘樂郡月形村	松本大治郎	同	五、〇〇〇	四、一八	同	同
吾妻郡嬭戀村	深井勝太郎	同	五、〇〇〇	四、一六	同	同
同 郡長野原町	三宅伊三郎	同	五、〇〇〇	四、一六	同	同
同 郡長野原町	淺見安喜	同	二〇、〇〇〇	四、二〇	同	同
同 郡長野原町	天野照吉	同	一〇、〇〇〇	四、九	同	同
前橋市田中町	石原菊薫	同	五、〇〇〇	四、二五	同	同
利根郡東村	同	同	同	同	同	同

三、鯉兒ノ配給

合計	北甘樂郡月形村 群馬郡伊香保町 吾妻郡長野原町	松本大治郎 須田佐内 秋元春朝	同 同 同	一九,〇〇〇 三〇,〇〇〇 五,〇〇〇	六 五 六	二 三 一	同 同 同	同 同 同
----	-------------------------------	-----------------------	-------------	---------------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

住所	氏名	數量	配給月日	生産者	備考
足利市通二丁目	内山金藏	五、〇〇〇	七	本場	
群馬郡小野上村小野子	平方慶	一五、〇〇〇	七	同	
同郡古巻村	古巻農會	二〇、〇〇〇	七	同	
同郡總社町	總社農會	二〇、〇〇〇	七	同	
桐生市	桐生農會	九、〇〇〇	七	同	
勢多郡北橋村	北橋農會	三、〇〇〇	七	同	
同郡富士見村	群馬縣種畜場	三、〇〇〇	七	同	
前橋市	群馬縣師範學校	二、〇〇〇	七	同	
同	群馬縣農業教員養成所	三、〇〇〇	七	同	
勢多郡南橋村	桃川尋常高等小學校	三、〇〇〇	七	同	
同郡北橋村	堀口馬太郎	一、〇〇〇	七	同	無償
群馬郡新高尾村日高	田村登美郎	五〇〇	七	同	
多野郡多胡村鹽	橋爪古平	六〇〇	七	同	
群馬郡新高尾村日高	大爪藤平	二、〇〇〇	七	同	
同郡新高尾村日高	吉澤喜三郎	七〇〇	七	同	
同郡總社町	久保原次郎	七〇〇	七	同	

利根郡片品村	星野莊三	五、〇〇〇	四	本場	
同	小林政吉	一、〇〇〇	四	同	有償配布
同郡川場村	宮野喜一	一五、〇〇〇	四	同	
同	宮内正夫	一〇、〇〇〇	四	同	
同郡水上村	木村喜作	一〇、〇〇〇	四	同	
同	田村美雄	二、〇〇〇	五	川場	
同	田村經三郎	二、〇〇〇	五	同	
同	須藤吉太郎	一、〇〇〇	五	同	
同	小林西松	四、〇〇〇	五	同	
同	田村彦太郎	一、〇〇〇	五	同	
同	吉岡吉之助	三、〇〇〇	五	同	
同	石原菊董	八、〇〇〇	五	同	
同郡東村	利根漁業組合	二、五〇〇	五	同	
同	星野莊三	五、〇〇〇	五	同	
同郡沼田町	利根漁業組合	二、五〇〇	九	同	
同	利根漁業組合	二、五〇〇	九	同	
吾妻郡長野原町	淺見安喜	一五、〇〇〇	八	同	
同郡東村	大塚宗三郎	一〇、〇〇〇	八	同	
吾妻郡嬬戀村	深井勝太郎	五、〇〇〇	五	同	
勢多郡南橋村	渡邊爲一	一〇、〇〇〇	二	同	
同郡敷島村	須田定平	一、〇〇〇	二	同	
同	深澤信三	一、〇〇〇	二	同	
同郡南橋村	天野照吉	五、〇〇〇	六	同	
同	天野照吉	五、〇〇〇	六	同	
同	田村政吉	五、〇〇〇	六	同	
同	南甘樂郡組合	五、〇〇〇	六	同	
同	新井勝三郎	五、〇〇〇	六	同	

群馬郡總社町	福島兼内	七〇〇	七	二	同	
同	石井勝之助	七〇〇	七	二	同	
山田郡相生村	青木勝次郎	二,〇〇〇	七	二	同	
勢多郡富士見村	群馬縣種畜場	三,〇〇〇	八	六	同	
邑樂郡赤羽村	城沼漁業組合	三〇,〇〇〇	八	二〇	同	
多野郡藤岡町	三名川貯水池養魚組合	一〇,〇〇〇	九	一五	同	
邑樂郡多々良村	日向村漁業組合	二〇〇	三	二〇	渡邊爲一	
神奈川縣國府津驛前	瀬戸利三郎	二五〇	一	二五	養鯉組合	
邑樂郡三野谷村	近藤沼漁業組合	五〇	三	八	大島信吉外	
合計		一六〇,一〇〇				無償

四、金魚ノ配給

住所	氏名	數量	配給月日	生産者	備考
群馬郡總社町	持木文四郎	五〇	八、三	本場	

五、小鮎ノ購入斡旋

團體名並氏名	琵琶湖產小鮎	海產稚鮎	備考
利根漁業組合	五,〇〇〇	五〇,〇〇〇	放流用
阪東水産組合	二七,〇〇〇	二〇,〇〇〇	同
鍋川漁業組合		三〇,〇〇〇	同
南甘漁業組合			同

團體名並氏名	琵琶湖產小鮎	海產稚鮎	備考
東鍋漁業組合	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	放流用
勢多郡南橋村	八,〇〇〇		池中養殖用
群馬郡總社町	二,五〇〇		同
碓氷郡磯部町	六,〇〇〇		同
北甘樂郡一宮町	三,〇〇〇		同
碓氷郡里見村	六,八〇〇		同
同	四,〇〇〇		同
同	二,〇〇〇		同
同	一八,〇〇〇		同
高崎市			琵琶湖產小鮎中放流 養殖用五萬三千尾
計	八七,三〇〇	一一〇,〇〇〇	

試

驗

ノ

部



### 海産稚鮎河川増殖試験

#### 一、目的

本試験ハ昭和十一年度ヲ以テ連絡試験トシテハ一先打切ラル、コト、ナリタルモ農林省水産試験場ノ厚意ニ依リ一部稚鮎ノ無償交付ヲ受ケタルヲ以テ主トシテ漁獲成績調査ニ眼點ヲ置キ本試験ヲ實施セリ

#### 二、種苗

神奈川県三浦郡長井町地先小多和灣附近ニ於テ採捕畜養中ノモノ三萬三千尾ヲ入手四月二十四日及五月七日ノ兩回ニ互リ貨物自動車運搬ヲナシ、多野郡上野村大字乙母及大字乙父地先神流川ニ放流セリ、運搬成績極メテ良好ニシテ兩回ヲ通シ斃死魚僅カニ百餘尾ヲ出シタルニ過キヌ而シテ放流當時ノ河水温ハ攝氏一〇・七及一一・二ヲ示セリ  
放流魚ノ測定次ノ如シ

最大型			最小型			平均			備考
全長	體高	體重	全長	體高	體重	全長	體高	體重	
七、〇 <sup>cm</sup>	〇、九 <sup>cm</sup>	二、〇 <sup>g</sup>	五、〇 <sup>cm</sup>	〇、七 <sup>cm</sup>	一、一 <sup>g</sup>	六、二 <sup>cm</sup>	〇、八 <sup>cm</sup>	一、四 <sup>g</sup>	十尾測定

#### 三、鮎ノ移動狀況

鮎ノ移動狀況ハ前三ヶ年ト全ク同一傾向ヲ示シ上下流ヲ通シ約五里ノ範圍トス、本年度ニ於テハ支流ヘノ湖上全クナシ、而シテ放流地點ヨリ上流二里ノ間ニ滞留スルモノ最モ多シ

#### 四、成長度

成長度ノ調査ハ大體月二回之ヲ施行セリ

調査月日	項	最大型			最小型			平均			測定尾數
		全長	體高	體重	全長	體高	體重	全長	體高	體重	
六月十五日		一四、〇 <sup>cm</sup>	一、八 <sup>cm</sup>	九、五 <sup>g</sup>	九、八 <sup>cm</sup>	一、七 <sup>cm</sup>	七、五 <sup>g</sup>	二、二 <sup>cm</sup>	一、八 <sup>cm</sup>	八、四 <sup>g</sup>	五尾
七月一日		一五、四 <sup>cm</sup>	三、〇 <sup>cm</sup>	四五、〇 <sup>g</sup>	一〇、四 <sup>cm</sup>	一、五 <sup>cm</sup>	二、三 <sup>g</sup>	三、七 <sup>cm</sup>	二、七 <sup>cm</sup>	三、九 <sup>g</sup>	一尾

七月十日	一七、三	三、九	六、五	一六、九	三、七	五、三	一七、一	三、七	五、八	三	尾
八月九日	二〇、九	四、〇	七、一	一四、五	二、二	三、六	一六、七	三、一	四、七	一	尾
八月十日	二二、八	四、八	一五、〇	一	一	一	一	一	一	一	尾
八月十五日	二四、二	五、八	一八、〇	一	一	一	一	一	一	一	尾

尙總漁獲尾數並貫數ヨリ算出セル月別一尾平均重量ハ次ノ通ニシテコレヲ前三ケ年ノ成績ニ比較スルトキハ昭和十一年度ヨリ稍良好ナルモ九、十兩年度ヨリ稍劣レリ

月別	一尾平均重量	日別	一尾平均重量
七月	九、六匁	九月	一七、二匁
八月	一二、〇匁	十月	二〇、〇匁

五、漁獲高

漁獲ハ地元ノ申合セニ依リ七月一日ニ開始シ十月初旬ヲ以テ終了ス月別漁獲高次表ノ通ニシテ總漁獲尾數一六、五二三尾之カ貫數二〇二、七七八匁ニシテ放流尾數三三、〇〇〇尾ニ對スル漁獲率五割強ニシテ前年度ノ六割四歩ニ比シ一割四歩ノ低減ヲ見タリ月別漁獲割合モ前年度ト全ク同様ニシテ八月盛漁ニシテ七月、九月ノ順トス八月特ニ多キハ八月一日ヨリ眼鏡掛漁業解禁セラレ、關係ニシテ漁法トシテハ前記眼鏡掛ノ外友釣投網築ナリ

月別	漁獲尾數	同貫數
七月	一一、三〇〇	二一、九九七
八月	一一、四三七	一四九、一〇三
九月	一、四八〇	二五、五二八
十月	三〇六	六、一五〇
計	一六、五二三	二〇二、七七八

六、氣溫並水溫

試驗期間中ノ天候氣溫並水溫次ノ如シ

月別	旬別	氣溫	最高	最低	平均	晴	曇	雨	雪
四月	上旬	一三、〇	一三、九	五、二	八、〇	七	一	一	二
四月	中旬	一三、二	一三、〇	一、八	二、五	八	一	一	一
四月	下旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	六	一	一	一
五月	上旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	九	一	一	一
五月	中旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	八	一	一	一
五月	下旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	六	一	一	一
六月	上旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	七	一	一	一
六月	中旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	六	一	一	一
六月	下旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	九	一	一	一
七月	上旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	七	一	一	一
七月	中旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	六	一	一	一
七月	下旬	一三、三	一三、〇	一、八	二、五	七	一	一	一

八 月		
下 旬	中 旬	上 旬
水氣 溫	水氣 溫	水氣 溫
二七、〇	二六、〇	二四、〇
二五、六	二六、七	二七、八
二四、〇	二六、七	二七、八
二五、六	二六、七	二七、八
二五、六	二六、七	二七、八
一 〇	九	九
一	一	一

鱒族飼育改良試験

前年度來ノ繼續事業ニシテ本年度ハ新潟縣魚沼養魚場産虹鱒卵及青森縣十二湖産虹鱒卵ヲ本場ニ山形縣月山養魚場産河鱒卵ヲ川場養魚場ニ收容試験ヲ施行セリ

甲表	鱒族飼育改良試験	新潟縣水産試験場
試驗施行地	中魚沼郡茅ヶ崎村谷内魚沼養魚場	試驗魚種 虹 鱒
養河 面積	八五、六坪	狀 方 形
成川 深 度	三尺八寸	水 温
池 底 質 質	泥質砂礫混入	最高 一五、〇度(八月六日)
或 湖 底 質 質	泥質砂礫混入	最低 三、〇度(一月十六日)
ハ 沼 水 質 質	湧 水	年平均 八、三度
放 養 尾 數	坪當尾數 七尾	注 水 量
餌料ノ種類	鱒三〇 鹽蟲三〇 血液肝臟二五 麥粉五 數五 野菜五	最多 一、九〇〇立(八月六日)
配合ノ割合	以上ノ混合餌料ニシテ肉碎器ニカケ均等狀態トシ再ビ機ニカケ太サ三分適當ノ長サニ作成ス	最少 五八〇立(一月六日)
及調餌方法		周圍ノ環 杉雜木林ニ圍繞セラレ附近一帶ハ農林省禁獵區ニ
投餌時期及方法	自四月 前記混合餌料ヲ散飼ス 至十二月 産卵前一ヶ月休餌	坪當重量 指定セラレ
	一回ノ投餌 三四 回 一日ノ投餌 數	坪當重量 六五八匁
	但シ十月ヨリ午後三時トス	

天然餌料ノ多寡	主ナル種類	誘蛾燈ノ種類	及其個數	無シ
親魚ノ系統	昭和六年青森縣十二湖ヨリ移殖ス			
親魚ノ漁獲方法	全池水排除捕獲	配合親魚ノ年齢及大サ	雌四年魚(全長)四一、五cm(體重)一、〇八五gr	孕卵數 一、二六〇粒
卵 徑	最大〇、四五cm 平均〇、四二cm 最小〇、四〇cm	一個ノ卵ノ重サ	最大〇、〇五三gr 平均〇、〇五二gr 最小〇、〇五一gr	卵色 薄紅 採取法 採卵ノ方法ニ依リ採取ス
受精ノ方法	乾導法 受精當時ノ天候 二月七日午前十時天候晴氣溫三、五度水温七、五度	其他ノ條件	アットキンス式	試驗卵ノミ 孵化器内ノ試験卵ノミヲ一
孵化器ノ種類	アットキンス式	孵化器ノ種類	アットキンス式	試驗卵ノミ 孵化器内ノ試験卵ノミヲ一
孵化用水ノ種類	湧水	孵化用水ノ量	一分間ニ	孵化器内ノ試験卵ノミヲ一
發眼迄ノ檢卵毎ノ死卵數	第一回 檢卵 二月十日 五六粒 第二回 檢卵 二月十八日 一二粒 第三回 檢卵 二月二十六日 四〇粒 第四回 檢卵 三月六日 一五粒 第五回 檢卵 三月十二日 五五粒	發眼日數	最短二九日 最長三四日 最多自三〇日至三四日	發眼迄ノ總死卵數及率 一八八粒 一四、〇九%
注 意	地府縣へ發送スル場合ハ下記事項ヲモ記入ノ上本表ヲ送付スベシ發眼率(八五、七九%)			
送付先ノ場名	群馬縣水産試驗場	送付卵ノ發眼後ノ日數	六日	發送時ノ天候 十二年三月十七日午前十一時
荷造ノ方法	杉板製幅九寸行七寸五分高六寸木箱ニ卵盆四寸×六寸五分厚五分一枚同寸法ノ上下各一枚ノ空枠ヲ入れ水苔及ビ雪ヲ詰メ保溫濕度ヲ保タシム	運搬經路	谷内發外丸驛間ハ人肩ニ依リ外丸ヨリ客車便ニ依ル	
備 考	發眼後ノ死卵數 三月十五日……一六 三月十七日……二一 三七粒			
注意	發眼後發送迄ノ間ニ檢卵ヲ行ヒタル場合ハ備考欄ニ記入スルコト			

乙表	鱒族飼育改良試験	群馬縣水産試驗場
試驗施行地	勢多郡南橋村	試驗魚種 虹 鱒

種卵原產地	新潟縣水産試驗場 一種卵到着時日 三月十八日午前八時		運搬所要時間	二一時間
運搬距離	汽船一七六、八軒 八時間七分 自轉車五軒一〇分 荷造完否 完 全		運搬所要時間	二一時間
運搬器内ノ温度	三、〇度 運搬中ノ斃死卵數ナシ		孵化器ノ種類	ストオン式
孵化用水ノ種類	一、〇三五粒 孵化器内ノ收容狀況 一、〇三五粒ヲ孵化盆一枠ニ納メ一孵化槽ニ收容ス		孵化用水ノ水温	最高九、〇度 四月二十日平均七、三度 最低四、〇度 三月十九日平均七、三度
發眼後ノ檢卵數	第一回 檢卵 三月二十二日 五粒	第二回 檢卵 三月二十六日 七粒	第三回 檢卵 三月二十九日 八粒	第四回 檢卵 四月五日 三〇粒
受胎率	最短四六日 最长五七日 最多日自五〇日至五七日	最短二八日 最长三四日 最多日自三〇日至三四日	平均一六、二度	死卵合計 五〇粒
飼育成績	池 注水量 五、〇立 水質 河水 考 深 度 〇、四m 底質 砂礫 備 面 積 一、三一m <sup>2</sup> ×一、二一m <sup>2</sup> 形状 方形 水温 最高二一、九度 七月二十八日 平均一六、二度 最低一〇、三度 四月二十三日 飼 料 魚粉一 干鈣一 生蝸二 大麥五 肝臟一 配合ノ割合及方法 大麥ハ煮沸シテ肉挽器ニテ粘狀トナシタルモノニ他物ヲ混入セリ 取揚總尾數 四〇三尾 取揚總重量 九四三gr 總死魚數 三〇八尾 不明減耗 六二尾 歩留率 收容卵ニ對シ三八、九% 放養魚ニ對シ五二、三% 取揚魚ノ大サ 最大 體長六、五cm 體重四、五gr 最小 體長三、一cm 體重〇、七五gr			

三月二十五日孵化始ム 四月五日孵化終ル

備考

取揚魚大サ(相關表) 50尾

體長	3.0-3.5	3.5-4.0	4.0-4.5	4.5-5.0	5.0-5.5	5.5-6.0	6.0-6.5	6.5-7.0	7.0-7.5	7.5-8.0	8.0-8.5	8.5-9.0	9.0-9.5	9.5-10.0
尾數	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14

孵化期中三月二十九日死魚一  
 四月五日同二 畸形兒三八尾抽出  
 四月二十二日浮上始ム  
 二十四日給餌開始  
 二十八日全部浮上  
 放養迄ノ死魚數 一七四尾  
 放養後斃死數 七三尾  
 不明減耗 六二尾

鯨族飼育改良試驗

日數	月日	天候	水温	投餌量	死魚數	備	考
一	四、二四	晴	10.2	10	1	水濁	同
二	二五	晴	10.2	10	1	水濁	同
三	二六	晴	10.2	10	1	水濁	同
四	二七	晴	10.2	10	1	水濁	同
五	二八	晴	10.2	10	1	水濁	同
六	二九	晴	10.2	10	1	水濁	同
七	三〇	晴	10.2	10	1	水濁	同
八	五一	晴	10.2	10	1	水濁	同

群馬縣水産試驗場



投餌時期及方法	自五月至十二月	一回ノ投餌量	二五瓦	一回ノ投餌回数	午前一回 午後一回
天然餌料ノ寡多及主ナル種類	昆蟲類	誘蛾燈ノ種類及其ノ燈數	ナシ		
親魚ノ系統	大正六年相坂養魚場ヨリ移殖ス				
親魚捕獲方法	川村式捕魚機	配合親魚ノ年齡及大サ	雄(不明)年魚(全長)四九種(體重)一、〇一〇瓦 六〇〇瓦	孕卵數	一、七三五粒
卵	最大〇、四種(平均)〇、四種	卵ノ重サ	最大〇、〇八瓦(平均)〇、〇八瓦	卵色	赤色採卵方法
受精方法	乾導法	受精當時ノ天候及其他ノ條件	四月十二日午前十時天候晴氣溫五、六度、水溫九、二度、室内	採出法	
孵化器ノ種類	机形	孵化器内ノ收容卵數	一、七三五粒	孵化器ノ構造	
孵化用水ノ種類	湖沼水	孵化器内ノ水温	最高一〇、八度(五月廿七日) 最低八、五度(五月十八日) 平均九、七度	收容當時ノ水温	九、二度
發眼迄ノ檢卵數	第一回檢卵 四月十五日二〇粒	第二回檢卵 四月十九日七粒	第三回檢卵 四月二十二日七粒	第四回檢卵 四月二十四日四五粒	第五回檢卵 四月二十八日三〇粒
發眼日數	最短一七日 最長一九日	最多自一七日至一八日	發眼迄ノ總死卵數及率	一〇九粒 九三、七一%	
(注意)	他府縣へ發眼卵ヲ送付スル場合ハ下記事項ヲモ記入ノ上本表ヲ送付スルコト				
送付先試驗場名	群馬縣水産試驗場	送付卵ノ發後ノ日數	八日	發送時日天候及氣溫	十二年五月七日午前九時三十分雨一〇、二度
荷造方法	木箱ニ詰メ水苔荷造	運搬方法及運搬路	十二湖養魚場ヨリ松神驛マデ人肩ニテ運搬ス		
備	發眼後ノ死卵數 五月七日 四〇粒				
注意	發眼後發送迄ノ間ニ檢卵ヲ行ヒタル場合ノ死卵數ハ備考欄ニ記入スルコト				

乙表 鱒族飼育改良試驗 群馬縣水産試驗場 試驗魚種 虹 鱒

種卵原產地	青森縣十二湖養魚場	種卵到着時日	十二年五月八日午前十時三十五分	運搬所	二五時間五分
運搬距離	汽車 五八四、二杆 二四時間三〇分 自轉車 五杆 二〇分	及天候氣溫	晴 一四、一度	要時間	
運搬器内ノ温度	六、〇度	運搬中ノ死卵數	六	荷造完否	完 全
孵化器内ノ收容卵數	一五八〇粒	孵化器内ノ收容狀況	一五八〇粒ヲ一枠ニ納メ一孵化器ニ收容ス	孵化器ノ種類	ストオン式
孵化用水ノ種類	河水井戸水	孵化用水ノ水量(一分間ニ流)	二八立	孵化器内ノ水温	
發眼後ノ檢卵數	第一回檢卵 五月十日一二粒	第二回檢卵 五月十三日二七粒	第三回檢卵	第四回檢卵	死卵合計 二八六粒
受精ヨリ發眼迄ノ日數	最短二八日 最長三三日 最多日自三〇日至三三日	孵化率	八七、八%	畸形率	一三、一%
臍囊吸收日數	最短一七日 最長二四日 最多日自二〇日至二四日	放養尾數	一、二二二尾		
飼	面積 一、三二米×一、二二米	形狀	方形	水温	最高二三、七度 八月二十日 最低一〇、八度 六月八日
池	深度 〇、四米	底質	砂礫	備	
注水量	五〇立	水質	上流池ノ排水	考	
餌料ノ種類	魚粉一 干魷一 生蛹二 大麥五 肝臟一				
配合ノ割合	大麥ハ煮沸シテ肉挽器ニテ粘狀トナシ他物ヲ混入ス				
取揚總尾數	二七尾	取揚總重量	四九、五瓦	總死魚數	二三、五尾
取揚魚ノ大サ	最大 體長五、八種 體重四、五瓦	最小 體長三、二種 體重〇、六瓦			
收容卵ニ對シ	收容率 一、八%	收容魚ニ對シ	二、二%		

日數	月日	天候	午前	午前	午後	午後	水温	水温	飼量	死魚數	備考
一六	一一	曇	同	同	同	同	19.8	19.7	0.1	0	一日三回給餌
一七	一二	曇	同	同	同	同	19.9	19.8	0.1	0	
一八	一三	曇	同	同	同	同	20.0	19.9	0.1	0	
一九	一四	曇	同	同	同	同	20.1	20.0	0.1	0	
二〇	一五	曇	同	同	同	同	20.2	20.1	0.1	0	
二一	一六	曇	同	同	同	同	20.3	20.2	0.1	0	
二二	一七	曇	同	同	同	同	20.4	20.3	0.1	0	
二三	一八	曇	同	同	同	同	20.5	20.4	0.1	0	
二四	一九	曇	同	同	同	同	20.6	20.5	0.1	0	
二五	二〇	曇	同	同	同	同	20.7	20.6	0.1	0	
二六	二一	曇	同	同	同	同	20.8	20.7	0.1	0	
二七	二二	曇	同	同	同	同	20.9	20.8	0.1	0	
二八	二三	曇	同	同	同	同	21.0	20.9	0.1	0	
二九	二四	曇	同	同	同	同	21.1	21.0	0.1	0	
三〇	二五	曇	同	同	同	同	21.2	21.1	0.1	0	
三一	二六	曇	同	同	同	同	21.3	21.2	0.1	0	
三二	二七	曇	同	同	同	同	21.4	21.3	0.1	0	
三三	二八	曇	同	同	同	同	21.5	21.4	0.1	0	
三四	二九	曇	同	同	同	同	21.6	21.5	0.1	0	
三五	三〇	曇	同	同	同	同	21.7	21.6	0.1	0	
三六	三一	曇	同	同	同	同	21.8	21.7	0.1	0	
三七	三二	曇	同	同	同	同	21.9	21.8	0.1	0	
三八	三三	曇	同	同	同	同	22.0	21.9	0.1	0	
三九	三四	曇	同	同	同	同	22.1	22.0	0.1	0	
四〇	三二	曇	同	同	同	同	22.2	22.1	0.1	0	
四一	三三	曇	同	同	同	同	22.3	22.2	0.1	0	
四二	三四	曇	同	同	同	同	22.4	22.3	0.1	0	
四三	三三	曇	同	同	同	同	22.5	22.4	0.1	0	
四四	三四	曇	同	同	同	同	22.6	22.5	0.1	0	
四五	三三	曇	同	同	同	同	22.7	22.6	0.1	0	
四六	三四	曇	同	同	同	同	22.8	22.7	0.1	0	
四七	三三	曇	同	同	同	同	22.9	22.8	0.1	0	

日數	月日	天候	午前	午前	午後	午後	水温	水温	飼量	死魚數	備考
一六	一一	曇	同	同	同	同	19.8	19.7	0.1	0	一日三回給餌
一七	一二	曇	同	同	同	同	19.9	19.8	0.1	0	
一八	一三	曇	同	同	同	同	20.0	19.9	0.1	0	
一九	一四	曇	同	同	同	同	20.1	20.0	0.1	0	
二〇	一五	曇	同	同	同	同	20.2	20.1	0.1	0	
二一	一六	曇	同	同	同	同	20.3	20.2	0.1	0	
二二	一七	曇	同	同	同	同	20.4	20.3	0.1	0	
二三	一八	曇	同	同	同	同	20.5	20.4	0.1	0	
二四	一九	曇	同	同	同	同	20.6	20.5	0.1	0	
二五	二〇	曇	同	同	同	同	20.7	20.6	0.1	0	
二六	二一	曇	同	同	同	同	20.8	20.7	0.1	0	
二七	二二	曇	同	同	同	同	20.9	20.8	0.1	0	
二八	二三	曇	同	同	同	同	21.0	20.9	0.1	0	
二九	二四	曇	同	同	同	同	21.1	21.0	0.1	0	
三〇	二五	曇	同	同	同	同	21.2	21.1	0.1	0	
三一	二六	曇	同	同	同	同	21.3	21.2	0.1	0	
三二	二七	曇	同	同	同	同	21.4	21.3	0.1	0	
三三	二八	曇	同	同	同	同	21.5	21.4	0.1	0	
三四	二九	曇	同	同	同	同	21.6	21.5	0.1	0	
三五	三〇	曇	同	同	同	同	21.7	21.6	0.1	0	
三六	三一	曇	同	同	同	同	21.8	21.7	0.1	0	
三七	三二	曇	同	同	同	同	21.9	21.8	0.1	0	
三八	三三	曇	同	同	同	同	22.0	21.9	0.1	0	
三九	三四	曇	同	同	同	同	22.1	22.0	0.1	0	
四〇	三二	曇	同	同	同	同	22.2	22.1	0.1	0	
四一	三三	曇	同	同	同	同	22.3	22.2	0.1	0	
四二	三四	曇	同	同	同	同	22.4	22.3	0.1	0	
四三	三三	曇	同	同	同	同	22.5	22.4	0.1	0	
四四	三四	曇	同	同	同	同	22.6	22.5	0.1	0	
四五	三三	曇	同	同	同	同	22.7	22.6	0.1	0	
四六	三四	曇	同	同	同	同	22.8	22.7	0.1	0	
四七	三三	曇	同	同	同	同	22.9	22.8	0.1	0	



五月十日 孵化始ム  
五月十五日 孵化終ル  
五月二十七日 浮上始ム  
六月一日 給餌開始  
六月三日 全部浮上  
孵化期中死魚 一八尾 畸形兒 一三尾  
浮上迄ノ死魚 四一尾  
放棄尾數 一、二、二尾



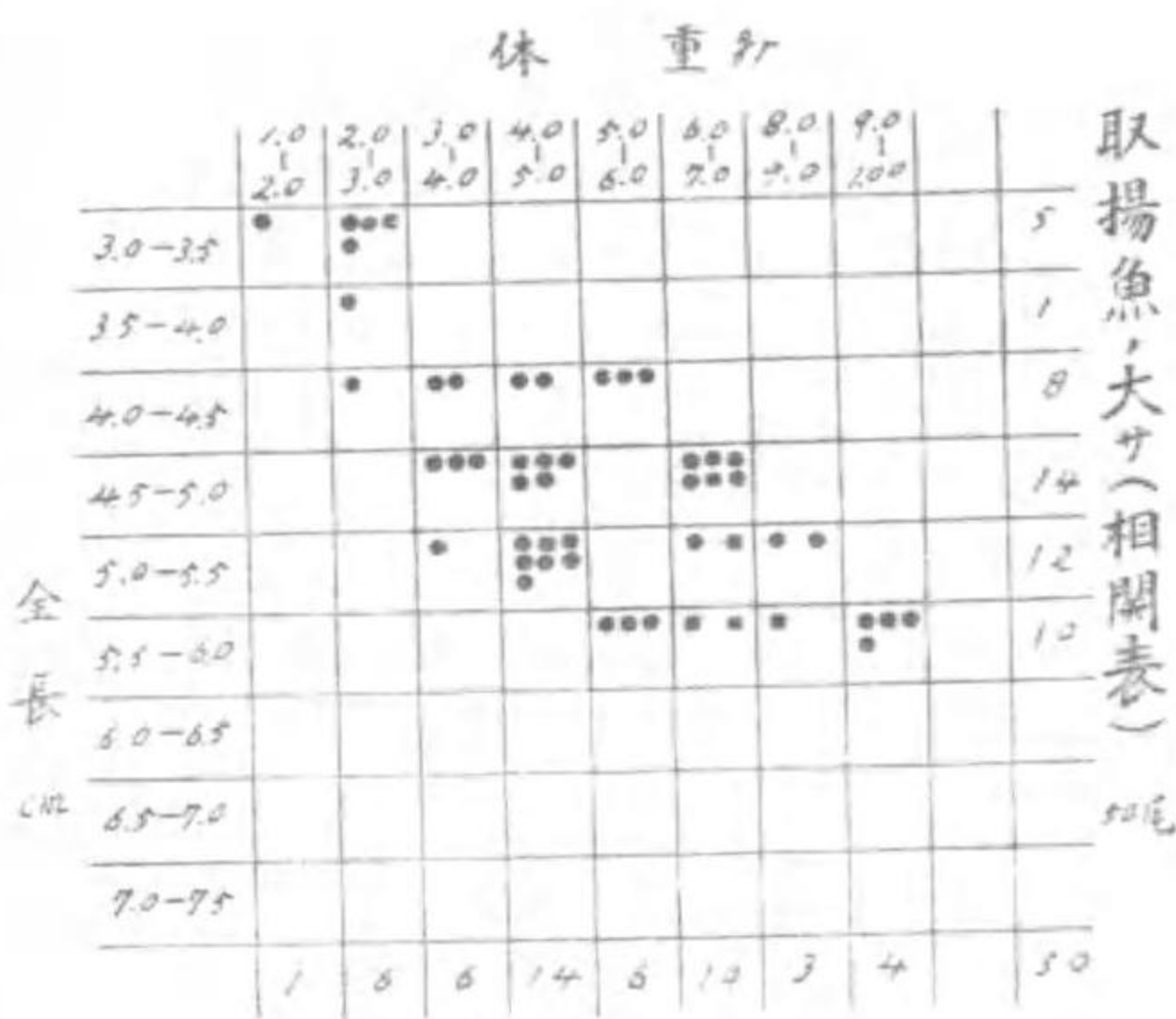


乙表 鯨族飼育改良試驗  
 試驗施行地 群馬縣利根郡川場村 川場養魚場  
 試驗魚種 河 鱒

種卵原產地	山形縣月山養魚場	種卵到着時日	一月十六日午後六時三〇分	運搬所要時間	三七時間
運搬距離	汽車四五三、三軒 二〇時間 人夫携行三四、〇軒 一六時間 四、五度 運搬中ノ斃死卵數 ナシ	及天候氣溫	曇 一月十二日午後六時三〇分 曇 一月二二〇度	荷造完否	完 全
運搬器内ノ溫度	四、五度	收容當時ニ於ケル 孵化用水ノ水溫	七、六度	孵化器ノ種類	ストオン式
孵化盆一枚ノ收容卵數	二、二一七粒	孵化器内收容狀況	長一間半ノ孵化槽ノ中央部ニ孵化盆一枚ニ收容ス	孵化用水ノ種類	湧水
孵化用水ノ種類	湧水	孵化用水ノ水量(一分間ニ流 入スル量ヲ立ニテ表ハス)	四〇立	孵化用水ノ水溫	最高一〇、二度 最低六、四度 平均七、四度
發眼後檢卵數	第一回檢卵 一月二十五日三八粒 第二回檢卵 二月四日二一粒 第三回檢卵 二月十四日二五粒 第四回檢卵 二月二十一日十二粒	發眼後檢卵數	第一回檢卵 一月二十五日三八粒 第二回檢卵 二月四日二一粒 第三回檢卵 二月十四日二五粒 第四回檢卵 二月二十一日十二粒	死卵合計	九六粒
受造ヨリ解 化迄ノ日數	最短一〇日 最長一〇四日 最多日自一〇〇日至一〇二日	孵化率	九五%	畸形率	
臍囊吸收日數	最短三〇日 最長四三日 最多日自三日至四〇日	放養數	一、九一二尾	水温	最高二二、七度 最低一二、一度
飼育池	面積 〇、五坪 深度 一尺 底質 板張 水質 湧水	備考			
飼料ノ種類 配合ノ割合 及調製方法	肝臟、生鹽、蠟肝臟、魚粉、鮫、小麥粉ヲ混合シテ投與ス 配合ノ割合ハ在庫狀況ニ依リ一定セズ 麥魚粉ハ煮沸シ他ノモノハ生ノマ、用フ				

取揚總尾數 七一二尾 取揚總重量 三、四九〇瓦 總死魚數 一五七尾 步留率 三七%  
 取揚魚ノ大サ 最大 全長五、五種 體重八、九瓦 最小 全長三、〇種 體重一、〇瓦

考 孵化後放養迄ノ斃死魚數



鯨族飼育改良試驗		飼育日誌		群馬縣水産試驗場	
日數	月日	天候	水温	投餌量	死魚數
三	一四	曇	10.1	0.1	0
二	一五	曇	10.1	0.1	0
一	一六	曇	10.1	0.1	0
七	二一	曇	10.1	0.1	0
六	二二	曇	10.1	0.1	0
五	二三	曇	10.1	0.1	0
四	二四	曇	10.1	0.1	0
三	二五	曇	10.1	0.1	0
二	二六	曇	10.1	0.1	0
一	二七	曇	10.1	0.1	0

八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五
二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八
同晴	曇	曇	曇	同曇	曇	同曇	同曇	同曇	同曇	同曇	同曇	曇	曇	曇	快晴	曇	雨
1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一〇	九九	九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三
一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	三〇	二九	二八	二七	二六
同同	同同	同同	曇曇	曇曇	曇曇	曇曇	曇曇	同曇	曇曇	曇曇	曇曇	曇曇	曇曇	曇曇	同曇	同曇	曇
1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

餌料ニ依ル新仔養成比較試験

一、趣 旨  
最近鯉養成ノ主要餌料タル生蛹ノ高騰ノ爲養鯉業者殊ニ新仔養成業者中ニハ乾燥蛹ヲ之ニ代用スルモノ漸次多キヲ加フル  
機運ニ向ヒツアルヲ以テ之ガ兩者ノ比較試験ヲ實施シ以テ經濟關係ヲ調査シ業者ノ參考ニ資セムトス

二、試験期間  
昭和十二年八月一日ヨリ十一月二十五日ニ至ル一七七日間

三、供試鯉兒

三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七
九	八	七	六	五	四	三	二	一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一
快晴	曇	曇	同曇	快晴	曇	快晴	雨	同曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	四〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六
七	六	五	四	三	二	一	三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇
曇雨	曇	同同	同同	快晴	同曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

本場ニ於テ採卵養成セル鯉兒一尾約一匁強ノモノ

四、試驗池 本場鯉兒養成池第二及第四號池ヲ使用ス其ノ面積次ノ如シ

第二號池三〇〇坪 第四號池一九〇坪

五、放養尾數

放養尾數ハ坪當各々五十尾ノ割合ヲ以テ左ノ通り放養ス

第二號池 放養尾數一五、〇〇〇尾 同貫數一六貫五〇〇匁

第四號池 同 九、五〇〇尾 同貫數 九貫五〇〇匁

六、餌料ノ種類並投餌量

餌料ハ單一トセズ各々小割麥ノ混合トセリ、生蝸ハ其ノ儘「チヨツパー」ニテ粉碎シ乾燥蝸ハ一旦之ヲ煮沸後同様粉碎シ煮上ゲタル小割麥ト混合ス池別總投餌量次ノ如シ

第二號池 乾燥蝸 一〇七貫三五〇匁 小割麥 一石一二五(煮上一〇四、二〇〇匁)

第四號池 生蝸 三一九貫一〇〇匁 小割麥 一石二六〇(同 一一六、一〇〇匁)

七、増重量

池別 放養當時 取揚當時 増重量 坪當生産量

第二號池 一六貫五〇〇匁 一〇四貫二五〇匁 八七貫七五〇匁 三四七匁

第四號池 一〇貫四五〇匁 一一貫二〇〇匁 一〇〇貫七五〇匁 五三三匁

八、生産費(餌料費)

生蝸七、五〇〇匁金壹圓貳拾錢乾燥蝸九、七〇〇匁ヲ金壹圓七拾錢小割麥一石ヲ拾壹圓トスレバ一貫匁生産ニ要スル餌料費

次ノ如シ

乾燥蝸十小割麥 一圓八錢

生蝸十小割麥 一圓二錢

九、結果

乾燥蝸ヲ主要餌料トセル場合ト生蝸ヲ主要餌料トセル場合トヲ比較スルニ前者ハ坪當ノ生産量少ク且ツ餌料費ニ於テモ新仔増重量一貫匁ニ付金壹圓八錢ヲ要シ後者ニ比シ六錢ノ超過ヲ見タリ

### 活ミシス移殖試験

本場ニ於テハ年々霞ヶ浦産公魚卵ヲ移殖シ、其ノ効果ヲ舉グツアルモ、近時移殖水面ニ於テ公魚ノ發育旺盛ナル結果動モスレバ其ノ天然餌料タル小甲殻類ノ不足ヲ告グントスル傾向ニアリ。依テ之ガ補給策ノ一トシテ、茨城縣霞ヶ浦産ミシスヲ移殖シテツノ蕃殖ヲ期待スルコトトセリ

一、移殖シタルミシス

ミシス體長十二乃至十五匁、體重一匁ニ付三百六十尾内外ノモノナリ。雌ハ移殖當時抱卵セルモノ多數アリテ、孕卵數ハ三十四、五個ナリ

二、輸送方法

容器ハペンキ塗鐵板製角籠ニシテ、長一尺七寸、幅一尺三寸、深サ九寸之ニ木製枠ヲ圍ラシ外部ヨリノ衝擊ヲ防グ装置トセリ。籠ノ上面ニハ内容物ノ出入口トシテ徑三寸ノ孔ヲ穿テ、之ノ蓋ニハゴム製パツキングヲ附シ、液體及氣體ノ漏洩ヲ防グ装置トス。此ノ容器内深サ六寸迄水ヲ充シ之ニ活ミシス百四十匁乃至百五十匁ヲ收容シ、更ニ酸素瓦斯ヲ入レテ密封セリ土浦驛ヨリ前橋驛迄ハ鐵道客車便ニ依リ、前橋驛ヨリ放流地點迄ハ便宜上乗用自動車ヲ使用セリ

三、放流成績表

月日	時刻	天候	氣温	容器内水温	放流場所水温	放流場所	放流數量	生存率
三月十九日	午前九時三十分	快晴	四、〇	九、二	四、〇	榛名湖東岸	四三〇	九五
同	午前十時三十分	同	八、〇	九、二	八、五	榛名湖西岸	五七〇	九五
三月三十一日	午前八時四十五分	薄曇	一一、〇	一一、〇	一一、五	三名川貯水池大谷池(其一)	四〇〇	二〇
同	午前九時〇分	同	一一、〇	一一、〇	一一、五	同(其二)	二〇〇	二〇
同	午前九時十分	同	一一、〇	一一、七	一一、二	小宮地	二〇〇	二〇
同	午前九時二十分	同	一二、五	一一、八	一一、七	高木地	二〇〇	五〇
計							二、〇〇〇	平均六〇、五

附記 放流場所ハ、湖岸水草アリ、水深二、三尺ノ處ニシテ何レモミシスノ一時安息スルニ適當セリ

### 鯉 煙 製 造 試 驗

#### 趣 旨

養殖魚族中重要ノ地位ヲ占ムル鯉ハ養殖業ノ發達ニ伴ヒ生産過剩ト餌料ノ暴騰等ニ依リ之ガ生産ニ當リ動モスレバ經濟的  
苦境ニ陥ラントスル傾向アリ此時ニ當リ鯉ニ新規加工ヲ施シ時勢ニ適應スル煙製品トナシ養魚利用加工ノ路ヲ開カントス偶  
本縣水産聯合會ニ於テハ鯉ノ煙製品ヲ在支郷土部隊將士ニ慰問品トシテ贈呈セントスル議起リ之カ製造方ヲ本場ニ委囑アリ  
タルヲ以テ本場指導ノ下ニ生鯉百貫ノ煙製ヲ行ヒタリ左ニ其ノ基礎試驗ヨリ終了迄ノ觀察概要ヲ記セントス

#### 煙 室

別圖ノ如ク屋外孤立建物ニシテ下方火爐ノ部ハ煉瓦及コンクリート築造高サ三尺、左右後方三面ニ底部近クニ直徑四寸ノ  
回轉式空氣吸入口ヲ設ケ回轉ニ依リ吸入スベキ空氣ノ量ヲ加減スルコトヲ得底面ハ自然砂土ノ儘ヲ火床トナス  
上方ハ木材ヲ以テ構成シ幅四尺六寸、奥行四尺六寸、高サ六尺外部ハ南京下見板張、内壁及天井裏ハトタン張其中間ニハ  
土砂ヲ填充シテ對熱壁トナス屋根下四壁ニハ長三寸高二寸ノ小窓各二箇ヲ附シ開閉自在排煙換氣用トシ内側壁ニハ下底ヨリ  
四尺七寸ノ高サ以上ニ五寸ノ距離ヲ隔テ、左右並行シテ上方ニ向ヒトタン張リノ木棧ヲ十二段ニ附シ之ニ魚ヲ吊シタル金棒  
ヲ架スルモノトス室ノ前面ハ二箇ノ扉ヨリナリ調理魚ノ出入及ビ作業ニ便ナラシム

一、試驗施行期昭和十二年十二月十日ヨリ十五日間

一、供試魚 本場生産二年生鯉五十尾六貫五百匁

#### 一、調 理 方 法

可成魚體ニ損傷ヲ與ヘザル様腹開トシ内臟ヲ除去セルモノト更ニ腹腔内脊骨ニ沿テ空刀ヲ入レタルモノ及腹開キスルニ當  
リ排泌口ヨリ上方ニ向ヒ鰓蓋部迄切開セルモノト腹鳍胸鳍ノ中間迄切開セルモノ其他二三ノ方法ヲ用ヒタレドモ結局排泌口  
ヨリ鰓蓋迄切開内臟除去セルモノガ外觀及乾燥ノ良好ナルヲ認メラレタリ

尙乾燥度及肉中ニ爽快且ツ煙燻特有ノ香氣ヲ浸透セシムルニハ開腹部ニ一寸三分ノ細棒ヲ挟ミ常ニ腹部ヲ開キ置クヲ要  
ス腹腔内脊骨ニ沿テ空刀ヲ入レタルモノハ乾度香氣ノ浸透ハ良好ナレドモ外觀ヲ損ス點アリ

#### 一、鹽 漬 法

調理セル鯉ハ水洗シテ鹽漬トナス用鹽ハ製品ノ風味ヲ考慮シテ一等鹽ヲ用ヒ左記方法ニ依リ鹽水漬及撒鹽漬トシ比較セリ

- 1、母氏十三度ノ鹽水中ニ二晝夜浸漬同液ニテ洗滌風乾三時間ニシテ煙燻室ニ入レタルモノ
- 2、母氏十五度ノ鹽水ニ二晝夜浸漬三時間風乾煙燻セルモノ
- 3、母氏十五度ノ鹽水漬三時間風乾後煙燻セルモノ
- 4、調理後二割ノ撒鹽漬二晝夜後清水ニテ洗滌風乾四時間後煙燻セルモノ
- 5、調理後二割ノ撒鹽漬三晝夜後清水ニ一時間浸シ鹽拔洗滌後風乾四時間後煙燻
- 6、同上四晝夜ノ鹽漬後同様處置ヲナセルモノ

右ノ結果ヲ見ルニ

- 1、及2、ハ共ニ煙乾一時間位ニシテ魚體ノ生乾トナリシ時ニ肉柔軟トナリ吊鈎ヨリ離脫落下スルモノ多ク製了品ハ肉ノ  
内部ニ鹽味少クシテ其味良好ナラズ
- 3、鹽味稍加リ良好ナル風味アレドモ長期貯藏ニ適セザルモノト思料セラレ
- 4、肉ノ表面ノミ鹽味強シ
- 5、鹽味稍強キ鹹アレドモ長期貯藏品トシテ可ナラン風乾ニ先立チ清水ヲ以テ十分ニ洗滌シ粘液ヲ除去シ鹽拔ヲナス  
要スルニ鹽漬時間ノ長短及分量ハ魚體ノ大小温度及貯藏セントスル期間ノ長短等ニ依リ參酌加減スルハ勿論ナレドモ出來得  
ル限り鹽量ヲ減ジ適當ナル鹽味ヲ得ルニ努ムル必要アリ、鹽漬後清水ニテ洗滌セルモノハ豫メ準備セル鈎(十九番線ビ型鈎)  
ニテ尾柄部ヲ通シテ鐵棒ニ懸吊ス

#### 煙 燻

前記ノ處理ヲナシタル魚ハ煙燻ニ先達チ十分風乾シ魚肉ノ緊縮スル時機ヲ見計ラヒ加熱スベキデアラザレバ魚肉柔軟  
トナリ吊鈎ヨリ離脫落下スル處アリ  
煙室内ニ全部懸吊終リタル時ハ上部及下部ノ窓ヲ開放シ温度ニ注意シ急激ナル上昇ヲ避クルヲ要ス、即チ始メノ一時間位  
ハ攝氏三十度ニテ幾分水分ノ蒸發ヲ見タル頃ヨリ漸次温度ヲ高メ五六十度ヲ保持シテ四時間位煙燻シ第一日煙乾ヲ終リ夜間  
ハ風乾ス以上掲ゲタルハ主トシテ基礎試驗ニ於ケル觀察ノ概要ニシテ次ニ製造成績ヲ記セントス

#### 材 料

本場飼育二年生鯉一百貫  
調理煙燻 調理ハ生鯉二十貫ヲ以テ一回分トナシ鰓及内臟ヲ除去シ四斗樽一本ニ生鯉十貫宛二割ノ撒鹽漬トナシ三貫匁ノ  
壓石ヲ加ヘ三晝夜後取出シテ清水ニテ洗滌一時間乃至二時間鹽拔シ四時間ノ風乾後生櫛薪鋸屑等ニテ第一日ハ三十度内外ニ  
テ四時間煙燻第二日ハ五六十度ニテ六時間第三日ハ七、八十度ニテ六時間ノ煙燻指壓ニ依リ乾燥度ヲ檢シ製了ス其成績次ノ

如シ

- 一、生鯉一百貫 八六五尾 一尾平均一一六匁
- 二、調理後ノ重量 八五貫 殘物一五貫 一割五分
- 三、用鹽一等鹽 九貫三五〇匁 二割ノ撒鹽漬
- 四、燻材 生柄薪四八貫 堅木鋸屑五貫 木炭三貫
- 五、製了品 三九貫六六〇匁 三割九分ノ歩留
- 六、一尾當生産費 金拾七錢五厘

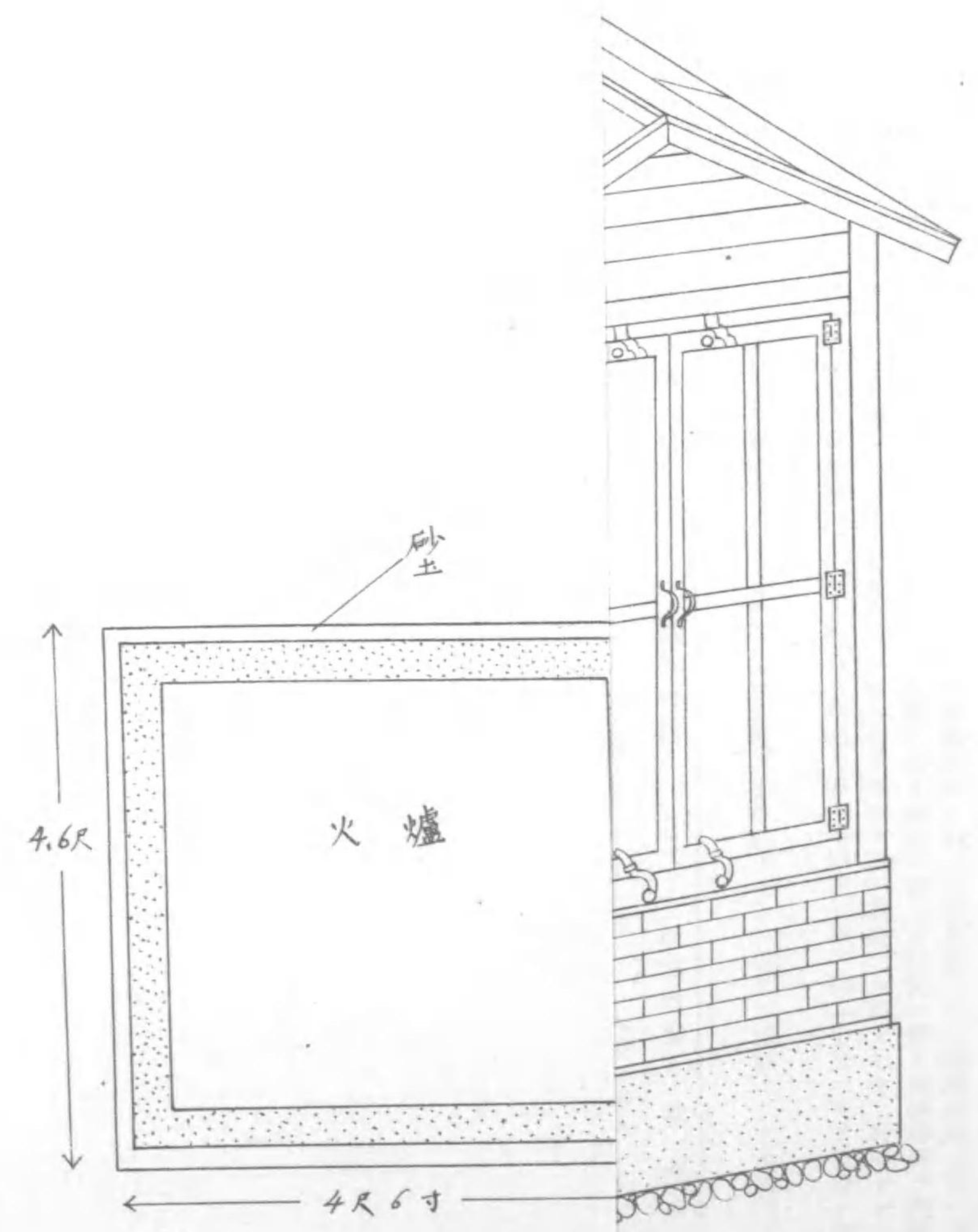
内 譯

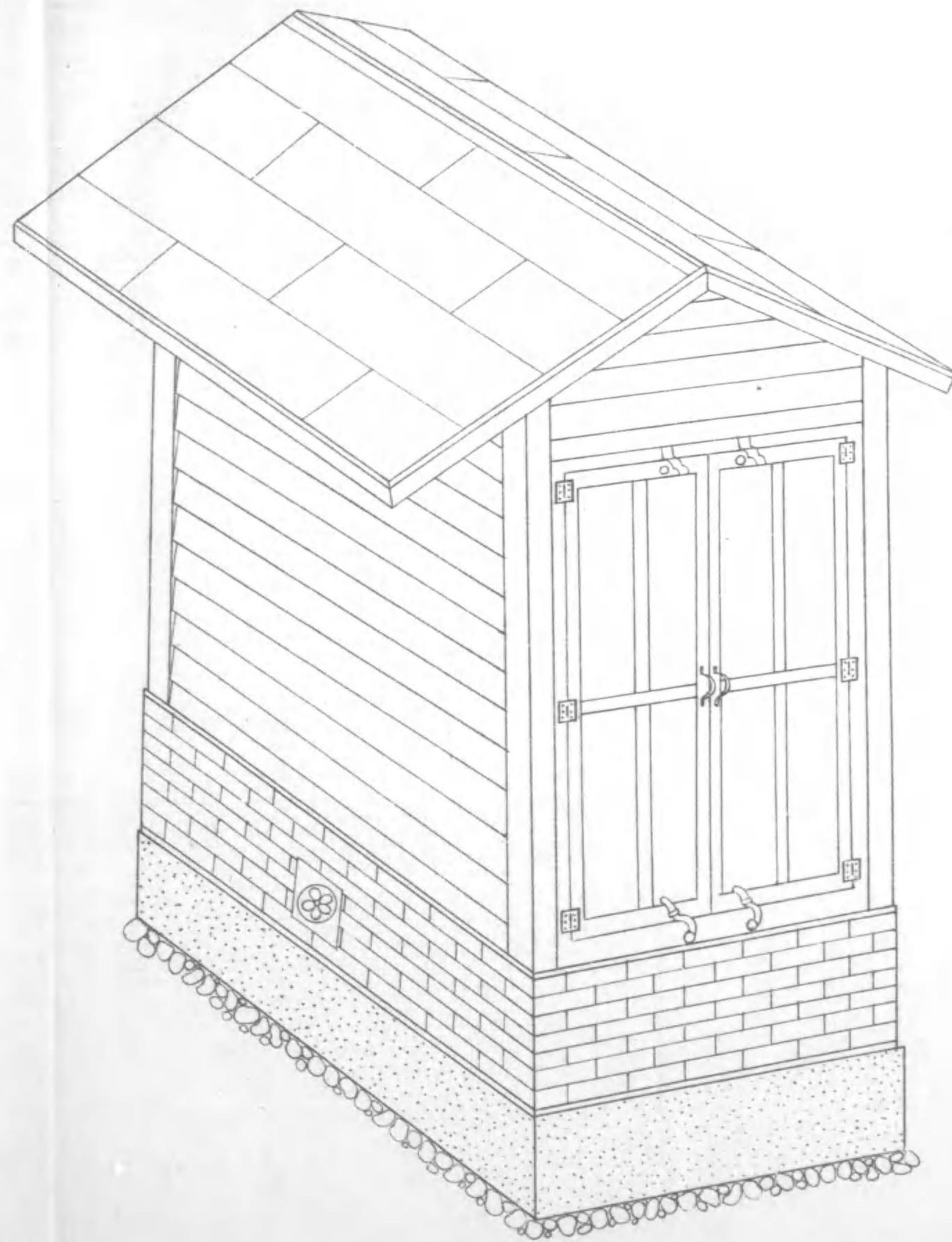
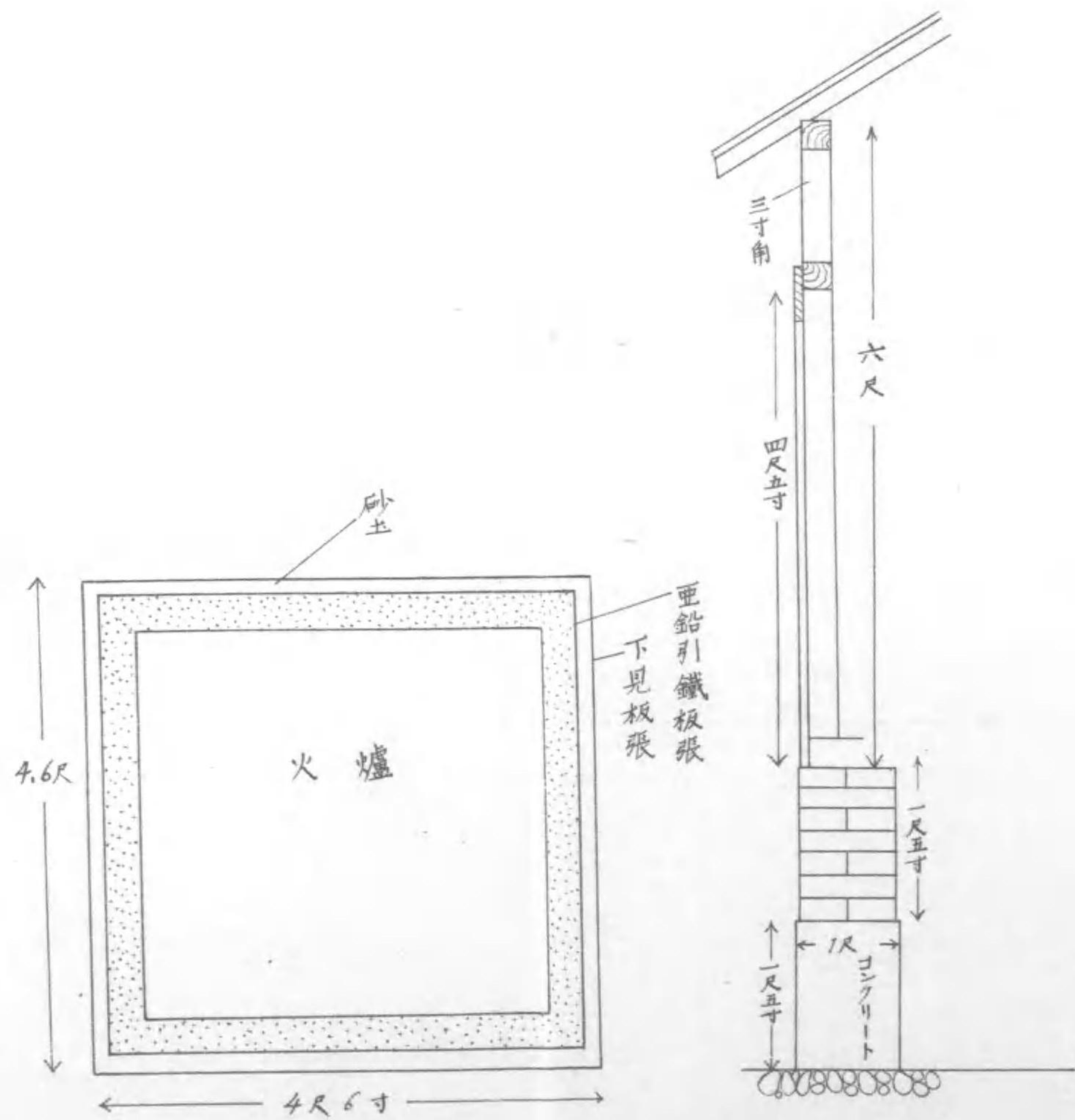
鯉一尾 拾六錢參厘 薪炭 參厘 鹽 五厘 其他 四厘 計 一七、五厘

本試驗ハ單ニ試製ノ程度ニシテ販路ヲ求ムルニ至ラザリシモ製品ハ概シテ好評ヲ得タリ一面鯉ハ腹肉薄キニ加ヘ脂肪多ク燻乾後實際食用トナル部分少ナキ嫌アリ、之ヲ要スルニ本品ハ一般向ニ未ダ需要ヲ喚起セザレドモ漸次販路ヲ求メ今後努力如何ニ依リテハ本縣特産物トシテ有望ナル水産加工品ト爲シ得ベキモノト信ゼラル

### 鯉 冷凍 試驗

- 一、試驗時期 自昭和十二年十一月二十三日至同月二十七日
  - 一、試驗施行場所 前橋市前代田前橋冷蔵株式會社冷凍室
  - 一、供試材料 群馬縣水産試驗場養成二年鯉二十尾(一尾平均體重二百匁)
  - 一、冷凍設備 冷凍室ハ木造建築ニシテ左記ノ防熱壁ヲ有シアンモニヤ直接冷却裝置ニシテ天井及側壁ハコンクリートヲ配備スル空冷式ナリ
- |    |        |     |        |     |
|----|--------|-----|--------|-----|
| 天井 | 木屑     | 四五種 | コルク    | 一〇種 |
| 側壁 | 木屑     | 二五種 | コルク    | 一〇種 |
| 床  | コンクリート | 一三種 | コルク    | 二〇種 |
|    |        |     | コンクリート | 六種  |
- 一、處理及觀察ノ要點
  - (イ) 處理腹部ヲ切開シ内臟及鯉ヲ除去シ水洗シ木製箱ノ内部亞鉛引鐵板張容器ニ各五尾ヲ配列シ凍結室ニ移ス





- 一、供試材料 群馬縣水産試験場  
 一、冷凍設備 冷凍室ハ木造建築ニシテ左記ノ防熱壁ヲ有シアンモニヤ直接冷去装置  
 備スル空冷式ナリ
- |    |        |     |        |     |
|----|--------|-----|--------|-----|
| 天井 | 木屑     | 四五種 | コルク    | 一〇種 |
| 側壁 | 木屑     | 二五種 | コルク    | 一〇種 |
| 床  | コンクリート | 一三種 | コルク    | 二〇種 |
|    |        |     | コンクリート | 六種  |
- 一、處理及觀察ノ要點  
 (イ) 處理腹部ヲ切開シ内蔵及總ヲ除去シ水洗シ木製箱ノ内部亞鉛引鐵板張容器ニ各五尾ヲ配列シ凍結室ニ移ス

(ロ)凍結進行状態 二十三日午前十一時三十分冷凍室ニ入庫、三十分經過シタル時ハ假死状態トナリ各鱗凍結ヲ始ム整形ヲナス、三時間ニシテ魚體表面凍結始メタリ、二十四時間ニシテ指壓ニ依リ弾力ヲ感セズ打診ニ依リ凍結程度ヲ判斷ス(ハ)グリス被覆 魚體表面ノ乾燥ヲ防グト共ニ不潔物ノ附着セザル様魚體ヲ薄氷ヲ以テ被覆ヲス即チ七十二時間ニシテ冷水ヲ用ヒテ容器ニ氷結セル魚體ヲ離脱セシメ如露ニテ少量ノ清水ヲ撒布シ再ヒ凍結室ニ移ス約二十分ニシテ完全ニ薄氷ヲ以テ被覆セリ

本試験ヲ施行スルニ當リ冷凍室ニハ多量ノ入庫物品アリシヲ以テ凍結溫度ヲ充分低下セシメ得ザル状態ナリシモ約四十八時間ニシテ完全ニ凍結シタリ左ニ冷凍中ノ溫度觀測ヲ示サン

經過時間	日	觀測時刻	溫度C	經過時間	日	觀測時刻	溫度C
三〇分	第一日	午前 一〇時	八、三	三〇時三〇分	同	六時	七、二
二時三〇分	同	一二時	七、八	三二時三〇分	同	八時	六、七
四時三〇分	同	二時	七、八	三四時三〇分	同	一二時	六、七
六時三〇分	同	四時	七、二	三六時三〇分	同	二時	六、七
八時三〇分	同	六時	六、七	四〇時三〇分	同	四時	六、一
一〇時三〇分	同	八時	六、七	四二時三〇分	同	六時	六、一
一二時三〇分	同	一〇時	六、七	四四時三〇分	同	八時	八、九
一四時三〇分	同	一二時	六、七	四六時三〇分	同	一〇時	八、九
一六時三〇分	第二日	二時	五、二	四八時三〇分	同	一二時	八、三
一八時三〇分	同	四時	五、二	五〇時三〇分	同	二時	八、三
二〇時三〇分	同	六時	五、二	五二時三〇分	同	四時	七、八
二二時三〇分	同	八時	八、九	五四時三〇分	同	六時	七、八
二四時三〇分	同	一二時	八、九	五六時三〇分	同	八時	七、二
二六時三〇分	同	午後 二時	八、三	五八時三〇分	同	一〇時	七、二
二八時三〇分	同	四時	七、二	六〇時三〇分	同	一二時	六、七
		六時	六、七	六二時三〇分	同	二時	六、七
		八時	六、七	六四時三〇分	同	四時	六、七

調査竝、指導ノ部

六六時三〇分	六八時三〇分
同	同
第四日	同
午前	同
二時	同
四時	同
！	！
七〇時三〇分	七二時三〇分
同	同
同	同
同	同
六時	八時
零下	同
六、一	八、九



調査竝、指導ノ部

六六時三〇分	同	第四日	同	午前	二時
六八時三〇分	同				四時
七〇時三〇分	同				
七二時三〇分	同				
	同				
	同				
八時	同			六時	零下
八、九					六、一

## 三名川貯水池調査

### 一、調査ノ目的

養鯉事業經營ノ參考ニ資スル爲、基本調査ヲ實施セリ

### 二、調査時期

昭和十三年三月二、三日ノ兩日

### 三、三名川貯水池ノ成因

三名川貯水池ハ、灌漑用水貯溜ノ爲縣ニ於テ、昭和四年ヨリ同八年ニ至ル五ケ年ノ日子ト、約三十一萬餘圓ノ巨費トヲ投シ完成セルモノニシテ、天然ノ谷地ヲ利用シ、其ノ地域多野郡美九里村大字三本木及ビ高山ノ二大字ニ跨リ、大谷、小宮高木ノ三貯水池ヨリ成ル

灌漑區域ハ多野郡藤岡町外六ヶ村、六百八十六町歩ニ及ビ水源ヲ三名川ニ求メ當時其ノ一部ヲ引水ス

### 四、形態竝ニ四圍ノ狀況

別紙圖面ニ示スガ如ク、其ノ形態頗ル多岐ヲ極メ、殊ニ大谷池ニ於テ然リトス  
大谷池ハ恰モ樹根狀ヲ爲シ、入江多ク東方ノ大堤防ヲ除ク外ハ殆ド小丘ヲ以テ圍マレ、又小宮池ハ東南方、高木池ハ南方ニ於ケル一部ノ堤防區域ヲ除キテハ、大谷池ト同様小山ヲ以テ圍マル

### 五、面積

満水時ニ於ケル總面積十五町二十四歩ニシテ、此内大谷池最大ニシテ總面積ノ九割餘ヲ占メ十三町二段二十四歩、小宮池最小ニシテ僅ニ四畝十歩、高木池一町七段五畝二十歩ヲ算ス

### 六、深度

三池中深度ノ大ナルハ大谷池ニシテ、工事設計ニ依ル満水時最大水深ハ、十七米七強ナリト稱スルモ、本調査當時(満水)ニ於ケル最深部ハ十五米九ニシテ、灌漑用溜池トシテハ縣下ニ於テ最大ナリ、是ニ反シ小宮・高木兩池ハ共ニ深度小ニシテ、満水時ニ於テ前者ハ最大水深僅カニ三米四、後者ハ三米ニ過ギズ

### 七、水位ノ變化

灌溉用水ノ關係上、水位ノ最モ減ズル季期ハ、七月上旬ノ植付時期ニシテ、過去三ヶ年ニ於ケル大谷池ノ最大水位ハ六米強ニシテ、満水時水深ノ約八分ノ三ヲ減ズ、然レドモ灌溉ニ關係ナキ秋期ヨリ春期ニ亘リテハ概ネ最大水深ヲ維持ス小宮・高木兩池ハ水深小ナルヲ以テ、約二米ノ減水ヲ示ストキハ、各々獨立水位トナリ、水深、水面積共極メテ小トナル即チ別紙圖面ニ示スガ如ク、高木池ヨリ小宮池ニ通ズル水路深ハ満水時一米七五ニシテ、小宮池ヨリ更ニ大谷池ニ通ズル水路深ハ満水時一米九ニシテ満水面ヨリ一米七五ヲ減ズル迄ハ三池連絡一帯ヲ爲ス

八、水 温

水温ハ三池多少ノ變化アリ、表面水温ニ就テ見ルニ、大谷池ニ於ケル最高水温ハ七・二度、最低水温ハ四・七度ナリ、小宮池ハ面積狭小ナルガ故ニ局部的ニ變化ナク六・七度ヲ示セリ、高木池ニ於テハ最高七・三度、最低七・一度ヲ示ス  
次ニ底水温ヲ見ルニ、大谷池ニ於テハ最高四・四度、最低四・二度、高木池ニ在リテハ最高六・九度、最低六・六度、小宮池ニ於テハ六・〇度ヲ示ス  
各池ハ既ニ冬期ノ逆列層ヨリ、夏期ノ正列層型ニ變ジ、表面水温高ク、深度ヲ増ス毎ニ低温トナレリ、試ミニ大谷池ニ於ケル調査第一點ノ垂直的水温變化ヲ見ルニ次ノ如シ

水温	四・七	四・六	四・六	四・六	四・六	四・六	四・六	四・五	四・五	四・四	四・四	四・三	四・二
深度	〇・〇	一・〇	二・〇	三・〇	四・〇	五・〇	六・〇	七・〇	八・〇	九・〇	十・〇	十一・〇	十二・〇

九、水素イオン濃度

大谷池ニ於ケル $[H^+]$ ハ七・一ニシテ弱アルカリ性ヲ示シ、底水ニ於テモ變化ナシ、小宮池及ビ高木池ハ共ニ七・三ヲ示シ、大谷池ニ比シ稍々アルカリ度強シ、中、底水ニ於テモ同様ノ濃度ヲ有ス

十、池 ノ 結 氷

嚴寒即チ一、二月ノ候薄氷ヲ見ル、即チ高木・小宮兩池ハ例年全面結氷ス、大谷池ハ主トシテ灣入部ノミ結氷シ、池ノ中心部ヨリ東方堤防ニ至ル部分ハ風力ノ影響ヲ受ケ結氷ヲ見ルコト少シ

十一、注 入 河 川

注入河川ハ、三名川ヨリ其ノ一部ヲ取水スルモ、冬期ハ其ノ量極メテ少量ニシテ、夏期ハ相當ノ水量ヲ有ス、三名川河水

ハ水路ヲ以テ高木池ノ最南端部ニ引水ス

十二、水 色 及 ビ 透 明 度

大谷池ハ「ホホレル」氏標準色六―七ニシテ、高木・小宮兩池ハ共ニ七―八ヲ示セリ、透明度ハ大谷池ニ於テ五・〇米ヲ示シ、小宮池二・二五米、高木池一・七米ナリ

十三、底 質

大部分黃粘土質ニシテ、僅カニ浮泥沈積ス、所ニ依リ腐蝕土ノ場所アリ

十四、天 然 餌 料

三池共極メテ僅少ナリ、就中動物性プランクトン極少ナリ、大谷池ニ於ケル動物性プランクトンハ、枝角類ニ屬スル *Bosmina longirostris* (O. F. Miller) 及 *Macr. 枝角類*ニ屬スル *Cyclops* sp.ノ各一種ヲ發見スルノミ、小宮池ニ於テハ *Bosmina* sp.ヲ全然發見セス、稀ニ *Cyclops* sp.ヲ發見スル程度ニシテ、高木池ニ於テハ *Bosmina longirostris* (O. F. Miller) 及 *Cyclops* sp. *Nauplius stage*ヲ稀ニ見出ス程度ナリ、尙高木池ニ於テハ此ノ他 *Chironomus*ヲ檢出ス  
次ニ植物性プランクトンヲ見ルニ、殆ド硅藻類ノミニシテ、大谷池ニ於テハ僅カニ *Synedra Ehrenbergi*ヲ發見スルノミ、之ニ反シ小宮池ニ於テハ硅藻類比較的多ク *Synedra Ehrenbergi*, *Navicula Bory*, *Tabularia Ehrenbergi*, *Gymbella Agardh*, *Rhoizosiphonia*, *Pleurosigma* W. Smith, *Stauroneis Ehrenbergi*ヲ檢出シ、高木池ニ於テハ其ノ種類小宮池ト大體變化ナキモ、其ノ數量遙カニ小宮池ニ比シ少シ  
而シテ大谷池ニ於ケル底土表泥ヲ檢鏡スルニ小宮池ト同種ノ硅藻類ノ殘骸ヲ發見シ得タルヲ以テ、或ル季期ニ於テハ大谷池ト雖モ相當蕃殖スルモノト認メラル

十五、水 産 上 ノ 利 用 價 値

冬期ニ於ケル一回ノ調査ヲ以テ直チニ利用價值ヲ云々スルハ、稍々早計ニ失スル嫌アルモ、夏期減水當時ノ狀況ヨリ推ス下キハ、小宮・高木兩池ハ夏期往々涸渴ニ瀕スルコトアルノミナラズ、且ツ面積何レモ小ニシテ、利用價值極メテ僅少ナリ、大谷池ハ面積大ニシテ夏期渇水ノ虞ナキモ水深稍大ニ失シ、粗放の利用ニハ適スルモ、集約の利用ニハ適當セズ、且ツ天然餌料極メテ少キヲ以テ假ニ集約の利用ヲ爲ストスルモ、天然餌料ニ依ル増肉ハ大シテ期待シ得ザルトコロナリ

十六、觀 測 表 (二月二日晴・北風 三日小雨後曇・晴)

大 谷 池 (水面積十三町二段二十四歩)

4	3	2
同	同	同
二、一五	二、一〇	一、三〇
七、二	七、二	七、四
七、三	七、一	七、一
	七、〇	七、〇
六、六	六、八	六、八
一、四五	二、四五	三、〇〇
		七、八
		一、七〇
		七、三
注		
水		
路		

I	地調 點查	高	池	中池 心ノ	地調 點查	小	宮	池	地調 點查	
後 <sub>三月三日</sub>	時	木	池	前 <sub>三月三日</sub>	時	宮	池	12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	時	
一、二〇分	刻	高	池	一、二五分	刻	小	宮	同 同 前 <sub>三月三日</sub> 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 後 <sub>三月三日</sub> 前 <sub>三月三日</sub>	刻	
C	氣	木	池	C	氣	宮	池	同 同 前 <sub>三月三日</sub> 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 後 <sub>三月三日</sub> 前 <sub>三月三日</sub>	C	氣
七、四度	溫	池	池	六、七度	溫	宮	池	六、七 六、七 六、七 九、七 一、二 一、五 一、五 一、五 一、〇 一、五 一、五 一、五 一、〇 一、五 一、五 一、〇 一、五 一、〇 一、五 一、〇 一、五 一、〇	C	氣
C	表	池	池	C	表	宮	池	五、〇 四、八 五、〇 五、一 五、一 五、八 五、八 七、二 四、七 四、九 四、九 五、四 四、七 四、七 四、九 四、九 四、三 四、三 四、三 四、三 四、二 四、二	C	表
七、一度	層	池	池	六、七度	層	宮	池	五、〇 四、八 五、〇 五、一 五、一 五、八 五、八 七、二 四、七 四、九 四、九 五、四 四、七 四、七 四、九 四、九 四、三 四、三 四、三 四、三 四、二 四、二	C	表
C	中	池	池	C	中	宮	池	五、五 四、五 四、六 四、五 四、五 七、四 五、六 五、二 五、〇 四、四 四、四 四、四 四、五 四、五 四、五 四、三 四、三 四、三 四、三 四、二 四、二	C	中
七、〇度	層	池	池	六、六度	層	宮	池	五、五 四、五 四、六 四、五 四、五 七、四 五、六 五、二 五、〇 四、四 四、四 四、四 四、五 四、五 四、五 四、三 四、三 四、三 四、三 四、二 四、二	C	中
C	下	池	池	C	下	宮	池	四、三 四、三 四、二 四、三 四、三 四、二 四、二 四、六 四、四 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、二 四、二	C	下
六、九度	層	池	池	六、〇度	層	宮	池	四、三 四、三 四、二 四、三 四、三 四、二 四、二 四、六 四、四 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、三 四、二 四、二	C	下
	深	池	池		深	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	深
	度	池	池	二、二五	度	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	深
	水	池	池		水	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	水
	色	池	池		色	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	水
	透	池	池		明	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	透
	明	池	池		度	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	明
	度	池	池		度	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	度
	PH	池	池		度	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	度
	備	池	池		考	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	考
	考	池	池		考	宮	池	二、二五 二、二五 一、五九 一、五九 一、四〇 一、四〇 一、三七 八、八〇 三、七五 九、三〇 一、〇一〇 一、〇六〇 一、四、五〇 一、四、五〇 六、七 五、〇〇 七、一	C	考

# 三名川貯水池平面圖

(縮尺約五萬一)

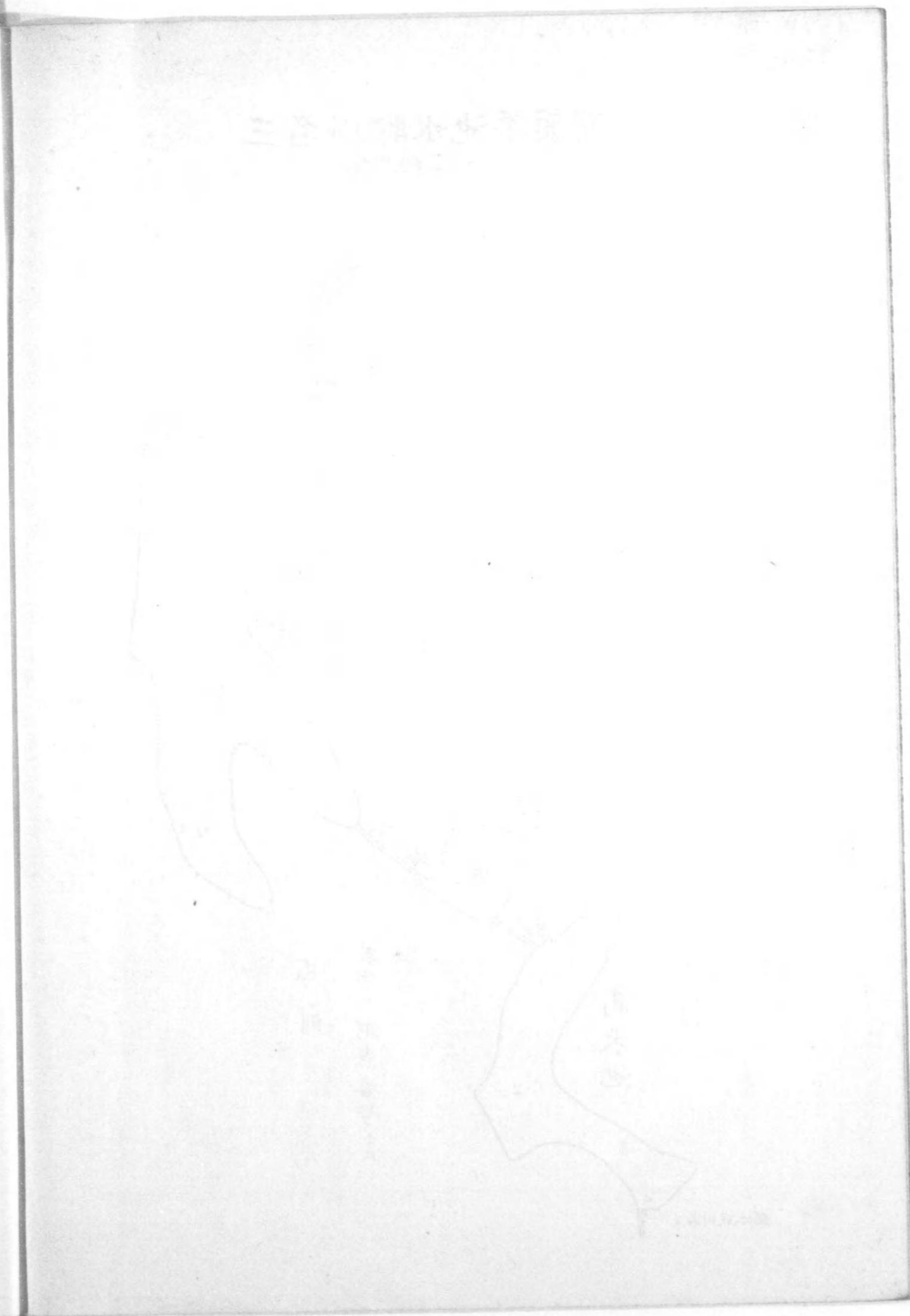


昭和十三年二月二十五日印刷  
昭和十三年三月三十一日發行

### 群馬縣水產試驗場

印刷者 前橋市堅町十番地 深町 牧 太

印刷所 前橋市堅町百一番地 株式會社前橋印刷所



1421  
889

製本控

1421冊	889號	年	月	日
群馬縣水産試驗場報告 第8号 昭和11.12年度				
備考				
冊				

14.27  
889



終